

## 第1章 はじめに

花岡山遺跡は、八尾市北東部にあたる楽音寺一帯に所在しており、地理的には、生駒山地の西側斜面にあたる。この生駒山地西麓一帯は、遺跡の密集する地帯として知られているところである。この付近で最古に遡ることのできる遺跡は、当遺跡の西～南西に位置する大竹遺跡・水越遺跡・恩智遺跡などで、各遺跡からは、縄文時代前期～晚期の土器・石器が出土している。これらの遺跡では、その後の弥生時代から古墳時代を通じての遺構・遺物も検出されており、水越遺跡には玉造工房のあったことが明らかになっている。また、西の山古墳、花岡山古墳(消滅)、向山古墳、心合寺山古墳、愛宕塚古墳、群集墳である高安千塚などの古墳が当遺跡周辺に造営されているほか、当調査地西250mには、発掘調査によって検出された大石古墳がある。歴史時代の遺跡には、心合寺跡、高安寺跡、大光寺跡などをはじめとする多くの寺院跡があり、平安時代後期の瓦窯である向山瓦窯がある。



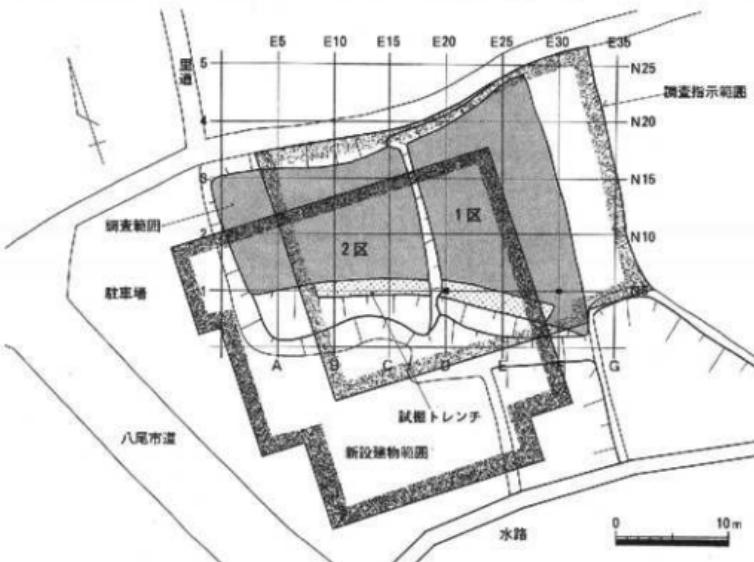
第1図 調査地周辺図 (S = 1/6000)

## 第2章 調査の方法と経過

今回の調査は学校施設建設に伴うもので、昭和61年度から62年度に、花岡山学術調査団・当調査研究会が当該跡内で実施した発掘調査地の北隣に位置する。

建設予定地の現状は、東が高く西が低い3段のテラス状を呈しており、西側の最下段は既に造成され、駐車場となっている。このうち、調査対象となったのは、中央部と東側の2段分である。ここは、草木・竹がしげっていたため、事前に草刈り・伐操作業を行い、その後、発掘調査を行うこととした。

前述のように、調査地は上下2段に分かれているため、上段を1区、下段を2区と呼び、上段から調査を行った。掘削に際しては、試掘調査の結果に従って、まず、表土・耕土等（第1層～第4層）を重機によって掘削し、以下に堆積する中世から近世にかけての遺物包含層（第5層・第6層）を人力によって掘削し、ついでその下に堆積する中世の遺構面（第7層・第8層）上面で、遺構・遺物の検出に努めた。機械掘削は平成3年7月3日から開始し、翌7月4日に終了した。1区は7月4日から人力掘削を開始し、7月16日に調査を終了した。2区は7月9日から人力掘削を開始し、7月24日にすべての調査を終了した。



第2図 調査区設定図 ( $S = 1/500$ )

## 第3章 調査概要

### 第1節 地区割り

地区割りは、八尾市教育委員会の試掘調査の際のポイント杭と敷地境界の杭を利用して、そこから東西・南北に5mごとの点を設けて5m四方の小地区を設定した。東西・南北の各軸は、南西隅の交点を基準点(0)として、そこから5mごとに、東へアルファベットでA～Gとし、北へはアラビア数字で1～5と呼んだ。

小地区的名称は、各地区的北東隅交点を用いて「1 A地区」…「2 B地区」……「5 G地区」とした。

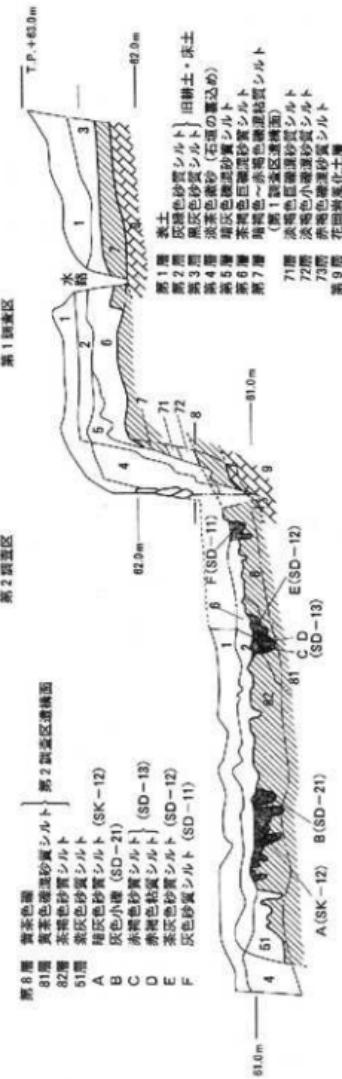
また地点は、基準点(0)から北・東への距離を利用し、たとえば基準点から北へ10m・東へ15mの地点は、「N10・E15」と表示した。

### 第2節 基本層序

調査地の旧地形は、東から西へ下がる緩斜面を呈するが、近世から近代の開発や造成などによってかなりの変化をうけている。このため、両調査区で不安定な土層堆積状況を示しているが、おおむね以下の9層を基本層としてとらえることができた。

第1層：表土、調査区全体は厚さ0.2～0.6mの腐植土層で覆われている。現地表面の標高は、1区がT.P.+62.2～62.9m、2区がT.P.+61.2～61.5mで、約1mの段差がある。

第2層：灰緑色砂質シルト（層厚0～0.25m）、旧耕土または床上と考えられる土層で、1区の北東部では認められなかった。



第3図 調査区北側壁面図  
(S = 水平 1/200、垂直 1/50)

第3層：黒灰色砂質シルト（0～0.25m）、1区の北東部にのみ堆積しており、第2層とともに旧耕土上を構成するものと考えられる。

第4層：淡茶色微砂（0～0.8m）、両調査区の西端にある石垣の裏込めである。

第5層：暗灰色または紫灰色疊混砂質シルト（0～0.35m）、両調査区の西端、第3層の直下、中世の造構面を切る段の上部に堆積する。1区では暗灰色、2区では51層紫灰色を呈する。

第6層：茶褐色巨疊混砂質シルト（0～0.35m）、1区の内側から2区にかけて堆積している土層で、中世から近世にかけての遺物の小破片を若干含んでいる。

第7層：暗褐色～赤茶色疊混粘質シルト（0.2～0.3m）、1区では、この層上面で主に中世の造構を検出した。東部では第3層旧耕土直下に、1区西部および2区では第6層の下に堆積している。この層上面の標高は、T.P.+62.1～62.3mである。これ以下には、西部で褐色系の疊混砂質シルト（71～72層）が0.6～0.7mの厚さで堆積している。

第8層：黄茶色疊（0.2～0.3m）、81層黄茶色疊混砂質シルト（層厚0～0.3m）、82層茶褐色砂質シルト（0.15m以上）がみられる。2区の造構面を構成する土層で、主に東部では第8層、西部では82層が堆積している。この層上面の標高は、T.P.+60.7～61.3mである。これ以下では、両調査区とも、花崗岩の風化土層である巨疊じりシルトが0.5m以上堆積している（第9層）。

### 第3節 検出造構と出土遺物

両調査区では、表上・旧耕土直下で、近世のすき溝を多数検出し、以下の第7層・第8層上面では、中世の上坑15基（SK-1～SK-15）、小穴22個（SP-1～SP-22）、落ち込み2か所（SO-1・SO-2）を検出した。

近世のすき溝は、1区では、南北方向のもの9条（SD-1～SD-9）・東西方向のもの1条（SD-10）、2区では南北方向のもの10条（SD-14～SD-23）、東西方向のも1条（SD-24）があり、複雑に切りあったり、交差したりしている（付表1・2 検出造構一覧表参照）。また、2区の溝SD-11～SD-13は、他の溝よりも規模が大きく、すき溝ではなく、区画の溝、水路としての機能を有するものと考えられる。

ここでは、下層造構のみを記述することとし、上層造構については表のみの記載にとどめる。

#### 1) 1区の概要

1区の造構面の標高は、T.P.+62.2～62.3mを指し、北東が高く南西が低くなっている。調査区中央部の3D・2E・1E地区（N16・E22地点からN0・E28地点）にかけては、南北方向のにぶい段があり、西へ5～10cm程度下がっている。この段は、中世以降近代までの土地区画の段と考えられ、当時は現在よりも狭い区画内で農耕が行われていたものと推定される。

なお、この付近には調査直前まで南北方向の溝があったようである。

この段より西側では近世のすき溝は残っておらず、上層の堆積土も東部は第3層黒灰色砂質シルト、西部は第6層茶褐色巨礫混砂質シルトと、異なっている。

### 土坑 (SK)

#### SK-1

調査区の東端、3F地区で検出した。上面の形状は南北に長い方形で、長辺(南北)1.4m・短辺(東西)1.1m・深さ0.18mを測る。断面の形状は、北から西にかけてにぶい二段の掘り形をもち、底部は平坦である。

内部には、上方から1層赤茶色礫混砂質シルト、2層灰緑色礫混砂質シルト、3層赤灰色礫混砂質シルトがブロック状に堆積し、南側の斜面から底部にかけては、4層植物遺体を含む灰粘土が堆積している。

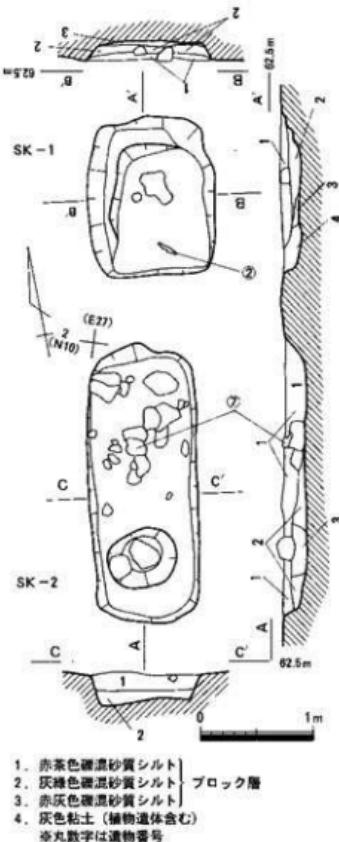
2層から、円板形土製品(1)、瓦釘(2)のほか、瓦器、陶器(美濃焼?)、瓦の小破片などが出土している(第6図)。また、ほぼ中央部には人頭大の花崗岩があり、それ以外にも拳人の自然石が数個認められた。

円板形土製品(1)は、平瓦の転用品で、直径7cm・厚さ1.6cm前後を測る大型のものである。円形に粗く削り取った後、周縁部を粗く削っている。

瓦釘(2)は先端部のみ欠損するもので、全体の長さ19.7cm・幅1.4cm・厚み1.0cm、頭部の長さ1.0cm・幅0.9cm・厚み1.0cmを測る。酸化が進んでおり、遺存状態はやや悪い。

#### SK-2

調査区の東端、2F地区で検出した。SK-1の南約0.8m程度に位置し、長軸はSK-1の長軸に沿っている。上面の形状は南北に長い長方形で、長辺(南北)2.35m・短辺(東西)1.0m・深さ0.16mを測る。断面の形状は浅め



の逆台形で、底部は平坦である。

内部には、SK-1と同じくブロック層である1層赤茶色疊混砂質シルト、2層灰緑色疊混砂質シルトが堆積しており、最下層には一辺30~40cm程度の切石が数個散乱していた。また、南側には、2層上面から切り込む小穴（径0.45m）があり、その上には人頭大の花崗岩が置かれていた。小穴の内部堆積土は3層赤灰色疊混砂質シルトで、須恵質土器または瓦質土器の小破片が数点含まれていた。

2 層内からは、刀子2点(3・4)、瓦質土器すり鉢(5)・壺(6)、平瓦(7)、十師器鉢、瓦器模などのほか、底部からスサや焼上塊などがごく少量出土している(第6図)。

刀子(3)は先端部まで遺存するもので、現存長13.1cm・最大幅1.3cm・厚さ0.5cmを測る。刀子(4)は2分の1程度が欠損するもので、現存長8.1cm・最大幅1.1cm・厚さ0.6cmを測る。

瓦質土器すり鉢（5）には、8本/2.4cmのすり目が遺存しており、内面に炭化物が付着している。瓦質土器甕（6）は底径30.2cmを測る大型のものである。

半瓦(7)は側面を残す破片で、凹面はヘラナデ、凸面には離れ砂の付着がみられる。側面幅2.0cm、厚さ2.6~3.0cmを測る。

SK-3

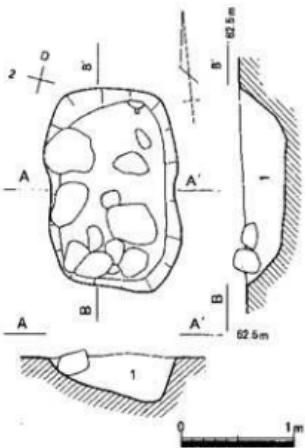
調査区北西部の2E地区、SK-1の西5.5m付近で検出した。長軸の方向は、SK-1・SK-2とほぼ同方向である。I面の形状は南北に長い団丸方形で、長径（南北）1.7m・短径（東西）1.1m・深さ0.4mを測る。断面の形状は半円形で、底部は西下がりである。

内部には灰色礫混粘土が堆積しており、人頭大から一辺40~50cm程度の切石が10数個、雜然とした状態で埋まっていた。

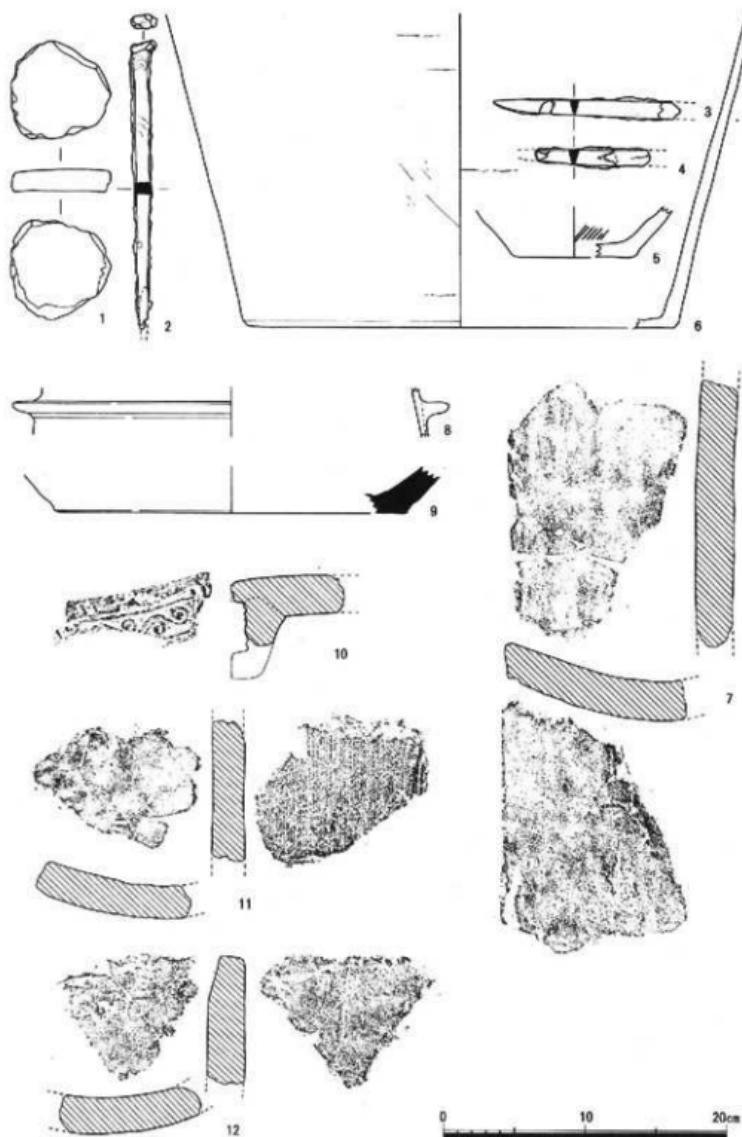
SK-4

調査区の西端中央部、2D～3D地区で検出した。西側は近世～近代の造成の際に削られており、現状での上面の形状は、直径2.4m程度の半円形を呈し、中央東部に直径0.8m程度の円形の掘り込みがある。上段の深さは0.15m・下段の深さは0.2mを測る。下段の肩には、径10cm前後の石がほぼ円形に並んでいた。

内部には茶褐色砂混粘質シルトが堆積しており、土師器羽釜(8)、備前焼すり鉢(9)、瓦質土器大型壺などのほか、軒半瓦(10)・半瓦



第5圖 SK = 3 斷面圖



第6図 SK-1 (1・2)・SK-2 (3~7)・SK-4 (8~12) 出土遺物実測図

(11・12)などの小破片がごく少量出土している(第6図)。

軒平瓦(10)は、額の下部を欠損しており、外区・脇区は素文、1条の界線で内区と画されている。内区の文様は均整唐草文で、復元すれば、中心飾りから葉先が4回転するものと考えられる。半瓦部の凸面には、やや細かい布目痕(8~9目/1cm)と離れ砂の痕跡が認められる。瓦当部と平瓦部の接合は、平瓦部の先端を斜めに切り、瓦当部分を圧着している。現存する瓦当部の幅5.9cm・長さ3.2cm、平瓦部の厚さ1.4cmを測る。平瓦(11)は側面をわずかに残すもので、側面幅1.8cmを測る。凹面はナデ、凸面に綱目タタキ(5条/1cm)がみられる。平瓦(12)は狭端面を残すもので、狭端面の幅1.4cm、水切りは幅2.9cmで面取りされている。凹面・凸面ともに布目痕があり、凹面は7目/1cm<sup>2</sup>、凸面は11目以上/1cm<sup>2</sup>である。

#### 落ち込み(SO)

##### SO-1

調査区の南西隅、1C・1D地区で検出した。前述のように、内部は近世から近代にかけて削かれていることから不明瞭な部分が多いが、旧地形にかかわるものか、半径0.8m程度の範囲で遺構面が南西へ下がっているのを確認した。ここからは、土師器や瓦器などの小破片がごく少量出土している。

#### 2) 2区の概要

2区の遺構面の標高はT.P.+60.7~61.3mを指し、ここでも北東が高く南西が低くなっている。1区同様、現在よりも狭い幅で整地されており、近世までの土地区分が窺える。調査区東部では、1C地区~2C地区のN10・E10地点からN1.8・E14地点にかけてのSD-12・SD-13を境として西へ一段下がっており、調査区西端の1A地区~2A地区のN9・E2地点からN0.5・E3.5地点にかけては、急激に落ち込んでいる。

1区同様、段を挟んで堆積土にも違いがあり、近世の溝SD-12・SD-13より東側の遺構ベースは第8層黄茶色疊、西側は82層茶色砂質シルト、遺構ベース上層の堆積土もSD-12・SD-13より東側は第6層茶褐色疊混砂質シルト、西側は第2層灰緑色砂質シルト、西端の段の上部の堆積上層は51層紫灰色砂質シルトである。

#### 土坑(SK)

##### SK-5

調査区南東隅1D地区で検出したもので、南半分は八尾市教育委員会の試掘調査の際に検出されていたものである。

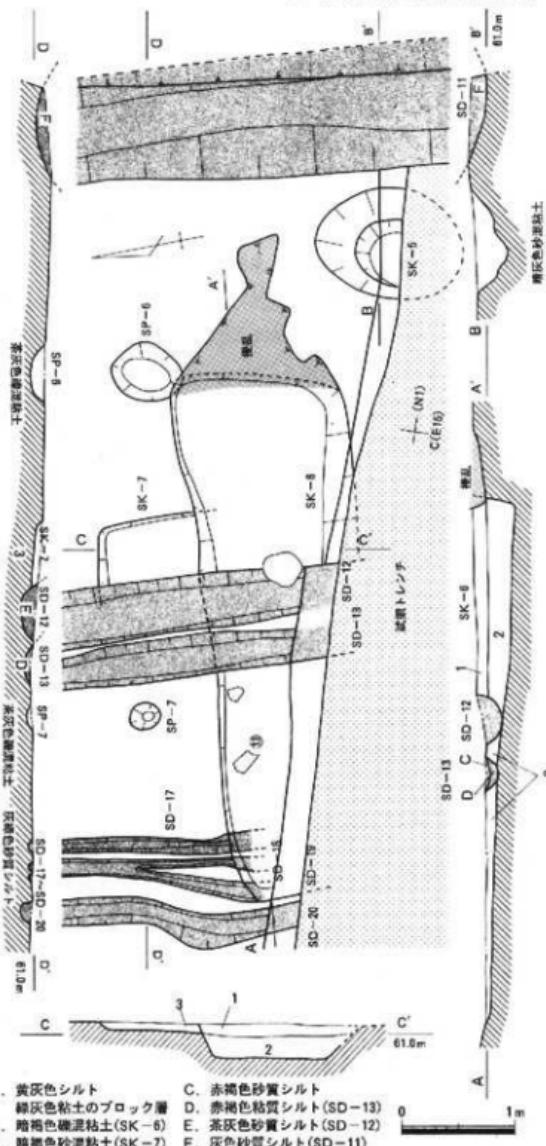
上面の形状は南北にやや長い楕円形で、長径(南北)1.3m・短径(東西)1.2m・深さ0.3mを測る。断面の形状は二段の掘り形をもち、逆凸字形を呈する。内部には暗灰色砂混粘土が堆積している。今回の調査で遺物の出土はなかったが、試掘調査では、中世の土師器羽釜片が1

点出土している。

### SK-6

調査区南東部 1C ~ 1D 地区で検出した。中央部は SD-12・SD-13 が横断し、西端はすき溝 SD-18~SD-20 で上部を削平され、東部には現代の擾乱がある。また、北東の端には SP-6 があり、北端で SK-7 の南辺を切っている。南側は調査区外に至るが、試掘調査では検出されていないことから、上面の形状は、おおむね東西に長い長方形～台形を呈するものと思われる。断面の形状は逆台形を呈し、底部は東下がりで平坦である。規模は、長辺（東西）4.5m・短辺（南北）1.5m・深さ 0.05~0.4m を測る。

内部堆積土は、上層の 1 層黄灰色シルトと緑灰色粘土のブロック、下層の 2 層暗褐色疊混粘土からなり、2 層から土師器甕・羽釜、瓦質土器すり鉢（14）、軒丸瓦（13）などがごく少量出土している（第13図）。



第7図 SK-5~SK-7・SP-6・SP-7・SD-11~SD-13・SD-17~SD-20 平断面図 \*丸数字は遺物番号

軒丸瓦（13）は、瓦当部の外区内縁のみをわずかに残すもので、珠文3個および外縁との境界線の部分のみ遺存する。凸面には幅1.3cm～2.1cmのヘラナデ、凹面には布目痕がみられる。瓦当部の最大幅5.4cm、平瓦部の厚さは3.6cmを測る。

瓦質土器すり鉢（14）のすり口は8本/2.7cm2単位分が遺存している。

#### SK-7

調査区南東部の1C地区、SK-6の北隣で検出した。西側はSD-12・SD-13に、南側はSK-6に切られているため、全容は明らかでない。

検出部での上面の形状は南北に長い長方形。

断面の形状は逆台形を呈し、底部は平坦である。

検出部での規模は、長辺（南北）0.8m・短辺（東西）0.5m・深さ0.12mを測る。

内部堆積土は3層暗褐色砂混粘土で、遺物は出土していない。

#### SK-8

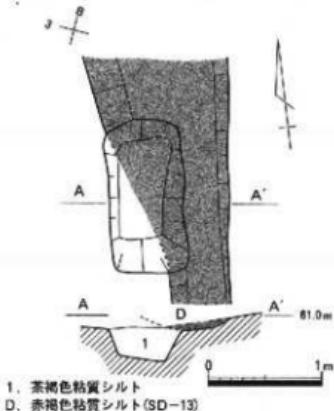
調査区中央北端、2C地区で検出した。上面の南東から北西にかけての2/3程度は、SD-12・SD-13に切られている。

上面の形状は南北に長い長方形で、長軸の方向はSK-1～SK-3にはほぼ一致している。断面の形状は逆台形を呈し、底部は東下がりで直線的である。規模は、長辺（南北）1.3m・短辺（東西）0.65m・深さ0.35mを測る。内部堆積土は茶褐色粘質シルトで、遺物は出土していない。

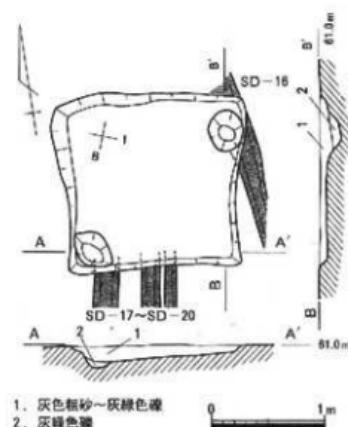
#### SK-9

調査区のほぼ中央部1B・2B・1C・2C地区で検出した。東部をすき溝SD-16、西部をすき溝SD-17～SD-20で削られている。

上面の形状は、南北に軸をもつ一辺1.5m程度の方形で、深さは0.15mを測る。底部は平坦で、北東隅・南西隅には、径0.3～0.4m・深さ0.15m程度の小穴がある。土坑の内部堆積土は



第8図 SK-8 平断面図



第9図 SK-9 平断面図

1層灰色粗砂～灰緑色疊で、小穴の内部は2層灰緑色疊のみで充填されている。

出土遺物は釘(15)のほか、土師器羽釜片、瓦質すり鉢片が1点ずつ出土している(第13図)。

釘(15)は先端部・頭部が欠損する小型のもので、現存長6.2cm・幅0.6cm・厚さ0.4cmを測る。

鍔の付着が著しく、詳細は不明である。

#### SK-10

調査区の東部中央、2A地区で検出した。上面の形状は南北に長い隅丸方形で、長辺(南北)1.15m・短辺(東西)0.9m・深さ0.13mを測る。東辺の中央には、SP-16が掘り込まれている。内部堆積土は、1層暗茶灰色疊混砂質シルト、2層灰色疊混砂質シルトで、2層上面には炭が薄く堆積していた。

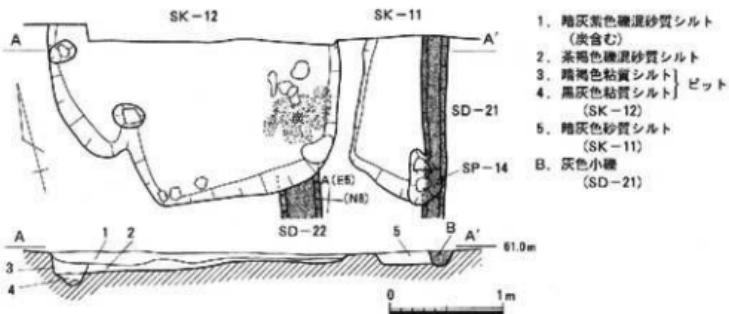
#### SK-11

調査区北端西側、2B地区で検出した。東辺はすき溝SD-21、南東隅はSP-15と重複しているため、全容は明らかではないが、南北に長い長方形を呈するものと考えられる。検出部での法量は、長辺(南北)1.25m・短辺(東西)0.5m・深さ0.11mを測る。内部堆積土は5層暗灰色砂質シルト1層のみで、土師器皿(16)が出土している(第13図)。

土師器皿(16)は口径12.4cmを測る中型・厚手の皿で、強いヨコナデにより、口縁部と体部の間に鋭い段が一周する。

#### SK-12

調査区北西部の2A地区、SK-11の西隣で検出した。上面の形状は、径または一辺2.5m程度の隅丸方形から円形と考えられる。断面の形状は浅い半円形で、深さ0.1mを測る。底部は平坦で、西部にピット状の窪みを2個伴っている。内部堆積土は、上層の1層炭を少量含む暗灰紫色疊混砂質シルト、下層の2層茶褐色疊混砂質シルトで、東端の2層上面では、炭のみが固まって薄く堆積している部分がある(第10図一覧かけ部分)。



第10図 SK-11・SK-12・SP-14・SD-21・SD-22断面図

ピット状の窪みは2層上面から掘り込まれているよう、上面の形状は東西方向に長い楕円形、断面の形状は逆凸字形を呈する。規模は長径（東西）0.25～0.3m・短径（南北）0.2m前後・深さ0.25cmを測る。内部には、上から3層暗褐色粘質シルト・4層黒灰色粘質シルトが堆積しており、底には切石が置かれている。1層中から、土師器小皿（17～19）・鉢・甌・羽釜（23）、須恵器こね鉢（22）・甌、瓦器碗（20・21）・皿などが比較的多量に出土しているほか、肩から底部にかけて拳大から人頭大の石が散乱している（第13図）。

土師器小皿には、半球形で口縁端部を上方へ丸くおさめるもの（17）、半球形で口縁部が尖り気味になるもの（18）、浅くて直線的な体部から口縁部をつまみ上げるもの（19）がある。瓦器碗（20・21）はともに外面に指頭圧痕を残す粗雑なつくりのもので、内面のヘラミガキも簡略されている。こね鉢（22）は須恵質であるが、焼成不良のためか淡黄褐色を呈している。土師器羽釜（23）は鉢径38.5cm・鉢の厚み1.4cmを測る大型のもので、鉢裏面には煤が厚く付着する。

#### SK-13

調査区北西端の2A地区、SK-12の西隣で検出した。南側をSK-14、上部のほとんどを段で、西端をSD-23で切られているためにやや不明瞭ではあるが、上面の形状は東西に長い長方形を呈するものと思われる。肩は直線的に掘られ、底部は平坦である。検出部での規模は長辺（東西）1.7m・短辺（南北）1.0m・深さ0.3mを測る。

内部堆積土は灰色疊混砂質シルトで、内部から土師器甌、須恵器甌、瓦器碗・皿などの小破片が少量出土しているほか、土坑掘削時または埋め戻し時点の混入遺物に、弥生時代後期の高杯（55）がある（第15図）。

#### SK-14

調査区西端の2A地区、SK-13の南隣で検出した。SK-13同様西側は段で、西端はSD-23で切られており、北側でSK-13を切り、南側ではSK-15に切られている。検出部での上面の形状は南北にやや長い方形を呈し、肩は直線的に掘られ、底部は平坦である。検出部での規模は、長辺（南北）1.4m・短辺（東西）1.15m・深さ0.48mを測る。

内部堆積土はSK-13と同じく灰色疊混砂質シルトで、底部には、人頭大の石が数個散乱していた。内部から、土師器甌、瓦器碗・皿、瓦質土器すり鉢の小破片がわずかに出土したほか、宋銭が1枚出土している（第11図）。

宋銭は「皇宋通寶」で、銭径は2.4cm前後、内径2.0～2.1cm、厚さ0.1cm弱を測る。初鋤は

1038年、字体は真書である。



第11図 SK-14出土遺物拓本・写真(S=1/1)

## SK-15

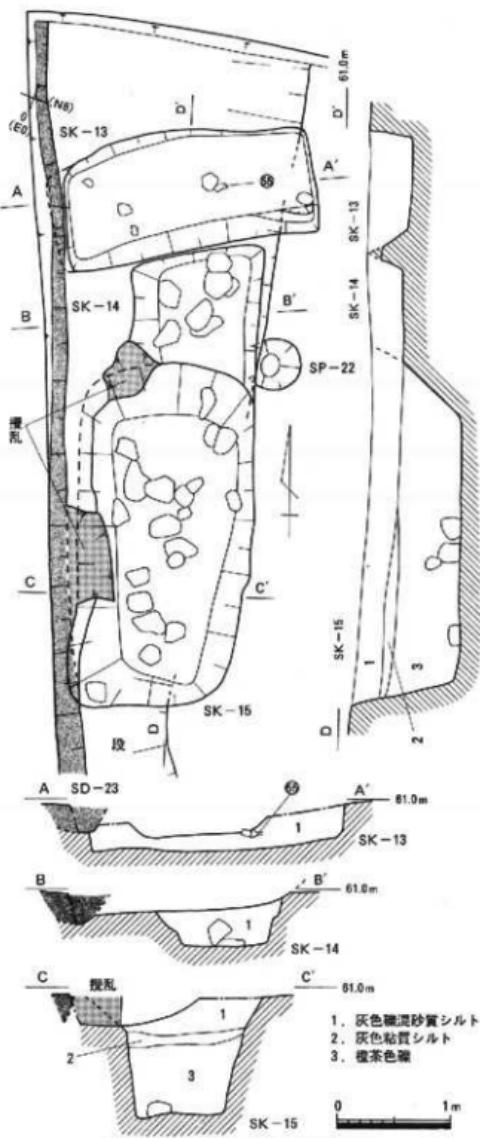
調査区西端中央部の1A・2A地区、SK-14のさらに南で検出した。SK-14を切って構築されている。先の2つの土坑と同様、段やSD-23で切られ、旧状はとどめていない。

上面の形状は南北に長い隅丸方形で、肩は直線的に掘られている。断面の形状は逆台形を呈し、底部は平坦である。検出部での規模は、長辺(南北)3.01m・短辺(東西)1.55m・深さ1.0mを測る。

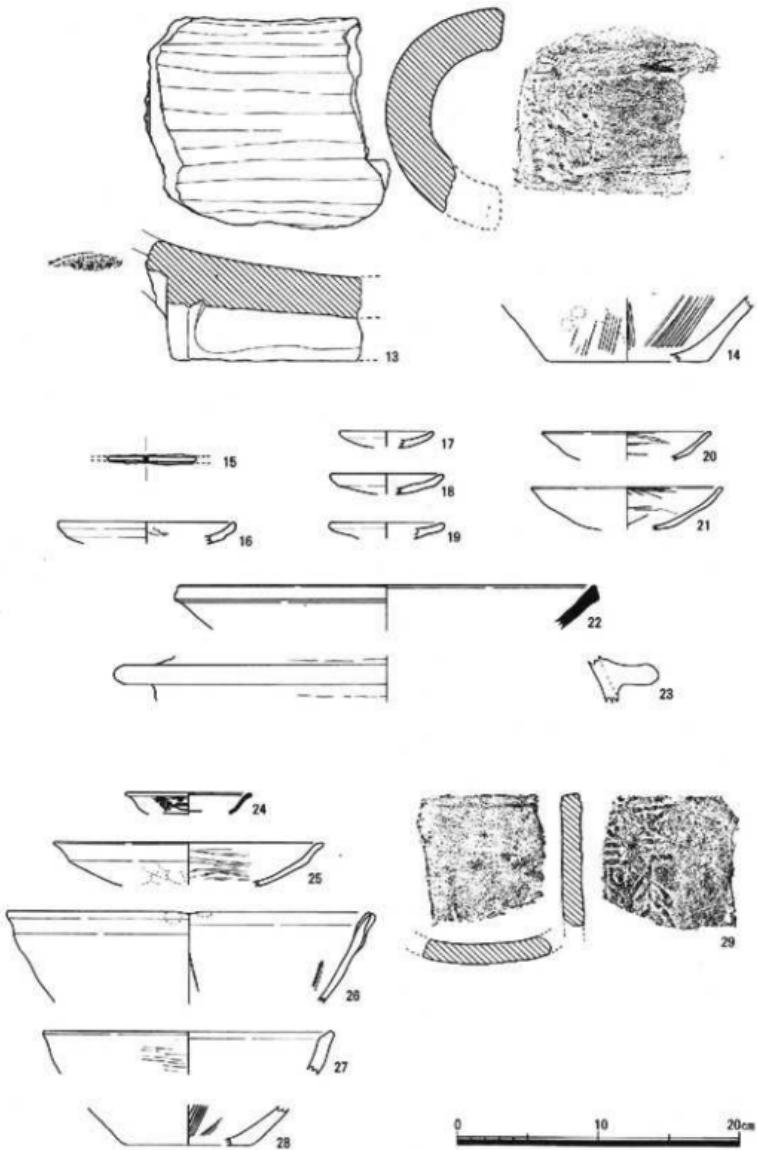
内部堆積土は、上層から1層灰色礫混砂質シルト、2層灰色粘質シルト、3層橙茶色疊で、底部には人頭大の石が10数個散乱していた。

1層から、輸入白磁小皿(24)、土師器杯・皿・鉢・壺、須恵質土器壺、瓦器碗(25)・小皿、瓦質すり鉢(26~28)、陶器、平瓦(29)などの小破片が比較的多量に出土しており、スサや焼土塊が多く認められた(第13図)。

輸入白磁小皿(24)は口径8.9cmを測るもので、体部外面には2条の圓線間に草花文、口縁部内面に2条の圓線をめぐらせる。根来寺坊院跡からやや大型の類似資料が出土している。



第12図 SK-13～SK-15断面図  
※丸数字は遺物番号



第13図 SK-6(13~14)・SK-9(15)・SK-11(16)・SK-12(17~23)・SK-15(24~29)出土遺物実測図

瓦器椀（25）は外面に指頭圧痕を残し、口縁部が外反気味になるもので、内面には粗雑なヘラミガキが施されている。口径は18.4cmと大型に復元しているが、いびつな器形を呈しているものと思われる。瓦器すり鉢（26）は大型のもので、口縁部には指でつまみ出したような小さい注ぎ口があり、すり日は2本/0.7cmを一単位として、粗く施されている。瓦質土器の鉢口縁部（27）と底部（28）は同一個体と考えられるもので、ともに内面に炭化物が付着している。

平瓦（29）は狭端面を残すもので、凸面にはX印と木葉状の文葉を組み合わせた凸線のタタキ文様が施されている。タタキ文様の幅は約3cm、狭端面幅1.1cm、水切り幅0.8cmを測る。

#### 落ち込み（SO）

##### SO-2

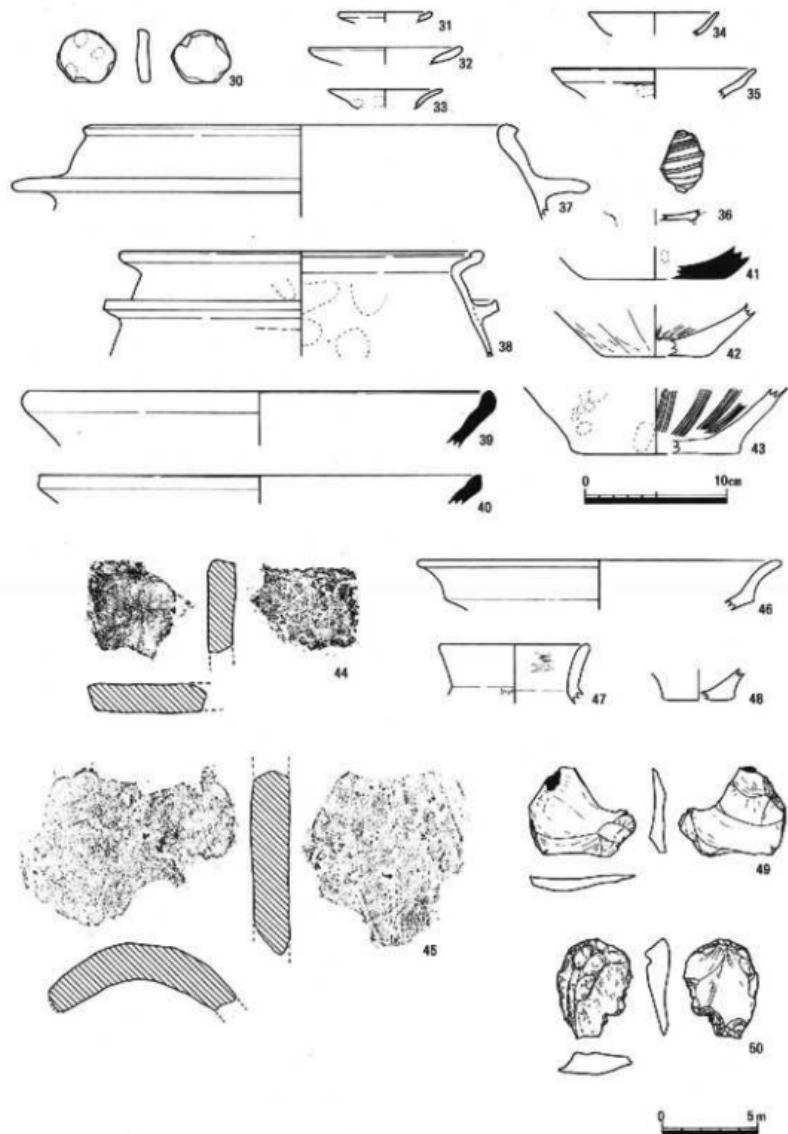
調査区の南部中央、1B地区で検出した。径1.9m程度の円形を呈するものと考えられる。断面の形状は半円形で、内部堆積上は1層黒灰色礫混砂質シルト、2層茶色小礫である。

出土遺物は比較的多く、1層から土師器杯・小皿・鉢・羽釜、須恵質土器こね鉢・甕、瓦器椀・小皿・瓦質土器すり鉢・羽釜、備前焼すり鉢、土師器転用の円板形土製品、平瓦・丸瓦などが出土している。そのほか、掘削時の混入と考えられる遺物に、弥生時代中期～後期の上器やサヌカイト剥片、古墳時代前期の上師器・古墳時代中期の須恵器・製塙土器などが少量出土している（第14図）。

円板形土製品（30）は径4.0cm・厚さ0.9cm前後で、土坑SK-1出土のもの（第6図-1）より小型である。（1）同様周縁を削るもので、外面に指押さえの圧痕、内面にヘラケズリが認められ、土師器整體部片を転用したものであろう。

土師器小皿（31～33）には、半球形のもの（31・32）と口縁部が外反気味に開くもの（33）がある。瓦器小皿（34）は深めの半球形を呈するもので、炭素吸着不良のためか白灰色を呈する。瓦器椀（35）は体部外面に指押さえの圧痕を残し、粗雑なヘラミガキを行うもので、（36）は見込みに平行またはジグザグ状の暗文状ヘラミガキを施している。高台は断面三角形を呈し、小型で低い。羽釜（37・38）はともに土師器で、前者は口径28.8cmの大型品で器壁も厚い。後者は口径25.2cmの中型品で、器壁も薄く硬質で、新旧の時期差がみられる。須恵質土器こね鉢（39～41）の口縁部には丸みをもって立ち上がる（39）と外傾気味の面を持つ（40）があり、底部（41）は丸みのある器形を呈している。瓦質土器すり鉢（42・43）のすり口は、（42）が10本/1.5cmで3単位分、（43）が6本/1.4cmが9単位分残存しており、使用痕も顕著に認められる。

平瓦（44）は狭端面と左側面をわずかに残すもので、凹面はナデ、凸面は布目タタキの後ナデですり消し、両面ともに平滑に仕上げられている。狭端面幅1.7cm・水切り幅0.8cm・左側面幅2.1cmを測る。丸瓦（45）は凸面は布目タタキ、凹面は布目痕（14目/cm<sup>2</sup>）の後ナデで仕上げられている。側面のヘラ切り幅は2.2cmを測る。



第14図 SO-2 出土遺物実測図（石製品S = 1 / 3）

弥生上器(46~48)は、いずれも褐色系の色調を色調を呈し、胎土に角閃石を多く含むいわゆる生駒西麓の土器である。高杯(46)は杯底部から外反して開く口縁部に至るもので、器肉が厚く、深めで大型の器種である。短頸瓶(47)は体部から丸く屈曲し、外傾して開く口縁部に至る小型のものである。豐底部(48)は体部からわずかに突出する底部に至るもので、中央部は欠損・剥離しているため不明瞭であるが、有孔の可能性もある。

サメカイト剥片(49)は背面左側縁へ下線に難面を残し、両面ともに粗い剥離が認められるもので、長さ4.6cm・幅5.6cm・厚さ0.9cmを測る。(50)は背面が難面からなるもので、周縁には細かい剥離がみられる。長さ5.2cm・幅3.9cm・厚さ1.4cmを測る。

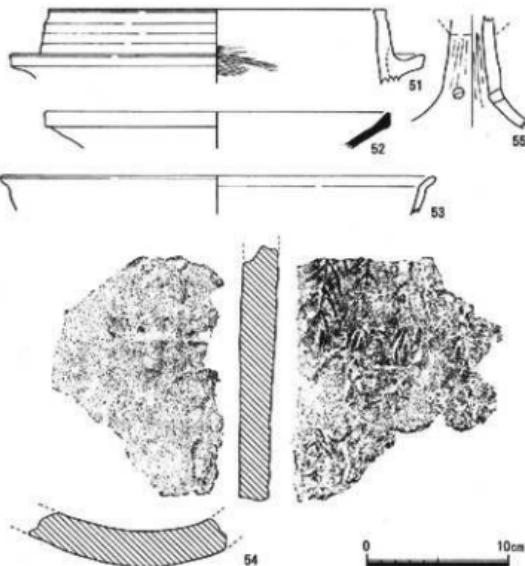
### 3) その他の出土遺物

1区・2区ともに第2層・第6層から、土師器・瓦器・須恵質・瓦質・陶磁器・瓦等の小片や焼土塊・スサなどが少量出土している。そのうち図示したものは第15図(51~55)である。

瓦質土器羽釜(51)は、内傾気味に立ち上がる口縁部に3段のヨコナデが施され、跨はやや上向きに取り付く。須恵質土器こね鉢(52)は、器壁が薄く、口縁部はやや立ち上がり気味となり、上方へわずかに拡張する傾向にある。(53)は瓦質土器鉢で、口縁部と体部との境に沈線状の段をもち、短く開く口縁部に至るものである。

平瓦(54)は広端面を残すもので、広端面幅は2.2cmを測る。凹面はナデ、凸面は木葉文状の凸線のタタキ目の後ナデですり消している。タタキ文様の幅は約3cmで、SK-15出土の平瓦(第13図-29)と同タイプの文様であるが、(29)に比べて大型である。

高杯(55)はSK-13から出土したもので、中空の柱状部からゆるやかに開く裾部に至り、屈曲部付近の3方に径0.8cmの円孔を穿つ。



第15図 その他の出土遺物実測図

## 第4章　まとめ

調査の結果、中世から近世にかけての上坑、落ち込み、溝などを検出し、当地においては、少なくとも3時期の造構群が認められた。出土遺物は少量ではあるが、弥生時代～古墳時代中期のものから、11世紀代～16世紀代のものまでが含まれており、口常使用の雑器、供献用、輸入品、屋瓦などと雜多ものがみられる。

土坑については、そのほとんどが上面の形状や方向などに共通点があり、出土遺物からも同時期に同じ目的で構築されたものと考えられる。過去の調査結果から考えると13～14世紀代の土坑墓の可能性が高いが、その後の幾度かの開発で破壊されており、旧状は保っていない。小穴はほとんどが土坑を切って構築されていることから、墓坑を整理した後、建物が構築されていた可能性もある。日常雑器や屋瓦はほとんどが16世紀に下るものであることから、この開発はそれまでに行われたものであることがわかる。溝には、すき溝と水路等があるが、これらはいずれも旧耕土に伴うもので、17世紀以降のものであろう。

これらのことから、当地では、鎌倉時代の墓域が廃絶した後、室町時代の建物などがつくられ、その後、江戸時代になってから大規模な開発が行われ、現在あるような段々畑の景観を呈していたものと考えられる。

なお、鎌倉時代の居住域は、南東約100～150m地点（第2次調査－第8調査区・第9調査区）すでに検出されており、今回それらに対応する墓域を検出したことによって、新たな知見が得られたといえる。

付表1 検出遺構一覧表(溝)

遺構名	地区	幅	法面(cm) 深さ	検出長	方向	内部地層考
SD-1 (すき溝)	1区 1F~2F	22~31	2.5	280	南北	第3層黒灰色砂質シルト
SD-2 (すき溝)	1区 1F~2F	23~30	1.4	350	南北	第3層灰灰色砂質シルト SD-3の南の延長
SD-3 (すき溝)	1区 3F	20~33	5.7	350	南北	第3層黒灰色砂質シルト SD-2の北の延長、北端でSD-10に切られる。
SD-4 (すき溝)	1区 1F~3F	31以上	4.3	1500	南北	第3層灰灰色砂質シルト 南部でSD-5と合流し、北端でSD-10に切られる。
SD-5 (すき溝)	1区 1F~2F	13以上	1.4	400 以上	南北	第3層灰灰色砂質シルト 南端でSD-4と合流する。
SD-6 (すき溝)	1区 3E	20前後	1.0	100	南北	第3層黒灰色砂質シルト 北端でSD-10に切られる。
SD-7 (すき溝)	1区 3E	20前後	1.9	65	南北	第3層黒灰色砂質シルト
SD-8 (すき溝)	1区 1F~3P+1G	20前後	4.5	1200	南北	第3層黒灰色砂質シルト 北部でSD-9と合流する。
SD-9 (すき溝)	1区 1F~3P+1G	30前後	1.9	1170	南北	第3層灰灰色砂質シルト 北部でSD-8と合流する。
SD-10 (すき溝)	1区 3E・3F	20前後	1.8	150	東西	第3層灰灰色砂質シルト SD-3・SD-4・SD-6を切る。
SD-11	2区 1D~3D+3C	75~100	11.7	1360	南北	F層灰灰色砂質シルト 杭を伴う。6層上面からの切り込み。
SD-12	2区 1C・2C	33~50	16.3	870	南北	E層灰灰色砂質シルト 北部でSD-13・SK-8を切る。
SD-13	2区 1C・2C	25~35	6.1	870	南北	C層灰褐色砂質シルト D層灰灰色粘質シルト 北部でSD-12に切られ、SK-8を切る。
SD-14 (すき溝)	2区 1C	15以上	3.5	100	南北	第2層灰褐色砂質シルト
SD-15 (すき溝)	2区 1C・2C	16~32	1.6	200	南北	第2層灰綠色砂質シルト
SD-16 (すき溝)	2区 1C・2C	15~25	2.1	250	南北	第2層灰褐色砂質シルト 北端でSK-9を切る。
SD-17 (すき溝)	2区 1C	10~15	5.2	190	南北	第2層灰綠色砂質シルト 南端でSK-6、北端でSK-9を切る。
SD-18 (すき溝)	2区 1C	5	3.2	190	南北	第2層灰綠色砂質シルト 南端でSK-6、北端でSK-9を切る。
SD-19 (すき溝)	2区 1C	5~20	3.2	200	南北	第2層灰褐色砂質シルト 南端でSK-6、北端でSK-9を切る。
SD-20 (すき溝)	2区 1C	20~30	11.1	220	南北	第2層灰褐色砂質シルト 南端でSK-6、北端でSK-9を切る。
SD-21 (すき溝)	2区 2B	0~25	13.8	190	南北	B層灰褐色 SK-11・SP-14を切る。
SD-22 (すき溝)	2区 1B・2B	30~50	4.0	450	南北	第2層灰綠色砂質シルト 中央部でSD-24に切られる。
SD-23 (すき溝)	2区 1A・2A	20以上	7.3	900	南北	第2層灰綠色砂質シルト 北部でSK-13の西側を切る。
SD-24 (すき溝)	2区 2A	15~30	0.9	120	東西	第2層灰綠色砂質シルト SD-22・SP-16を切る。

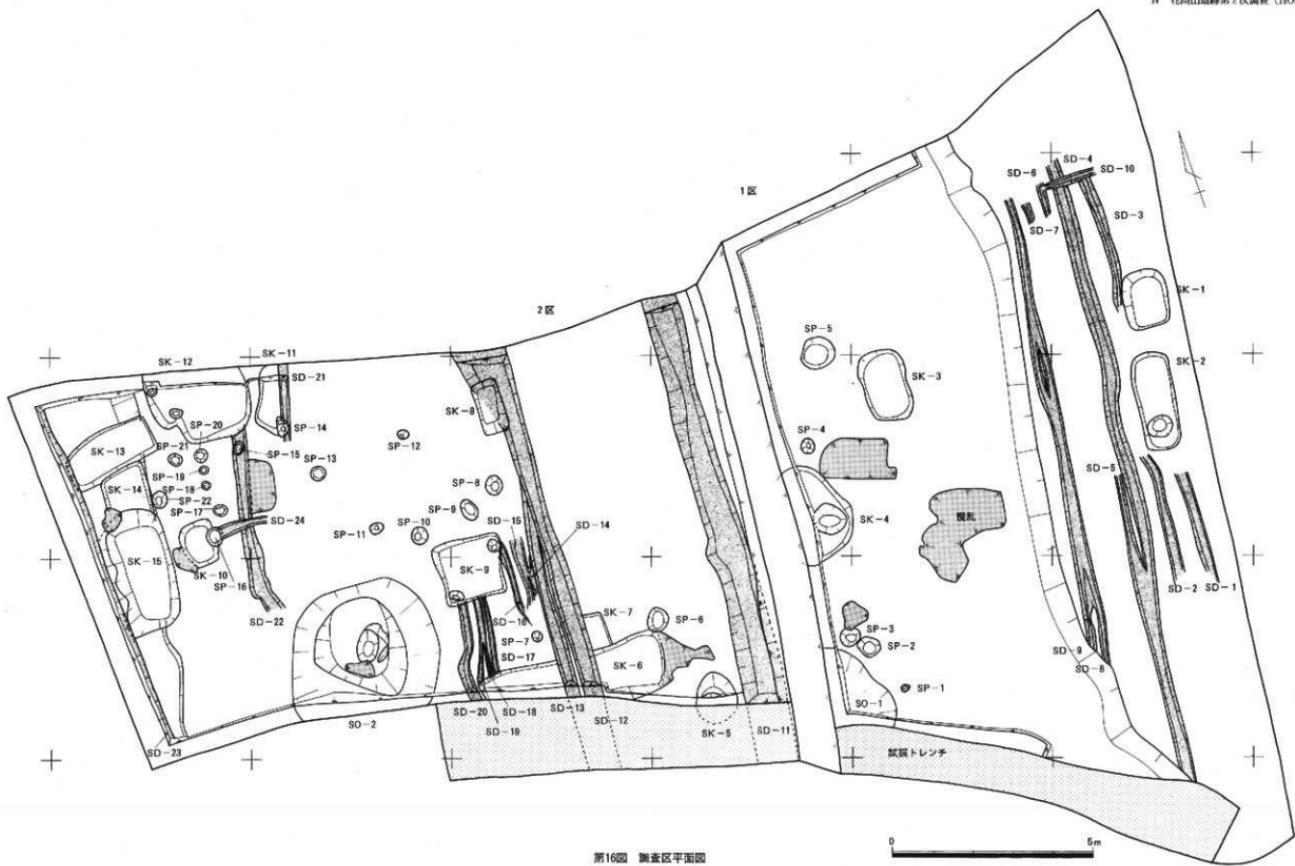
付表2 棲出構造一覧表(小穴)

地名	地区	法量(cm) 直径				方向	内部堆積土 質
		長径	幅	深さ			
SP-1	1区 1E	23	20	11.3	東-西	第6層茶褐色巨礫混砂質シルト	
SP-2	1区 1E	60	50	13.0	東-西	第6層茶褐色巨礫混砂質シルト	
SP-3	1区 1D+1E	50	40	13.9	北東-南西	第6層茶褐色巨礫混砂質シルト	
SP-4	2区 2D	35前後	35前後	8.7	南-北	第6層茶褐色巨礫混砂質シルト	
SP-5	2区 3D	60前後	60前後	8.5	北東-南西	第6層茶褐色巨礫混砂質シルト	
SP-6	2区 1C+1D	65	52	12.2	南-北	①茶灰色礫混粘土 南でSK-6を切る。	
SP-7	2区 1C	28	23	15.3	南-北	②茶灰色膠泥粘土	
SP-8	2区 2C	50	42	33.1	南-北	③灰色粗砂、④明茶褐色粘土粗砂質シルト	
SP-9	2区 2C	57	40	9.1	南-北	⑤暗茶灰色砂質シルト	
SP-10	2区 2B	42	38	16.8	南-北	⑥暗茶灰色砂質シルト	
SP-11	2区 2B	38	29	9.3	東-西	⑦暗茶灰色砂質シルト、⑧灰色粗砂、⑨明茶褐色粘土粗砂質シルト	
SP-12	2区 2B	30	22	11.9	東-西	⑩茶灰色礫混粘土	
SP-13	2区 2B	40	35	10.1	南-北	⑪茶灰色礫混粘土	
SP-14	2区 2B	50	30	47.7	南-北	⑫茶灰色礫混粘土 2段の振り返り、SD-21に切られ、SK-11を切る	
SP-15	2区 2A	38	22	17.0	南-北	⑬茶灰色礫混粘土 SD-22を切る。	
SP-16	2区 2A	46	42	14.9	南-北	⑭灰色粗砂 SD-24に切られ、SK-10を切る。	
SP-17	2区 2A	33	30	12.3	東-西	⑮茶灰色礫混粘土、⑯暗茶灰色砂質シルト	
SP-18	2区 2A	25	18	10.1	南-北	⑰暗茶灰色砂質シルト	
SP-19	2区 2A	22	20	7.9	南東-北西	⑱暗茶灰色砂質シルト、⑲明茶褐色粘土粗砂質シルト	
SP-20	2区 2A	35	32	27.4	南-北	⑳暗茶灰色砂質シルト、㉑灰色粗砂	
SP-21	2区 2A	32	30	19.3	東-西	㉒暗茶灰色砂質シルト、㉓灰色粗砂、㉔明茶褐色粘土粗砂質シルト	
SP-22	2区 2A	42	30以上	15.6	南-北	㉕茶灰色礫混粘土 西側は段に切られる。	

付表3 出土遺物一覧表

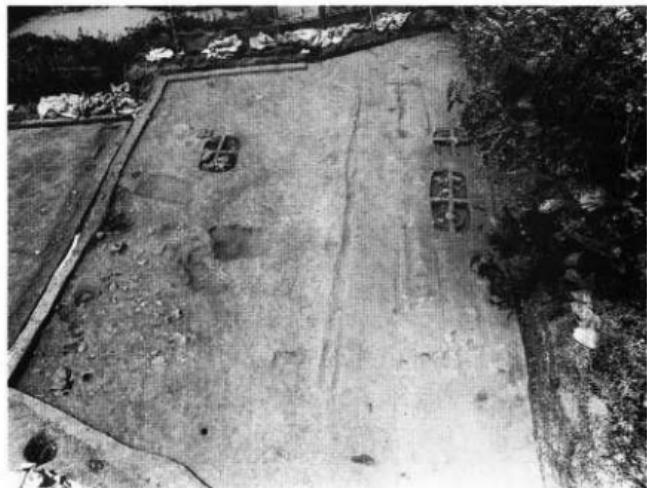
番号	器種	出土地	法量(cm)	色調 筋土・施成	特徴	備考
1	円板形土製品	1区 3F SK-1	底大径 底厚	灰黒色 密 良好	瓦質土器・瓦瓶用の未成品、周縁を粗く削る。	瓦・瓦質土器の転用
5	瓦質土器 すり鉢*	1区 2F SK-2	底 径	明灰色 密 良好	ナデ、外底面はヘラケズリ すり口は8本/2.4cm以上1単位	内面に炭化物付着
6	瓦質土器 甕	1区 2F SK-2	底 径 高	明灰～暗灰色 中核は白灰色 密、良好	ナデ、外底面はヘラケズリ	
8	土師器 羽蓋	1区 2D～3D SK-4	口 径	茶褐色 中核は白色 やや粗、良好	ナデ	側以下に焼付着
9	燒成性 すり鉢	1区 2D～3D SK-4	底 径	暗赤褐色 密～やや粗 良好	ナデ、外底面～側面はヘラケズリ	
14	瓦質土器 すり鉢	2区 1C～1D SK-6	底 径	(外)黒褐色 (内)灰黄色 密、良好	ナデ後ハケ すり口は8本/2.7cm1単位	
16	土師器 甕	2区 2B SK-11	口 径	淡黄褐色 密、良好	ナデ	
17	土師器 小甕	2区 2A SK-12	口 径	淡黄褐色 密、良好	ナデ	
18	土師器 小甕	2区 2A SK-12	口 径	明黄褐色 密、良好	ナデ	
19	土師器 小甕	2区 2A SK-12	口 径	淡黄褐色 密 良好	ナデ	
20	瓦器 甕	2区 2A SK-12	口 径	暗灰色 密、良好	(外)ナデ (内)ナデ後ヘラミガキ	
21	瓦器 甕	2区 2A SK-12	口 径	暗灰色 密 良好	(外)ナデ (内)ナデ後ヘラミガキ	高台は接合部から欠損
22	須恵質土器 こね跡	2区 2A SK-12	口 径	深青褐色 外表面灰褐色 密、良好	(外)回転ナデ (内)回転ケズリ後回転ナデ	
23	土師器 羽蓋	2区 2A SK-12	口 径	暗灰色 やや粗 良好	(外)ヨコナデ (内)ナデ	側裏面以下に 焼付着
24	中核型円盤 小甕	2区 1A・2A SK-15	口 径	(磁胎)白灰色 (胎殻)暗青色 密、良好	(外)側面1+花唐草文+無線 (内)口輪部に墨線2.8mm込みに墨線1	類例、根木寺出土
25	瓦器 甕	2区 1A・2A SK-15	口 径	灰黑色 密 良好	(外)ナデ (内)ナデ後ヘラミガキ	
26	瓦器 すり鉢	2区 1A・2A SK-15	口 径	向灰褐色～灰色 やや粗～密 良好	指押さえ後ナデ、ヨコナデ すり口は2本/0.7cmを粗く施す	注口あり 「人型」
27	瓦質土器 すり鉢	2区 1A・2A SK-15	口 径	灰白色 密 焼成状態不良	(外)ハケ後ナデ (内)ナデ	内面に炭化物付着
28	瓦質土器 すり鉢	2区 1A・2A SK-15	底 径	灰白色 密 焼成状態不良	ナデ すり口は7本/1.5cm以上1単位	27の底部か
30	円板形土製品	2区 1B SO-3	最大径 最大厚	淡黄褐色 やや粗 良好	土師器の転用、周縁を削る (外)指押さえ (内)ヘラケズリ	上部器の転用

番号	器種	出土地	法量(cm)	色調 胎土・焼成	特徴	備考
31	上部器 小皿	2区 1B SO-2	口 径 8.4	淡黃褐色 密 良好	ナデ	
32	上部器 小皿	2区 1B SO-2	口 径 10.8	淡黃褐色 密 良好	ナデ	
33	上部器 小皿	2区 1B SO-2	口 径 8.1	にふい乳暉色 密、良好	ナデ	
34	瓦器 小皿	2区 1B SO-2	口 径 8.8	灰白色 密 底素吸着不良	(外)ヨコナデ、ナデ (内)ナデ	表皮剥離、風化する
35	瓦器 椀	2区 1B SO-2	口 径 13.4	灰白～灰色 密 良好	(外)ヨコナデ、ナデ (内)ナデ	
36	瓦器 椀	2区 1B SO-2	高台径 6.8	灰色 密 良好	(外)ヨコナデ、ナデ (内)ナデ後ヘラミガキ(透)	
37	土師器 削釜	2区 1B SO-2	口 径 28.8	にふい淡褐色 やや粗 良好	(外)ヨコナデ (内)ナデ	側裏面以下に 堆付層
38	土師器 羽釜	2区 1B SO-2	口 径 25.3	暗灰褐色 密 良好	(外)ヨコナデ (内)ナデ	外面に堆付層
39	須恵質土器 こね棒	2区 1B SO-2	口 径 32.6	灰色 口縁部 外面は墨灰色 密、良好	ナデ後回転ナデ	
40	須恵質土器 こね棒	2区 1B SO-2	口 径 30.8	灰色 密 良好	ナデ後回転ナデ	
41	須恵質土器 こね棒	2区 1B SO-2	底 径 9.0	灰色 密 良好	ナデ後回転ナデ	
42	瓦質土器 すり棒	2区 1B SO-2	底 径 6.6	暗灰色	ナデ すり目は10本/L5m 3単位残存	
43	瓦質土器 すり棒	2区 1B SO-2	底 径 11.2	灰色 やや粗 良好	ナデ すり目は6本/L4cm 9単位残存	
44	弥生土器(V) 高杯	2区 1B SO-2	口 径 25.2	赤系色 やや粗 良好	ナデ	
45	弥生土器(V) 短脚豆	2区 1B SO-2	口 径 10.6	赤系色 やや粗 良好	ナデ	
46	弥生土器(V) 甕	2区 1B SO-2	底 径 5.2	赤系色 やや粗 良好	ナデ	底部有孔の可 能性あり
51	瓦質土器 羽釜	2区 2D 表土直下	口 径 22.4	淡黃褐色	(外)3段のヨコナデ (内)ハケ、ヨコナデ	口縁底部・脚 以下に堆付層
52	須恵質土器 こね棒	2区 2D 表土直下	口 径 24.2	灰色 密 良好	ナデ後回転ナデ	
53	瓦質土器 鉢	1区 4R 表土直下	口 径 30.6	灰白色 密 良好	(外)ヘラケズリ後ナデ、ヨコナデ (内)ナデ、ヨコナデ	
55	弥生土器(V) 高杯	2区 2A SK-13	孔 径 0.8	黄褐色 密 良好	(外)ヘラナデ、ヨコナデ (内)シボリ目 3孔を有する	



第16図 調査区平面図

図 版



1区全景(南から)



2区全景(南から)



調査区遠景(西から)



西の山古墳を望む



1区造構検出状況



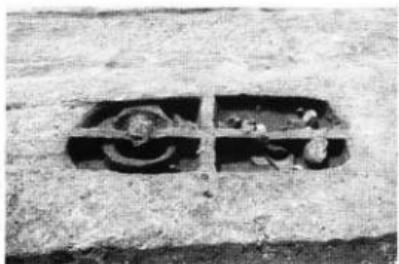
SK-1(東から)



SK-2(東から)



SK-3(西から)



SK-4(東から)



SO-1(南から)



SK-6 西半（東から）



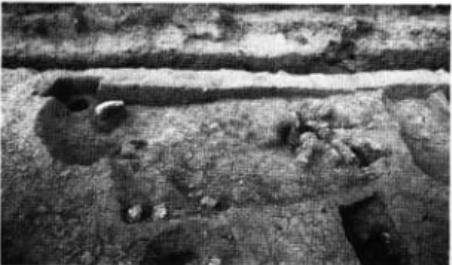
SK-6 東半（東から）



SK-11 ほか（南から）



SK-8 ほか（北から）



SK-12（南から）



調査風景



SK-13ほか（北から）



SD-21（北から）



SK-14（西から）



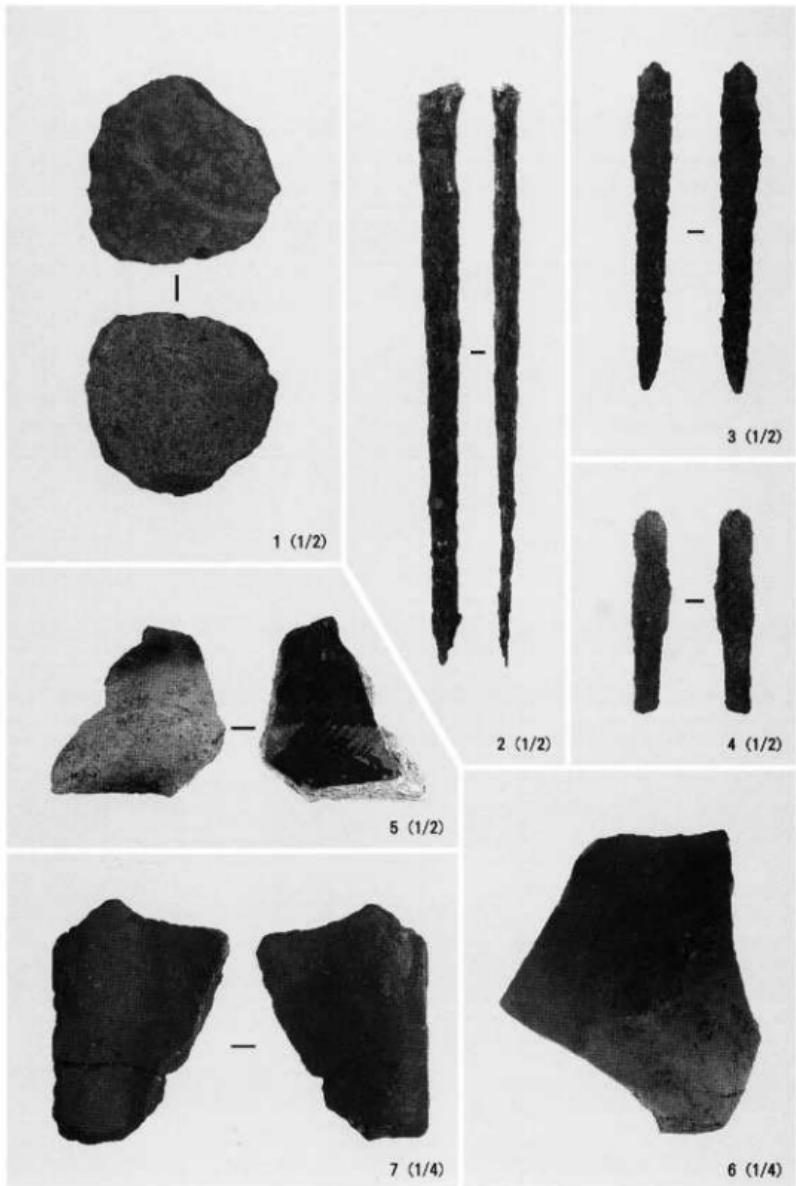
SK-15（東から）



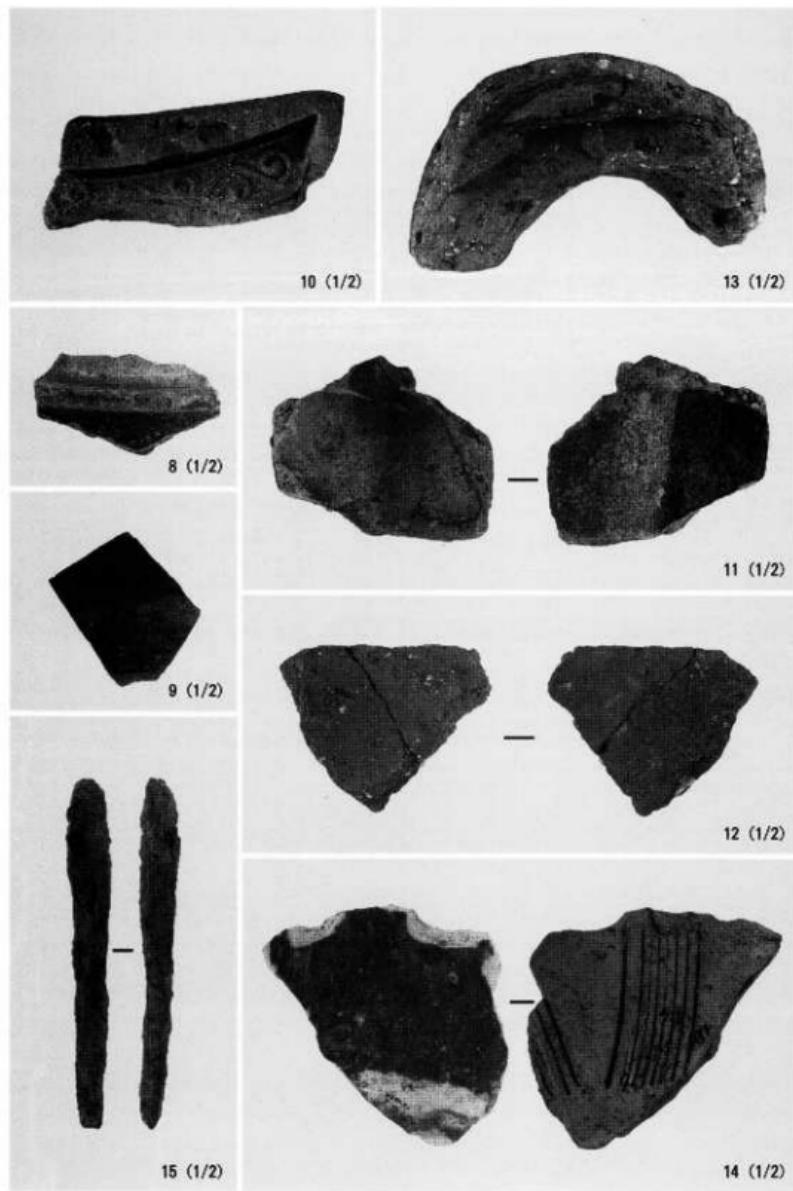
SO-2（北から）



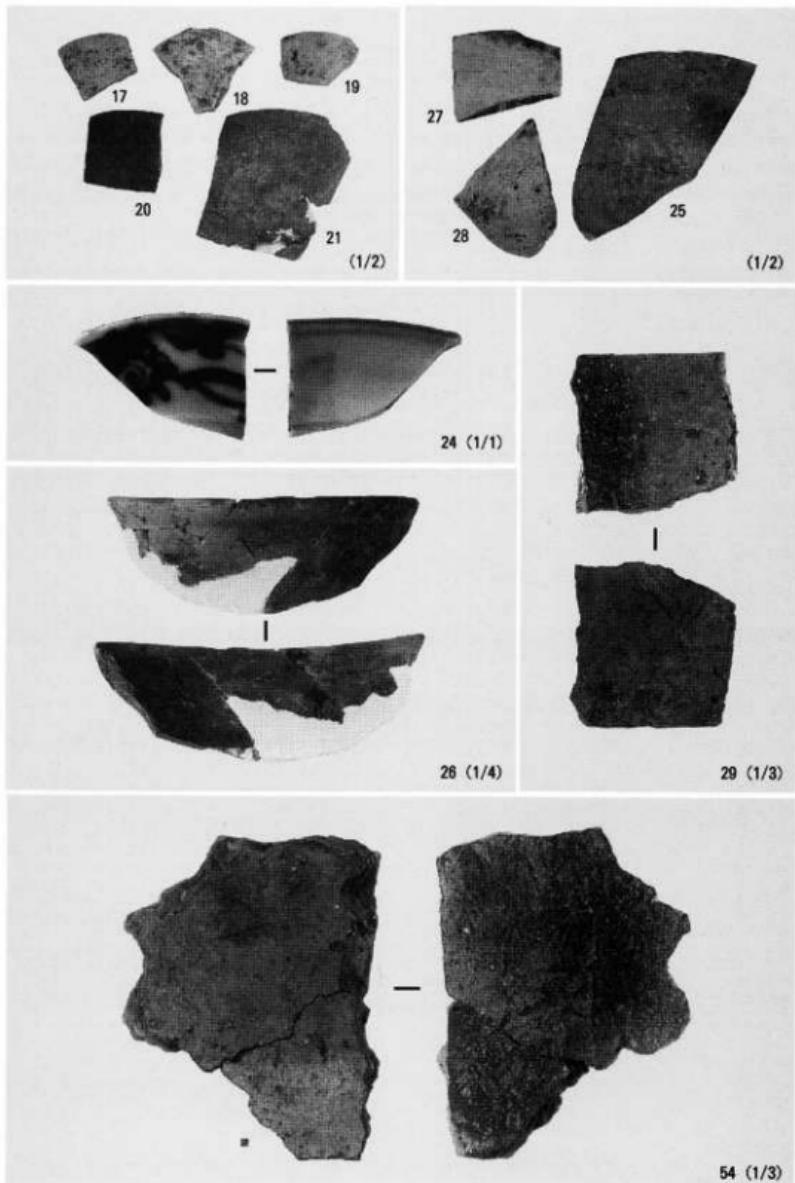
SD-22・SD-23ほか（南から）



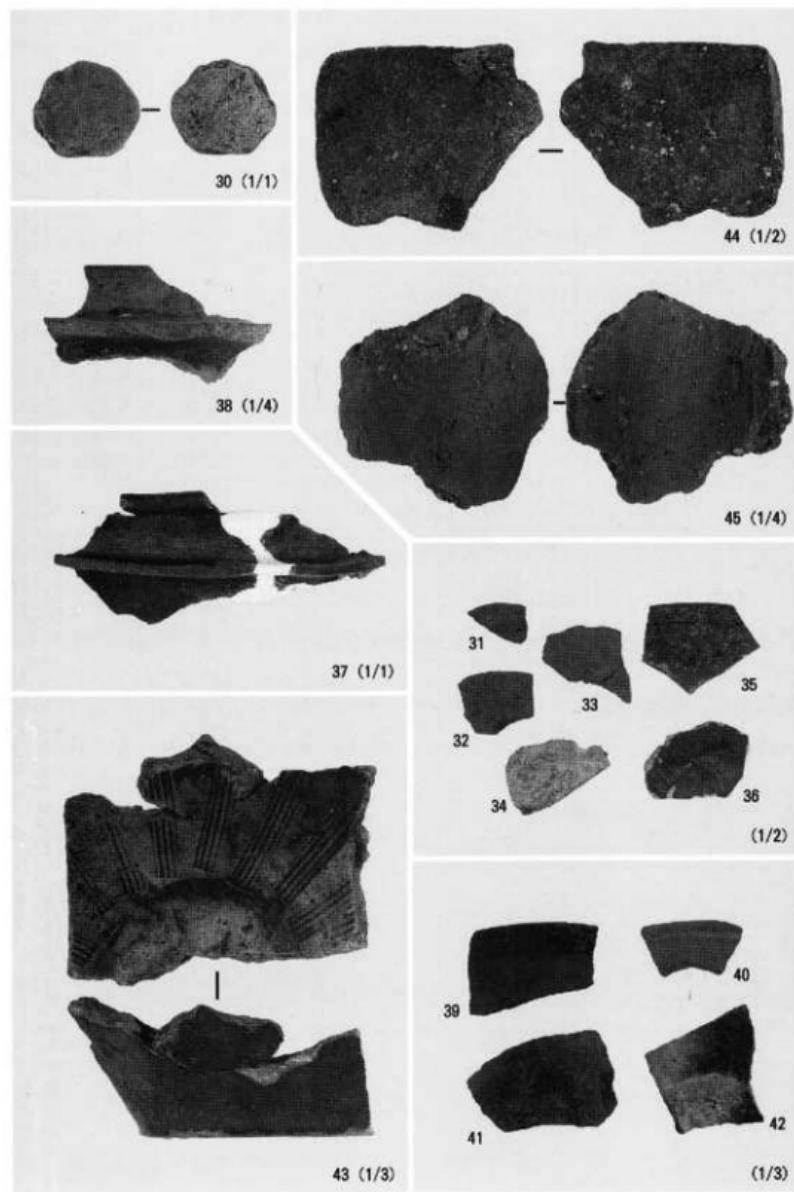
SK-1 (1・2)・SK-2 (3~7) 出土遺物



SK-4 (8~12)・SK-6 (13・14)・SK-9 (15) 出土遺物



SK-12 (17~21)・SK-15 (24~29)・包含層 (54) 出土遺物



SO-2 出土遺物

V 水越遺跡第2次調査(MK89-2)

## 例　　言

1. 本書は八尾市千塚170番地で実施した工場建設に伴う発掘調査の報告である。
1. 本書で報告する水越遺跡第2次調査(MK89-2)の発掘調査業務は、八尾市教育委員会の指示書(八教社文第埋173号 平成元年4月3日)に基づき財団法人八尾市文化財調査研究会が西村忠次郎氏から委託を受けて実施したものである。
1. 現地調査は平成元年5月16日から平成元年6月21日にかけて、西村公助を担当者として実施した。調査面積約527m<sup>2</sup>を測る。なお調査には岡田聖一・小西博樹・並川聰也・表佐江子・中西明美が参加した。
1. 内業整理は、現地調査終了後実施し平成9年3月に完了した。
1. 本書作成に関わる業務は、遺物復原-西村(公)・松井三千子、遺物実測-中西・西村(公)、図面レイアウト・トレース-西村(公)・中西・西村和子、遺物写真撮影-西村(公)が行った。
1. 本書での弥生時代の土器については寺沢薰 森岡秀人編著 1989『弥生土器の様式と編年-近畿編I-』木耳社の編年に基づいて記載した。
1. 本書の執筆および編集は西村(公)が行った。

## 本　文　目　次

第1章 はじめに.....	105
第2章 調査概要 .....	107
第1節 調査の方法と経過.....	107
第2節 基本層序 .....	108
第3節 検出遺構と出土遺物 .....	113
第3章 出土遺物観察表 .....	146
第4章 まとめ .....	154

## 挿図目次

第1図 調査地周辺図	106
第2図 調査区設定図	107
第3図 基本層序図	109・110
第4図 検出遺構平面図	111・112
第5図 第II区 東側下層確認調査〔第9層上面〕検出遺構（N R - 1）平面図	113
第6図 N R - 1 (1) 出土遺物実測図	113
第7図 S E - 1 平断面図	113
第8図 S E - 1 (2~7) 出土遺物実測図	114
第9図 S E - 2・S E - 3 平断面図	115
第10図 S E - 2 (8~14) 出土遺物実測図	116
第11図 S E - 3 (15~24) 出土遺物実測図	117
第12図 S E - 4 平断面図	118
第13図 S E - 5 平断面図	118
第14図 S E - 4 (25・26) S E - 5 (27~29) 出土遺物実測図	118
第15図 S E - 6 平断面図	119
第16図 S E - 6 (30・31) 出土遺物実測図	119
第17図 S E - 7 平断面図	119
第18図 S E - 7 (32~34) 出土遺物実測図	119
第19図 S K - 1 平断面図	120
第20図 S K - 1 (35) 出土遺物実測図	120
第21図 S K - 2 平断面図	120
第22図 S K - 2 (36) 出土遺物実測図	120
第23図 S K - 3 (37) 出土遺物実測図	121
第24図 S K - 5 平断面図	121
第25図 S K - 5 (38~40) S K - 8 (41) S K - 9 (42) 山上遺物実測図	122
第26図 S K - 10 平断面図	123
第27図 S K - 10 (43~48) S K - 12 (49) S K - 13 (50) 出土遺物実測図	124
第28図 S K - 14 平断面図	125
第29図 S K - 14 (51~55) 山上遺物実測図	125

第30図	S I - 1 平断面図	126
第31図	S I - 2 平断面図	126
第32図	S I - 2 (56~59) S I - 3 (60) 出土遺物実測図	127
第33図	S I - 3 平断面図	127
第34図	S P - 13 (61・62) S P - 19 (63) S P - 23 (64) S P - 29 (65) S P - 37 (66) S P - 71 (67~69) S P - 105 (70) S P - 182 (71) 出土遺物実測図	128
第35図	第Ⅲ区 SD - 1 平断面図	132
第36図	SD - 1 (72~78) 出土遺物実測図	133
第37図	SD - 2 + SD - 3 平断面図	135・136
第38図	SD - 2 (79~82) 出土遺物実測図	137
第39図	SD - 2 (83~85) 出土遺物実測図	138
第40図	SD - 2 (86~93) 出土遺物実測図	139
第41図	SD - 3 (94) 出土遺物実測図	140
第42図	SD - 8 (95・96) 出土遺物実測図	140
第43図	SD - 10 (97・98) 出土遺物実測図	141
第44図	SD - 21 (99~101) 出土遺物実測図	142
第45図	SD - 22 (102・103) 出土遺物実測図	142
第46図	SD - 24 (104~107) 出土遺物実測図	143
第47図	第1層 (108~114・118) 出土遺物実測図	145
第48図	第1層 (115~117) 出土遺物実測図	145

## 表 目 次

第1表	水越遺跡発掘調査一覧表	106
第2表	小穴法量表(1)	129
第3表	小穴法量表(2)	130
第4表	小穴法量表(3)	131

## 写 真 目 次

写真 1	調査地から生駒山地を望む(西から)	105
写真 2	第Ⅲ区 SD - 1 遺物出土状況(西から)	132

## 図版目次

- 図版一 第Ⅰ区 全景（西から） 第Ⅱ区 全景（西から） 第Ⅲ区 全景（西から）  
 第Ⅳ区 全景（東から） 第Ⅰ区 SE-1（西から） 第Ⅱ区 SE-2（南から）
- 図版二 第Ⅱ区 SE-2 遺物出土状況（南から） 第Ⅱ区 SE-3（南から）  
 第Ⅱ区 SE-3 遺物出土状況（南から） 第Ⅲ区 SE-4（南から）  
 第Ⅳ区 SE-5（南から） 第Ⅳ区 SE-6（北から）
- 図版三 第Ⅰ区 SE-7（北から） 第Ⅰ区 SI-2（南西から）  
 第Ⅰ区 SK-1（南から） 第Ⅲ区 SK-5（南から）  
 第Ⅲ区 SK-10（南から） 第Ⅳ区 SK-14 SD-1（南から）
- 図版四 第Ⅲ区 SD-1（南から） 第Ⅰ区 SD-2（南から）  
 第Ⅰ区 SD-2 遺物出土状況（東から） 第Ⅲ区 SD-24（南から）  
 第Ⅳ区 SD-24（東から） 第Ⅱ区 3D地区小穴（南から）
- 図版五 NR-1 (1) SE-1 (2・7) SE-2 (12~14) SE-3 (15・16) 出土遺物
- 図版六 SE-3 (17~23) SE-4 (25) 出土遺物
- 図版七 SE-4 (26) SE-5 (28) SE-6 (30・31) SE-7 (32~34)  
 SK-1 (35) 出土遺物
- 図版八 SK-3 (37) SK-5 (38~40) SK-9 (42) SK-10 (43・47・48) 出土遺物
- 図版九 SK-14 (51~53・55) SI-2 (56・58・59) SI-3 (60) 山土遺物
- 図版一〇 SP-29 (65) SP-37 (66) SP-71 (68・69) SP-105 (70) SP-182 (71)  
 SD-1 (73) 出土遺物
- 図版一一 SD-1 (74~78) SD-2 (79~81) 出土遺物
- 図版一二 SD-2 (82~89) 出土遺物
- 図版一三 SD-2 (90・91・93) SD-8 (95) SD-10 (97・98) SD-21 (100・101)  
 出土遺物
- 図版一四 SD-22 (103) SD-24 (104~107) 第1層 (108・110・111) 出土遺物
- 図版一五 第1層 (115~118) 出土遺物

## 第1章 はじめに

水越遺跡は大阪府八尾市の東側に位置しており、現在の行政区画では水越、千塚一帯の東西約1.25km、南北約1.2kmの範囲にあたる。当遺跡は生駒山地の西麓から河内平野に広がる扇状地上に位置している。

当遺跡内の特に千塚一帯では、弥生土器や石器等の表採の資料がたくさん発見されており、<sup>註1</sup>遺跡であることが知られていた。この千塚において昭和53年度に府立清友高等学校の建設が行われることになり、建設工事に伴う発掘調査を大阪府教育委員会が行った。調査の結果、弥生時代中期から鎌倉時代に至る遺構の検出および遺物の出土があった。この調査以降、平成7年度までに今回の調査地周辺では発掘調査を、八尾市教育委員会と当調査研究会により数件行っている（第1表と第1図参照）。それらの発掘調査の結果、弥生時代から近代に至る遺構の検出および遺物が出土しており、遺跡の実体が徐々に解明されつつある現状である。

このような情勢下、西村忠次郎氏から、千塚170番地において工場建設の計画書が八尾市教育委員会文化財課に提出された。同文化財課では、計画地が水越遺跡の遺跡範囲内にあることから、計画地内で事前に試掘調査を行った。調査の結果、弥生時代の遺構の検出および遺物の出土があった。このことから、同文化財課は発掘調査が必要であると判断し、その旨を事業者に通知した。その結果、建設工事により遺構の破壊が予想される部分を対象に発掘調査を実施することが事業者と同文化財課の両者で合意された。

この事により発掘調査を実施するに至ったもので、事業者、八尾市教育委員会文化財課、財團法人八尾市文化財調査研究会との間で取りかわした三者協定に基づき財團法人八尾市文化財調査研究会が事業者から委託を受けて実施した発掘調査である。



写真1 調査地から生駒山地を望む（西から）

註1 原田修他 1976『特輯

清原得巖所蔵考古資料図録』『大阪文化誌』季刊第2巻・第2号・通巻第6号 財團法人大阪文化財センター

註2 吉岡哲也 1988『八尾市史（前近代）』本文編 八尾市役所



第1図 調査地周辺図

調査地點	略号	調査地	年度	調査範囲	調査面積	調査期間	調査機関	文 獻
①-I	MKR2-1-2	水越181番地	S57	高安中学校 敷地	491	SS70716 ~0823	財團法人八 尾市文化財 調査研究会	1982 「八尾市埋蔵文化財発掘調査報告」 水越 1983 「八尾市文化財調査研究会報告」 平成 1983.3 「昭和57年度における埋蔵文化財発掘 調査」 -その成果と概要- 財團法人八尾 市文化財調査研究会
①-II	MKR2-1-1	水越181-44番地	S57	水道管敷設	450	SS70726 ~0823	財團法人八 尾市文化財 調査研究会	1983.3 「昭和57年度における埋蔵文化財発掘 調査」 -その成果と概要- 財團法人八尾 市文化財調査研究会
②	MKB9-2	千塚170	H01	工場建設	527	H01056 ~0621	財團法人八 尾市文化財 調査研究会	1990 「八尾市文化財調査研究会年報 平成 元年度」 財團法人八尾市文化財調査研究会編 1990 「八尾市文化財調査研究会年報 平成 元年度」 財團法人八尾市文化財調査研究会編 1990 「八尾市文化財調査研究会年報 平成 元年度」 財團法人八尾市文化財調査研究会編 1990 「八尾市文化財調査研究会年報 平成 元年度」 財團法人八尾市文化財調査研究会編
③	MKB9-3	水越2丁目117	H01	体育館改築	451.6	H010626 ~0719	財團法人八 尾市文化財 調査研究会	1990 「八尾市文化財調査研究会年報 平成 元年度」 財團法人八尾市文化財調査研究会編 1990 「八尾市文化財調査研究会年報 平成 元年度」 財團法人八尾市文化財調査研究会編
④		大阪府立農友 高等学校建設					大阪府教育 委員会	1988 「八尾市史(前近代)」本文編 八尾市役 所
⑤		千塚349番地他	S56	消防車庫建設	79	SS70323 ~0413	八尾市教育 委員会	1983 「八尾市埋蔵文化財発掘調査概要」 平 成5・6・7年度 財團法人八尾市文化財調査研究 会報告3 財團法人八尾市文化財調査研究会
⑥		千塚170	S57	T.施設		SS80125	八尾市教育 委員会	1983.3 「八尾市内遺跡解説と沙良度堀奈 御寺跡の調査-八尾市文化財調査報告9 昭和 57年度埋蔵文化財事業 八尾市教育委員会
⑦		千塚34-1他	S59	資料館等建設		SS91026	八尾市教育 委員会	1985.3 「八尾市内遺跡解説と沙良度堀奈 御寺跡の調査-八尾市文化財調査報告11 昭和59 年度埋蔵文化財事業 八尾市教育委員会
⑧		水越150	S60	プール建設		SS00415	八尾市教育 委員会	1986.3 「八尾市内遺跡解説と沙良度堀奈 御寺跡の調査-八尾市文化財調査報告12 昭和60 年度埋蔵文化財事業 八尾市教育委員会
⑨	63-354	水越2丁目117	S63	体育館改築		SS61227	八尾市教育 委員会	1983.3 「9.、水越遺跡(63-354)の調査」八尾市内 遺跡解説と沙良度堀奈御寺跡(II)八尾市文化財調 査報告20 平成6年度公大企事業 八尾市教育委員会
⑩	92-602	千塚2丁目106	H04	工場建設		HP02H-003 HP02H-004 HP02H-005	八尾市教育 委員会	1993.3 「1.、水越遺跡(92-602)の調査」八尾市内 遺跡解説と沙良度堀奈御寺跡(II)八尾市文化財調査 報告21 平成5年度埋蔵文化財事業 八尾市教育委員会
⑪		千塚1丁目3-4	H05	駐車場造成		HP00421	八尾市教育 委員会	1994.3 「1.、水越遺跡(92-602)の調査」八尾市内 遺跡解説と沙良度堀奈御寺跡(II)八尾市文化財調査 報告22 平成5年度埋蔵文化財事業 八尾市教育委員会
⑫		東高野街道改 修工事				SS002		1968 「八尾市史(前近代)」本文編 八尾市役 所

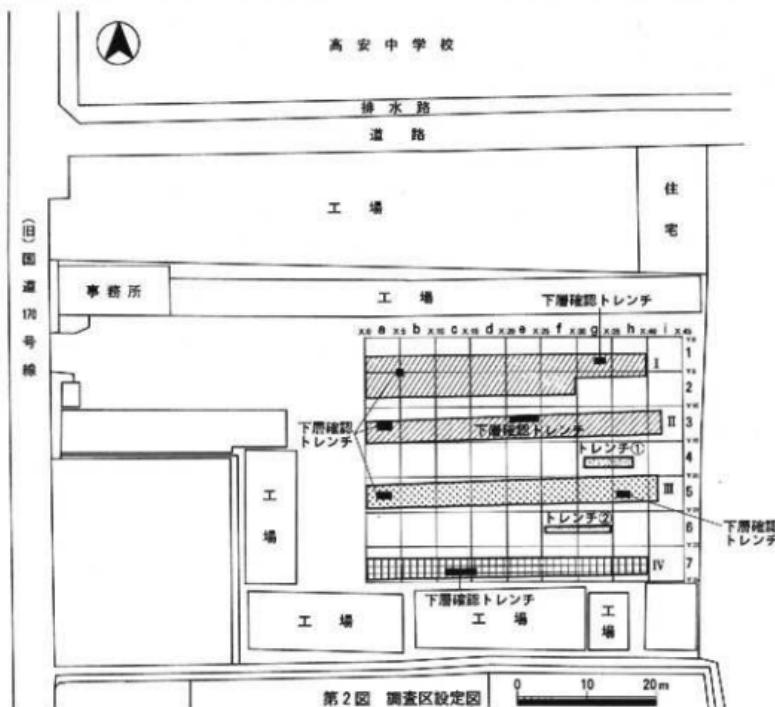
第1表 水越遺跡発掘調査一覧表

## 第2章 調査概要

### 第1節 調査の方法と経過

工場建設予定地に調査区を4ヶ所設定した（北から第I区東西40m×南北5m、第II区東西41.5m×南北3m、第III区東西41.5m×南北3m、第IV区東西40m×南北2mと呼称する）。調査に際しては、現地表下0.6m～0.8mまでの土層を機械掘削し、以下の各層は人力による掘削を行い、遺構および遺物の検出に努めた。また調査の途中で弥生時代中期の環壕と推定される溝（SD-24）を検出したため、この溝の平面的な位置を確かめる目的で、第II区と第III区の間にトレンチ①を、第III区と第IV区の間にトレンチ②を設け確認を行った。

調査地には、北西側に任意の基準点を置き、この基準点から東へ45m（X:0～X:45）、南へ35m（Y:0～Y:35）にわたって地区割を設定した。一区画の単位は5m四方で、基準点から南北方向は算用数字（北から1～7）、東西方向はアルファベット（西からa～i）で示した。地区



割の表示は、一区画の南東隅に交差する線を用い、1 a～7 i区とした。また、調査地点の表示はXとYの座標の交点を用い、X:0 から X:45・Y:0 から Y:35とした。

調査の結果、第Ⅰ区～第Ⅳ区では現地表下0.7～1.2m（標高T.P.+14.8m～T.P.+15.3m）に存在する第5層上面で弥生時代中期の竪穴住居3棟（S I-1～S I-3）、井戸6基（S E-1～S E-6）、土坑14基（SK-1～SK-14）、小穴195個（SP-1～SP-195）、溝24条（SD-1～SD-24）と、古墳時代前期【布留式期】の井戸1基（SE-7）を検出した。また第4層上面では中世の溝1条（SD-25）を検出し、第3層上面では近世の溝1条（SD-26）を検出した。第Ⅱ区東側の下層確認トレンチ（第9層上面）で縄文時代中期の河川1条（NR-1）を検出した。

## 第2節 基本層序

第0層 盛土。層厚0.15～0.5m。上面の標高は調査地の西側がT.P.+15.9mで、東側がT.P.+16.3mである。

第1層 暗灰色微砂混粘土。層厚0.1m。近年までの耕作土。

第2層 淡青灰色細砂混粘土。層厚0.1～0.15m。

第3層 桃褐色細砂混粘土。層厚0.2～0.5m。中世の遺物を含む。

この層の上面では、第Ⅳ区で近世の溝を検出した。

第4層 暗灰褐色細砂混粘土。層厚0.1～0.3m。弥生時代中期から古墳時代前期の遺物を含む。この層の上面では、第Ⅲ区で中世の溝を検出した。

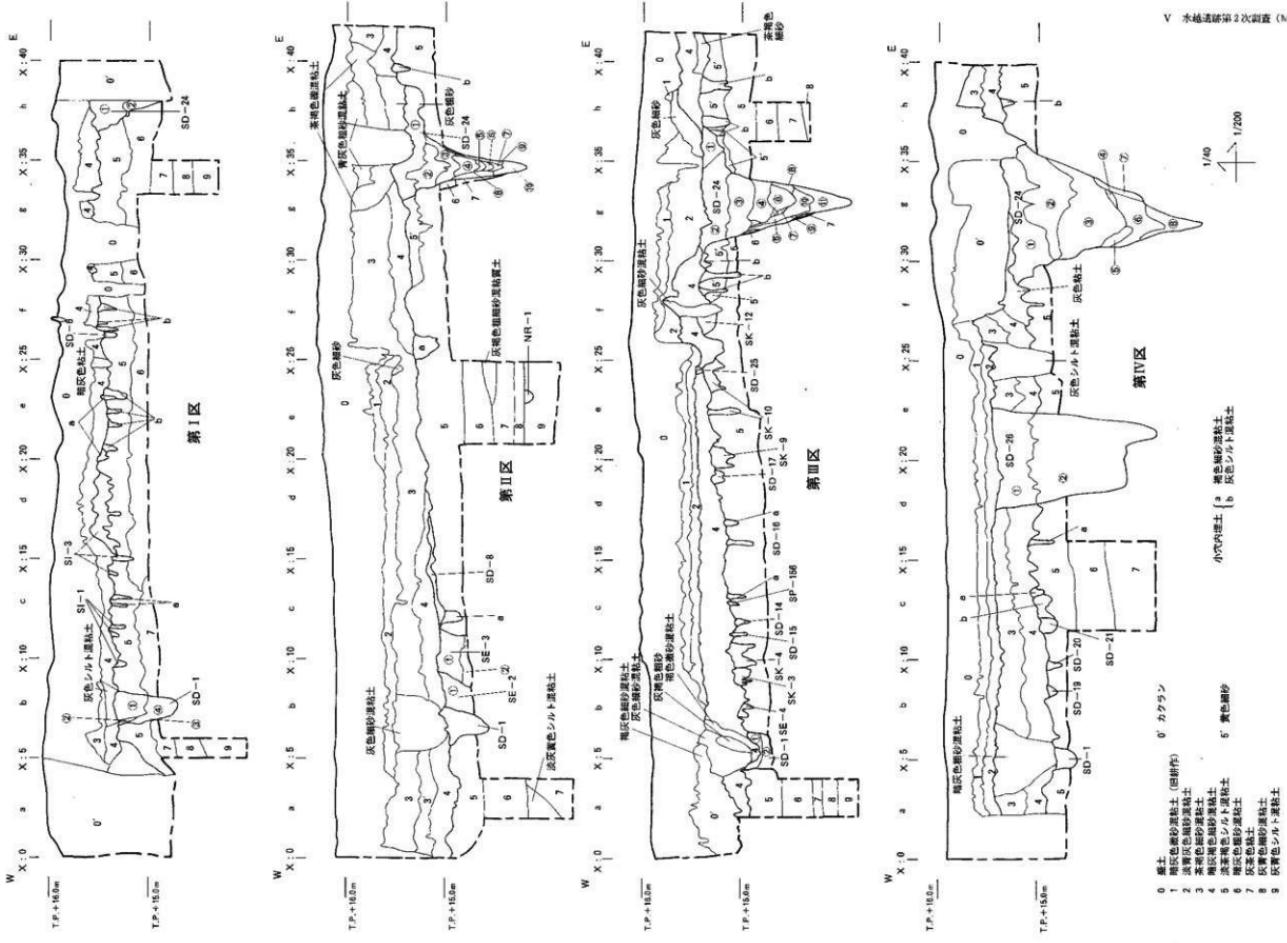
第5層 淡茶褐色シルト混粘土。層厚0.2～0.5m。第Ⅰ区、第Ⅱ区では、粗砂を多く含んでいる。上面で弥生時代中期の遺構を検出した。上面の標高は、T.P.+14.8～T.P.+15.5mである。

第6層 暗灰色粗砂混粘土。層厚0.2～0.4m。

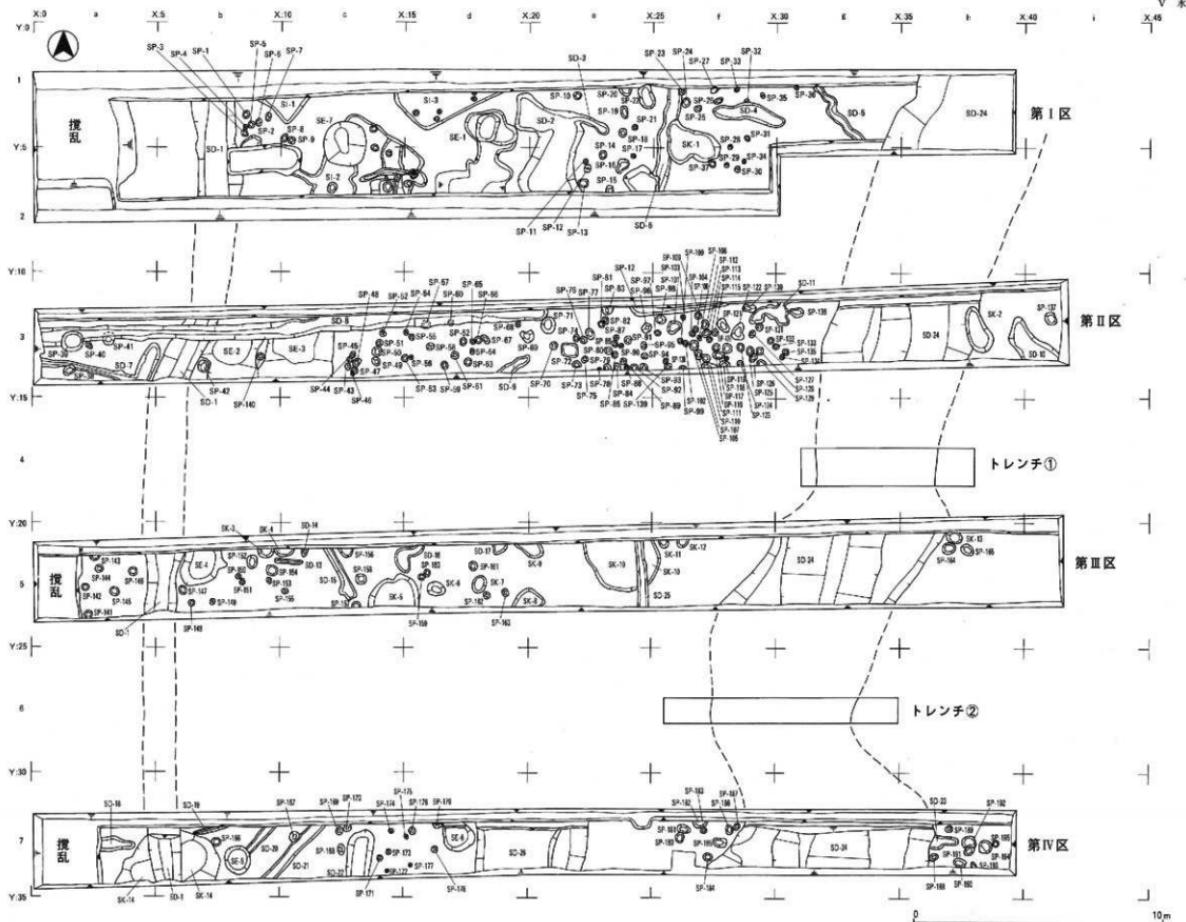
第7層 灰茶色粘土。層厚0.2～0.3m。

第8層 灰青色細砂混粘土。層厚0.06～0.1m。

第9層 灰青色シルト混粘土。層厚0.4m以上。上面で縄文時代中期の河川を検出した。



第3図 基本順序図



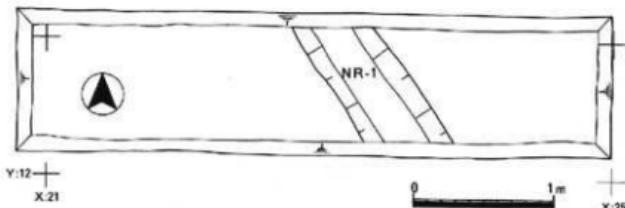
第4図 掘出遺構平面図

### 第3節 検出遺構と出土遺物

自然河川 (NR)

NR-1

第II区東側の下層確認トレンチで検出した。南東から北西方向に伸びる河川で、幅0.55m、深さ0.12mを測る。内部堆積土は茶灰色粗砂である。河川内からは縄文時代中期に比定される深鉢(1)が出土している。(1)は撚り糸文の縄文が地文で、半截竹管による平行線を上部



第5図 第II区 東側下層確認調査(第9層上面) 検出遺構(NR-1) 平面図



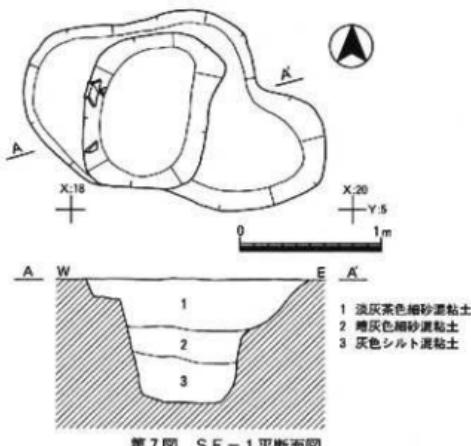
第6図 NR-1 (1) 出土遺物実測図

に施し、半截竹管の斜方向の文様と曲線的文様を施す。縄文時代中期の船元式と思われる。

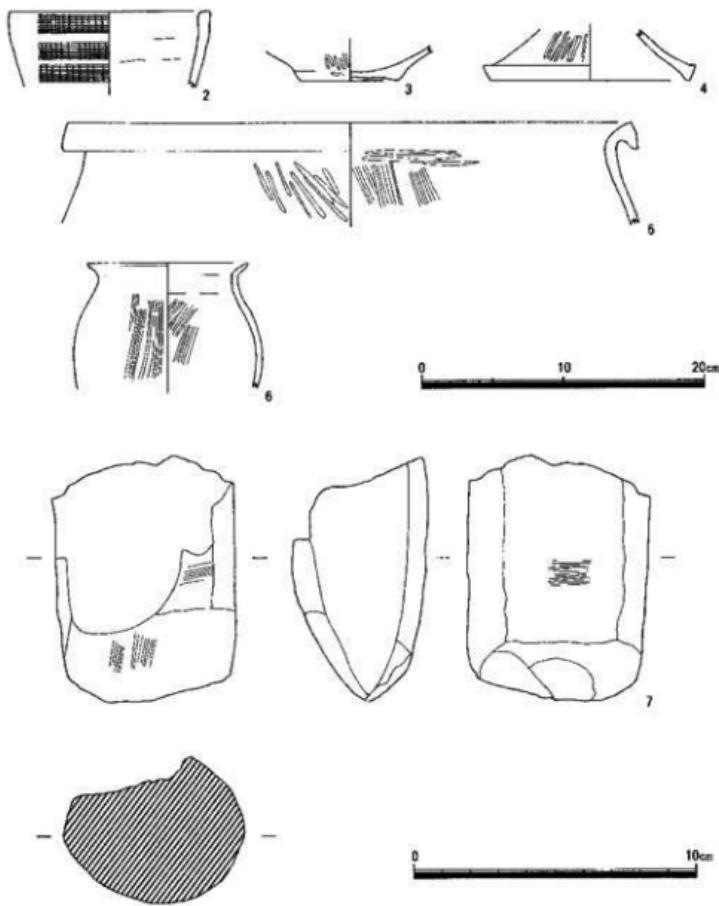
井戸(SE)

SE-1

第I区で検出した。平面の形状は、不定形を呈する。東西幅2.2m、南北幅1.4m、深さ0.85mを測る。内部堆積土は上から淡灰茶色細砂混粘土、暗灰色細砂混粘土、灰色シルト混粘土である。井戸内からは弥生時代中期〔河



第7図 SE-1 平断面図



第8図 SE-1 (2~7) 出土遺物実測図

内Ⅲ-2様式】の細頸壺(2)、壺(3)、高環(4)、壺(5・6)と大型蛤刃石斧(7)が出土している。(2)はやや内傾気味に直立する口縁部。(3)は上げ底状の底部。(4)は高環の裾部でⅢ様式でも新しい様相をもつ。(5)は大型の壺、(6)は小型の壺で、Ⅲ様式に比定される。(7)の石斧は、刃部に使用したときの剥離がある。

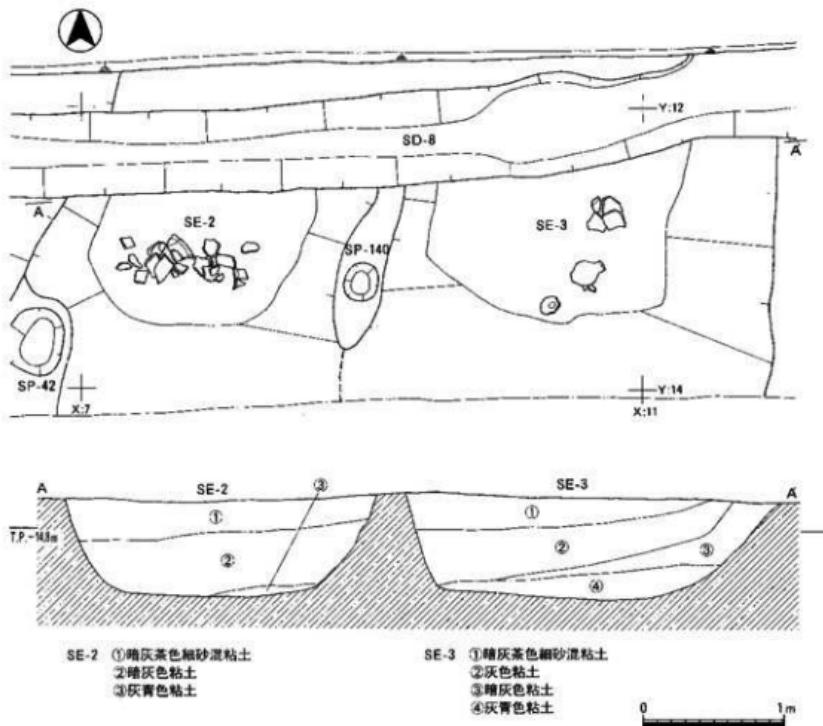
#### SE-2

第II区で検出した。西部はSD-1・北部はSD-8に切られる。東西幅2.08m、南北幅1.5m、深さ0.91mを測る。内部堆積上は上から暗灰茶色細砂混粘土、暗灰色粘土、灰青色粘

上である。灰青色粘土内からは弥生時代中期（河内II-1様式）の広口壺（8）、無頸壺（9）、壺（10・11）、甕（12）と石器（13）、石槍（14）が出上している。（8）は外反する口縁部で端部は丸みのある面をもつ。（9）は大型の無頸壺で単槽構成の櫛溝直線文を縱方向の後横方向に施す。（10）は箆櫛併用文を施すII様式の壺である。（11）は壺の底部。（12）は甕口径が体部最大径より大きい。II様式のものである。

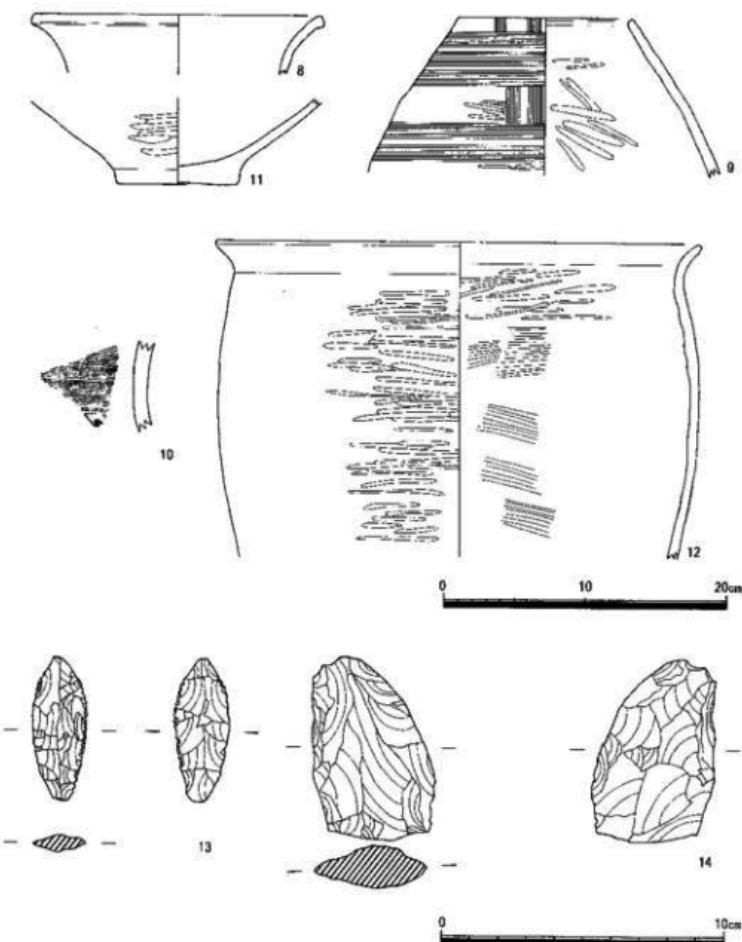
## SE-3

第II区で検出した。北部はSD-8に切られる。東西幅2.5m、南北幅1.6m、深さ0.88mを測る。内部堆積土は上から暗灰茶色細砂混粘土、灰色粘土、暗灰色粘土、灰青色粘土である。灰青色粘土内からは弥生時代中期〔河内II-2～III-2様式〕の壺（15～18）、鉢（19・20）、高環（21）、甕（22）小形甕（23）、磁石（24）が出上している。（15）は口縁端部を下外方に垂下させる広口壺。III様式と思われる。（16）は口縁部を下方に拡張する有段口縁の広口壺で、

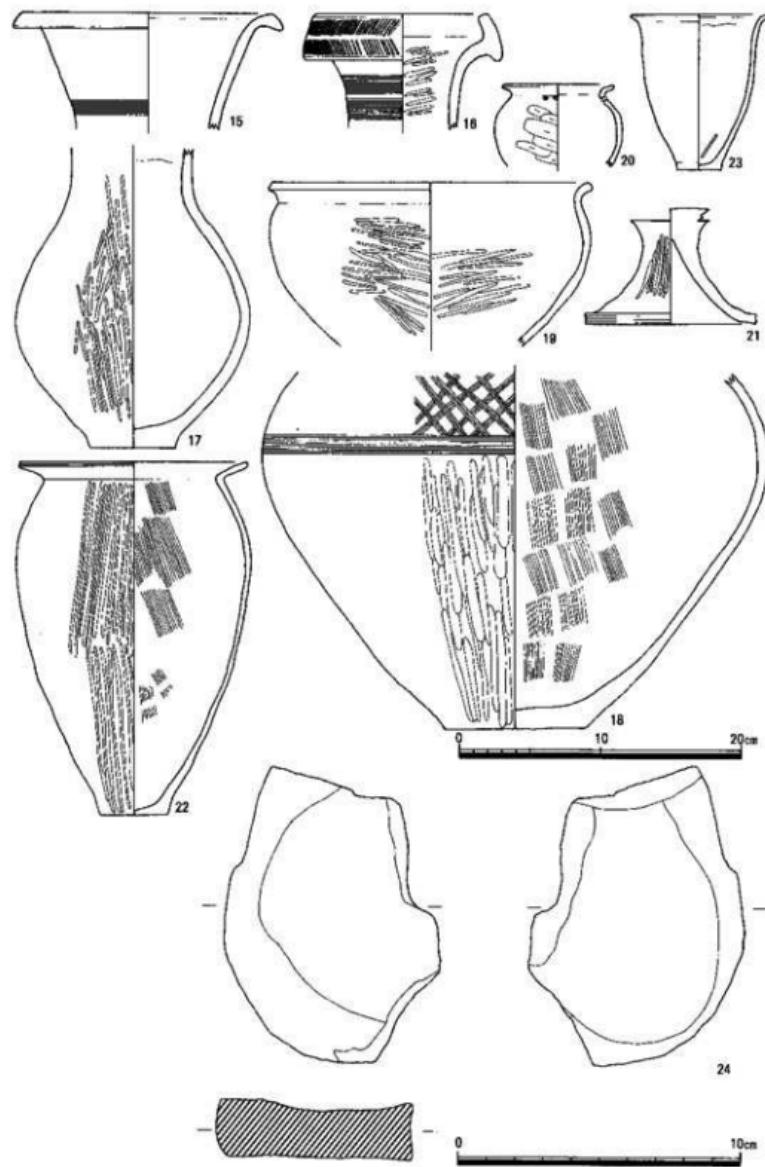


第9図 SE-2・SE-3 平断面図

内傾の度合いを強める〔河内III-2様式〕。(17)はやや細長い体部に筒状に長くのびた頸部がつく丈高の長頸の広口壺〔河内II-2様式〕。(18)は体部の最大径が上位にあり、直線文と斜格子文を施す。III様式と思われる。(19)の口縁部端面は肥厚し、体部上半が内傾する〔河内III-1様式〕。(22)体部最大径が上位にあり、口径を上回る〔河内III-1様式〕。(23)は最大径が口縁にあり、中期でもやや古いと思われる。



第10図 SE-2 (8~14) 出土遺物実測図



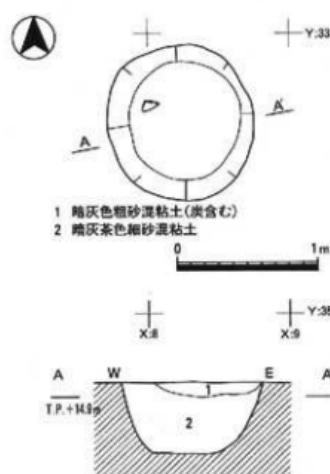
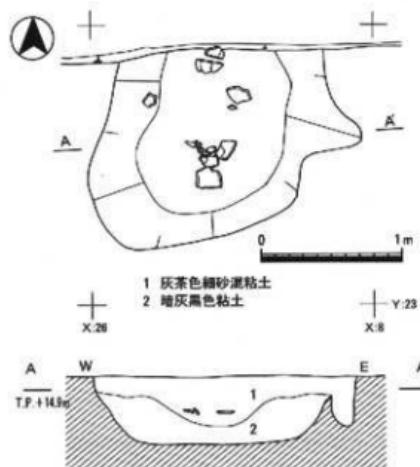
第11図 SE-3 (15~24) 出土物実測図

#### SE-4

第III区で検出した。北部は調査区外に至る。東西幅1.9m、南北幅1.4m、深さ0.5mを測る。内部堆積土は上から灰茶色細砂混粘土、暗灰黑色粘土である。暗灰黑色粘土内からは弥生時代前期末～中期初頭頃の壺(25)、甕(26)が出土している。

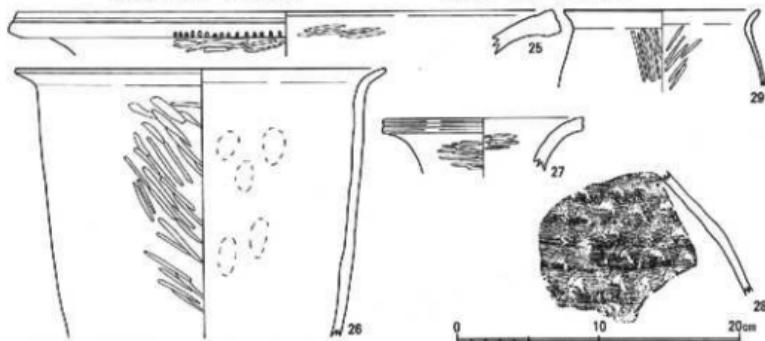
#### SE-5

第IV区で検出した。平面の形状は、円形を呈する。径1.0m、深さ0.5mを測る。内部堆積土は上から暗灰色粗砂混粘土(炭含む)、暗灰茶色細砂混粘土である。暗灰茶色細砂混粘土内からは弥生時代中期(河内II-2様式)の壺(27・28)、甕(29)が出土している。



第12図 SE-4 平断面図

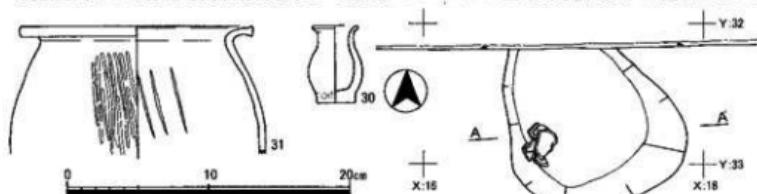
第13図 SE-5 平断面図



第14図 SE-4 (25・26) SE-5 (27~29) 出土遺物実測図

## SE-6

第IV区で検出した。平面の形状は、南北方向に長い楕円形を呈する。東西幅1.3m、南北幅1.4m、深さ0.57mを測る。内部堆積土は上から暗灰色粗砂混粘土（炭含む）である。暗灰色粗砂混粘土内からは弥生時代中期〔河内II-3様式〕のミニチュア壺（30）、甕（31）が出土している。



第16図 SE-6 (30・31) 出土遺物実測図

## SE-7

第I区で検出した。平面の形状は、円形を呈する。径1.7m、深さ0.95mを測る。

内部堆積土は上から灰茶色粗砂混粘土、灰茶色細砂混粘土、茶褐色細砂混粘土である。

茶褐色細砂混粘土内からは古墳時代前

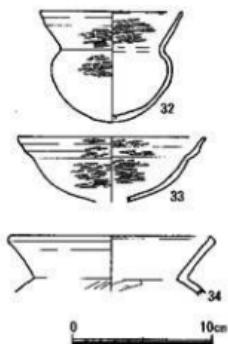
期〔布留式期古棺〕の小形壺（32）、

小形鉢（33）、甕（34）が出土してい

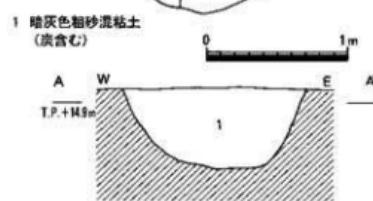
る。（32）は体部径より口径が大きい。

（33）は二段に屈曲する。（34）は「く」

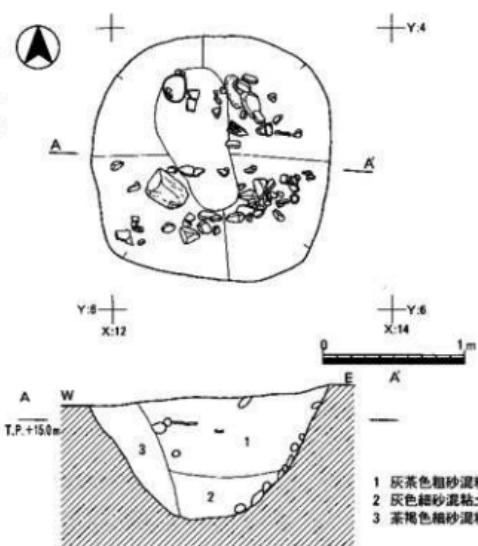
字に屈曲し外反する口縁部をもつ。



第18図 SE-7 (32~34) 出土遺物実測図



第15図 SE-6 平断面図

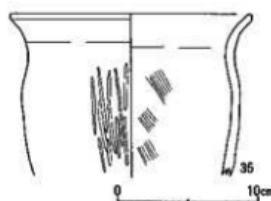


第17図 SE-7 平断面図

### 上坑 (SK)

#### SK-1

第Ⅰ区で検出した。平面の形状は東西方向に長い不定形で、東西幅2.2m、南北幅1.4m、深さ0.15mを測る。



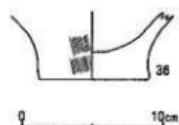
第20図 SK-1 (35)出土遺物実測図  
測る。内部堆積土は茶褐色細砂混粘土である。十坑内からは弥生時代中期の壺 (35) が出土している。(35) は体部縁が口縁を上回らない。II様式の占い様相をもつ。

#### SK-2

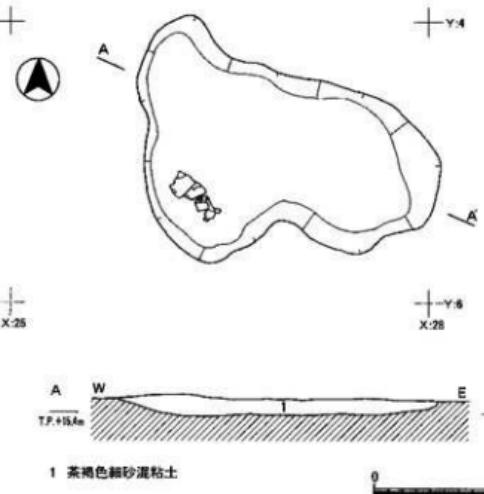
第Ⅱ区で検出した。平面の形状は南北方向に長い楕円形で、東西幅0.96m、南北幅1.85m、深さ0.14mを測る。内部堆積土は褐色粗砂混粘土である。上坑内からは弥生時代中期の壺 (36) が出土している。

#### SK-3

第Ⅲ区で検出した。検出した平面の形状は円形で、径0.7m、深さ0.36mを測る。内部堆積土は上から灰褐色細砂混粘土、灰色粘土である。十坑内からは弥生時代中期（河内III-2様式）の鉢（37）が出土している。(37) は口縁部を垂下させ簾状文と刺突文を施す。



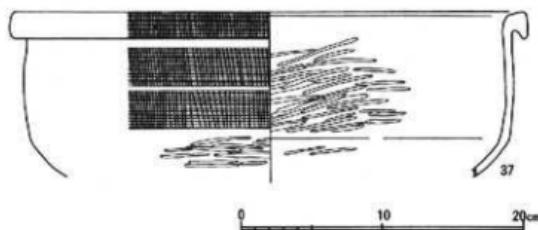
第22図 SK-2 (36)出土遺物実測図



第19図 SK-1平断面図



第21図 SK-2平断面図



第23図 SK-3 (37) 出土遺物実測図

## SK-4

第Ⅲ区で検出した。平面の形状は円形で、径0.74m、深さ0.1mを測る。内部堆積土は茶褐色細砂混粘土である。土坑内からの遺物の出土はなかった。

## SK-5

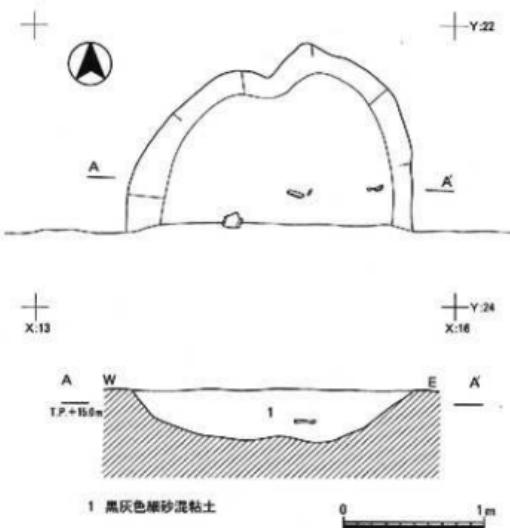
第Ⅲ区で検出した。平面の形状は半円形で、遺構の規模は、南側が調査区外に至るため不明である。深さ0.37mを測る。内部堆積土は黒灰色細砂混粘土で、内部からは弥生時代中期〔河内II-1様式〕の鉢(38)、甕(39・40)が出土している。(38)は直立し端部は面をもつ。(39・40)は口径と体部径がほぼ同じである。

## SK-6

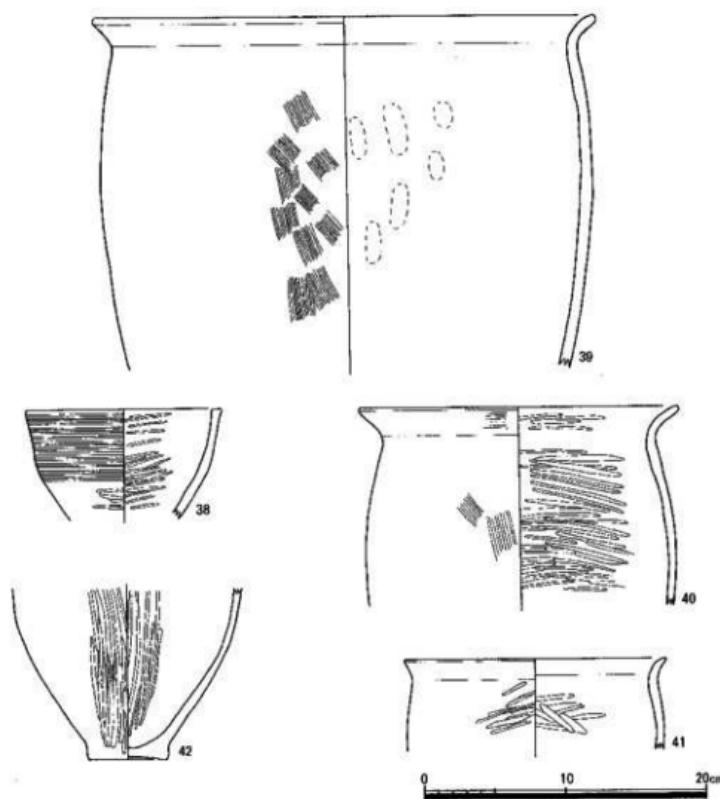
第Ⅲ区で検出した。平面の形状は東西方向に長い楕円形で、東西幅0.75m、南北幅0.36m、深さ0.2mを測る。内部堆積土は上から暗茶褐色細砂混粘土、黒灰色シルト混粘土である。土坑内からの遺物の出土はなかった。

## SK-7

第Ⅲ区で検出した。平面の形状は南北方向に長い楕円形で、東西幅0.5m、南北幅0.7m、深さ0.12mを測る。内部堆積土は上から暗茶褐色細砂混粘土、茶灰色細砂混粘土である。土坑



第24図 SK-5 平断面図



第25図 SK-5 (38~40) SK-8 (41) SK-9 (42) 出土遺物実測図

内からの遺物の出土はなかった。

#### SK-8

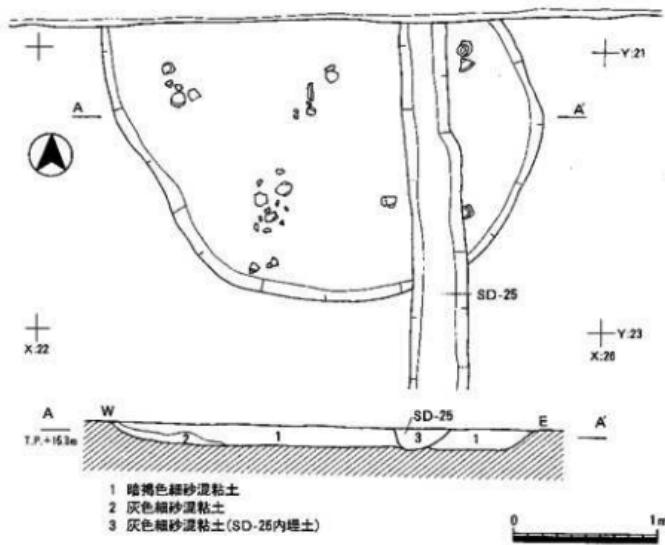
第Ⅲ区で検出した。平面の形状は隅丸の方形で、遺構の規模は、南側が調査区外に至るため不明である。深さ0.1mを測る。内部堆積土は灰黒色細砂混粘土である。土坑内からは弥生時代中期〔河内II-1様式〕の甕(41)が出土した。(41)は口径と体部径がほぼ同じ。ヘラミガキの幅は不揃いである。

#### SK-9

第Ⅲ区で検出した。平面の形状は南北方向に長い精円形で、東西幅0.66m、南北幅1.36m、深さ0.14mを測る。内部堆積土は灰黒色細砂混粘土である。土坑内からは弥生時代中期〔河内II-2様式〕の甕(42)が出土した。(42)は器壁が薄く体部のふくらみがめだつ。

## SK-10

第Ⅲ区で検出した。平面の形状は半梢円形で、遺構の規模は、北側が調査区外に至るため不明である。深さ0.15mを測る。内部堆積土は上から暗褐色細砂混粘土、灰色細砂混粘土である。土坑内からは弥生時代中期〔河内II-1様式〕の壺(43)、高环(44)、甕(45)、〔河内III-1様式〕の甕(46)、石槍(47)、石鎌(48)が出土している。(43)は端部に面をもつ。波状文、



第26図 SK-10平断面図

直線文を施す。(44)は中実の高环。(45)は体部最大径より口径が大きい。(46)は体部最大径が口縁を上回る。

## SK-11

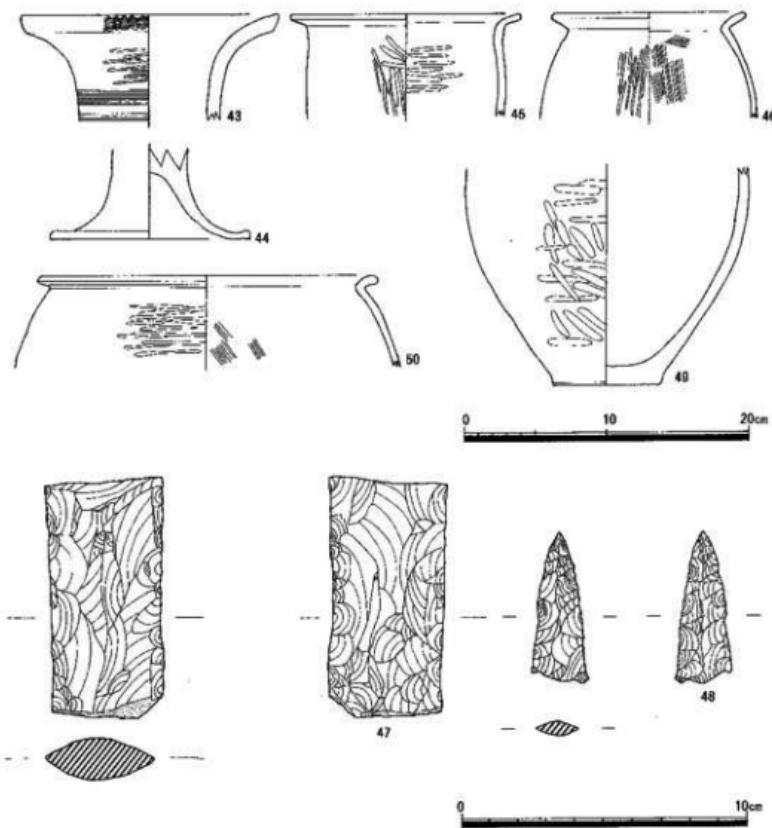
第Ⅲ区で検出した。平面の形状は南北方向に長い梢円形で、東西幅0.34m、南北幅0.72m、深さ0.25mを測る。内部堆積土は暗灰色細砂混粘土である。上坑内からの遺物の出土はなかった。

## SK-12

第Ⅲ区で検出した。平面の形状は南北方向に長い梢円形で、東西幅0.5m、南北幅1.2m、深さ0.15mを測る。内部堆積土は灰茶色細砂混粘土である。土坑内からは弥生時代中期の壺(49)が出土している。(49)は球形の体部。河内II-1からII-3様式の壺と思われる。

## SK-13

第Ⅲ区で検出した。平面の形状は東西方向に長い梢円形で、東西幅0.55m、南北幅0.66m、

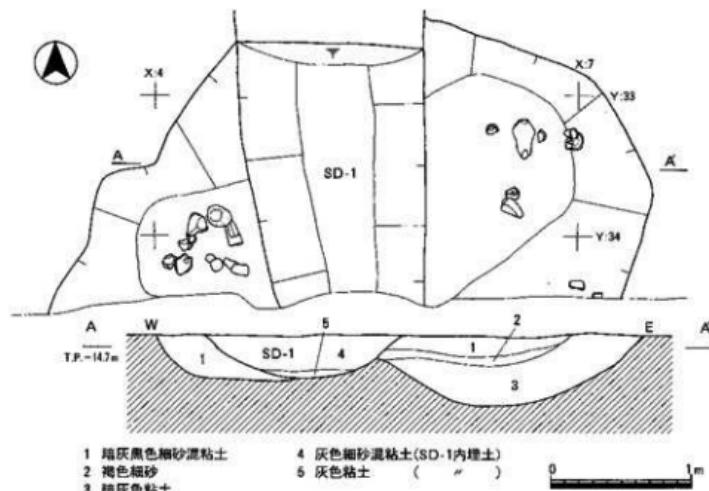


第27図 SK-10 (43~48) SK-12 (49) SK-13 (50) 出土遺物実測図

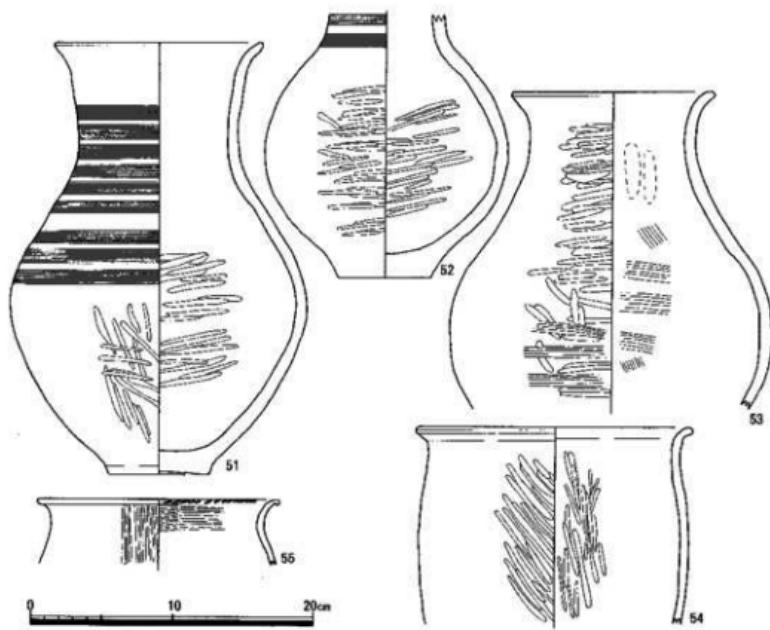
深さ0.24mを測る。内部堆積土は暗灰褐色細砂混粘土である。土坑内からは弥生時代中期の甕(50)が出土している。(50)は体部最大径が上半にあたり、口徑を上回る。Ⅲ様式と思われる。

#### SK-14

第IV区で検出した。SD-1が中央部を南北方向に切り、平面の形状は半梢円形で、遺構の規模は、南側が調査区外に立るため不明である。深さ0.5mを測る。内部堆積土は暗灰黑色細砂混粘土、褐色細砂、暗灰色粘土である。土坑内からは弥生時代中期〔河内II-1様式〕の壺(51~53)、甕(54~55)が出土している。(51~53)は算盤長形に近い球形の体部。直立に立ち上がる頭部から外反する口縁部。丈長の広口壺。(52)は球形の体部から直立に立ち上がる頭部がつく、丈長の広口壺と思われる。(54)は口径と体部最大径がほぼ同じ。ヘラミガキの單



第28図 SK-14断面図



第29図 SK-14 (51~55) 出土遺物実測図

位の幅は不揃いである。(55) は内面横方向、外面縦方向のハケ目。口縁端部内面にキザミ目を施す。II様式の大和型の壺である。

#### 竪穴住居 (S I)

S I - 1

第I区で検出した。竪穴住居と推定される南部のコーナーを検出した。

平面の形状は隅丸の方形を呈する。

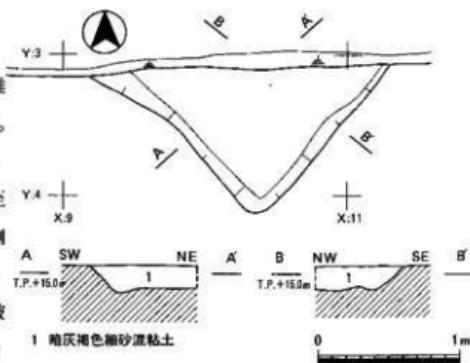
遺構の規模は、北側が調査区外に至るため不明である。深さ0.15mを測

る。埋土は暗灰褐色細砂混粘土で、

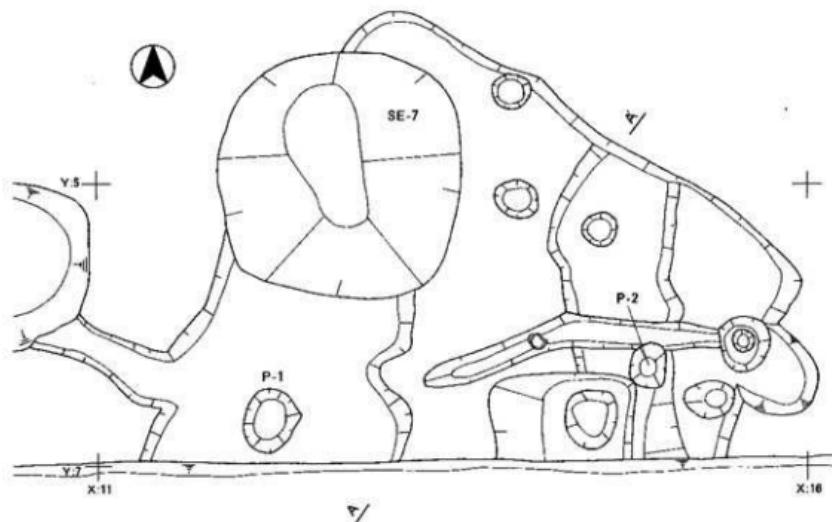
内部からは弥生時代中期の土器の破

片が少量出土している。壁溝状のく

ぼみが内側に見られた。



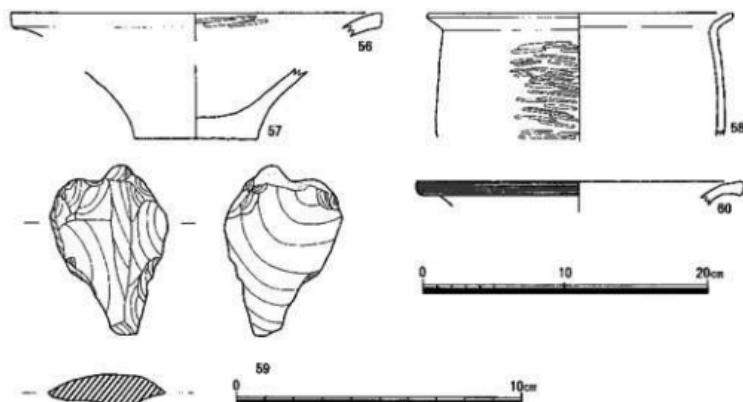
第30図 S I - 1 平断面図



第31図 S I - 2 平断面図

## S I - 2

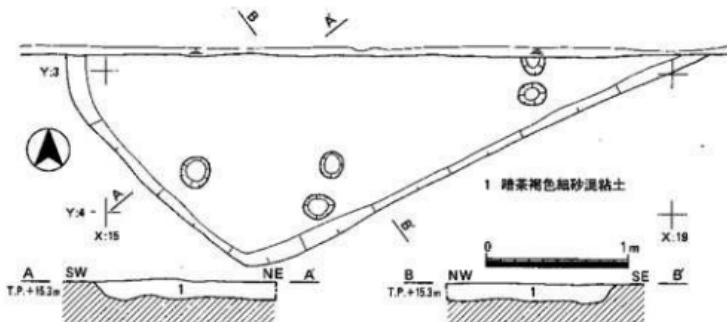
第I区で検出した。隅丸の方形を呈し、規模は一辺3.6m深さ0.25mを測る。床面は東が高く、西が低い。両端の高低差は0.2mを測る。埋上は暗茶褐色細砂混粘土、茶黄色シルト混粘土、灰茶色粘土である。主柱穴はP-1とP-2である。北側の主柱穴はS E - 7で切られしており、また、南側の主柱穴は調査区の外にあり確認できなかった。内部からは弥生時代中期(河内II-1様式)の壺(56・57)、甕(58)、石錐(59)が出土した。(56)は口縁端部に面をもつ。(57)は球形の体部をもつ壺と思われる。(58)は体部最大径と口径がほぼ同じである。



第32図 S I - 2 (56~59) S I - 3 (60) 出土遺物実測図

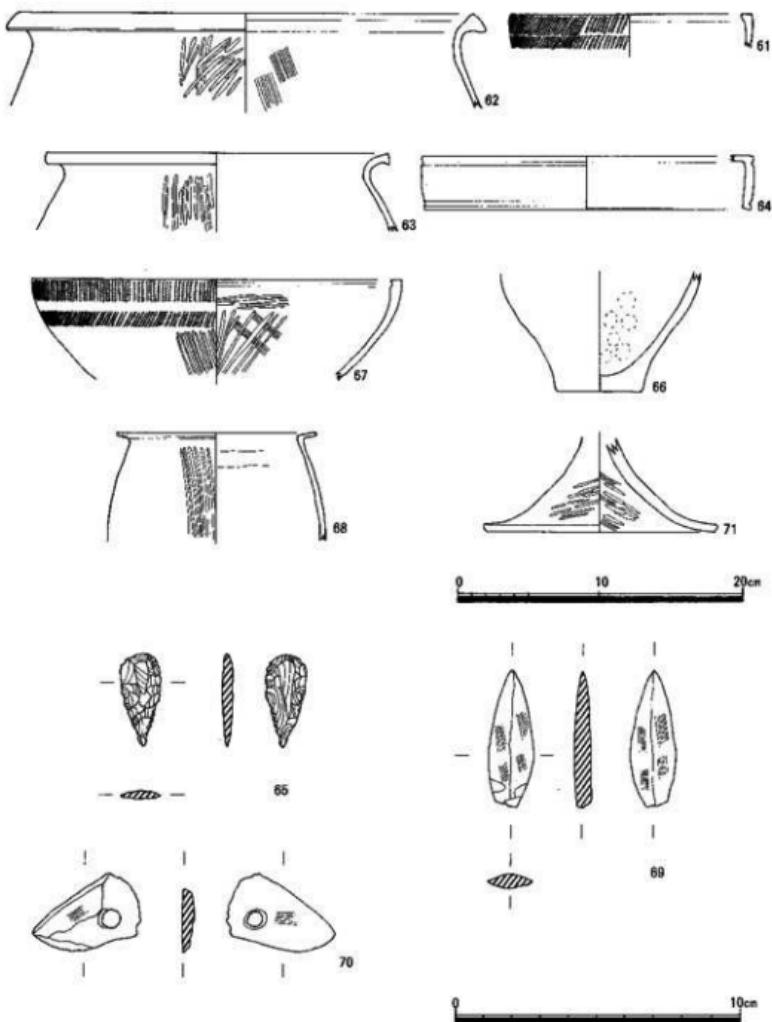
## S I - 3

第I区で検出した。平面の形状は、隅丸の方形を呈する。規模は北側が調査区外に至るため不明である。深さ0.12mを測る。床面は東が高く、西が低い。両端の高低差は0.1mを測る。



第33図 S I - 3 平断面図

埋土は暗茶褐色細砂混粘土で、内部からは弥生時代中期〔河内II-2様式〕の壺(60)が出土した。壁溝状のくぼみが内側に見られた。(60)は口縁端部に面をもち、直線文を施す。



第34図 SP-13 (61・62) SP-19 (63) SP-23 (64) SP-29 (65) SP-37 (66)  
SP-71 (67~69) SP-105 (70) SP-182 (71) 出土遺物実測図

## 小穴 (S P)

S P - 1 ~ S P - 195

第1区から第IV区の全域で検出した。平面形状は楕円形と円形が大半で、径0.12~0.88m、深さ0.3~0.45mを測る。内部堆積土は下記の表に示した。小穴の中には柱痕が確認できるものも含まれていた。S P - 13内からは弥生時代中期(河内IV-1様式)の細頭壺(61)、壺(62)が、S P - 19内からは弥生時代中期(河内IV-1様式)の壺(63)が、S P - 23内からは弥生時代中期(河内IV-2様式)の高杯(64)が、S P - 29内からは弥生時代中期の石錐(65)が、S P - 37内からは弥生時代中期の壺(66)が、S P - 71内からは弥生時代中期(河内IV-1様式)の高

小穴番号	区	地区	平面形状	径(m)	反対径(m)	深度(m)	堆積土	出土遺物	備考
SP-1	I	1b	円形	0.3		0.06	灰色細砂混粘土		
SP-2	I	1-2b	楕円形		0.7	0.5	灰色細砂混粘土		
SP-3	I	1b	円形	0.27		0.11	灰色細砂混粘土		
SP-4	I	1b	円形	0.21		0.09	灰色細砂混粘土		
SP-5	I	1b	円形	0.27		0.11	灰色細砂混粘土		
SP-6	I	1b	楕円形		0.3	0.24	灰色細砂混粘土		
SP-7	I	1b	楕円形		0.32	0.23	灰色細砂混粘土		
SP-8	I	1c	楕円形		0.36	0.24	灰色細砂混粘土		
SP-9	I	1c	円形	0.28		0.07	灰色細砂混粘土		
SP-10	I	1c	円形	0.27		0.08	灰色細砂混粘土		
SP-11	I	2e	円形	0.21		0.1	灰色シルト混粘土		
SP-12	I	2c	円形	0.29		0.18	灰色シルト混粘土		
SP-13	I	2e	楕円形		0.39	0.32	灰色シルト混粘土	61-62	
SP-14	I	2e	円形	0.29		0.25	灰色シルト混粘土		
SP-15	I	2e	円形	0.26		0.1	灰色シルト混粘土		
SP-16	I	2a	不定形		0.64	0.46	灰色シルト混粘土		
SP-17	I	2c	円形	0.18		0.1	灰色シルト混粘土		
SP-18	I	1e	円形	0.3		0.11	灰色シルト混粘土		
SP-19	I	1e	楕円形		0.5	0.28	灰色シルト混粘土	63	
SP-20	I	1e	円形	0.5		0.07	灰色シルト混粘土		
SP-21	I	1e	円形	0.22		0.11	灰色シルト混粘土		
SP-22	I	1e	楕円形		0.9	0.6	灰色シルト混粘土		
SP-23	I	1f	円形	0.22		0.07	灰色シルト混粘土	64	
SP-24	I	1f	円形	0.3		0.1	灰色シルト混粘土		
SP-25	I	1f	円形	0.2		0.15	灰色シルト混粘土		
SP-26	I	1f	楕円形		0.38	0.18	灰色シルト混粘土		
SP-27	I	1f	楕円形		0.42	0.2	灰色シルト混粘土		
SP-28	I	1-2d	円形	0.15		0.14	灰色シルト混粘土		
SP-29	I	2d	円形	0.16		0.05	灰色シルト混粘土	65	
SP-30	I	2f	円形	0.2		0.15	灰色シルト混粘土		
SP-31	I	1f	円形	0.18		0.12	灰色シルト混粘土		
SP-32	I	1f	円形	0.23		0.1	灰色シルト混粘土		
SP-33	I	1f	円形	0.18		0.14	灰色シルト混粘土		
SP-34	I	2f	円形	0.12		0.14	灰色シルト混粘土		
SP-35	I	1f	円形	0.16		0.06	灰色シルト混粘土		
SP-36	I	1g	円形	0.15		0.1	灰色シルト混粘土		
SP-37	I	2f	円形	0.24		0.08	灰色シルト混粘土	66	
SP-38	II	3a	楕円形		0.485	0.36	灰色細砂混粘土		
SP-39	II	3a	楕円形	外0.88 内0.46	外0.77 内0.22	外0.365 内0.129	褐色細砂混粘土		
SP-40	II	3a	楕円形		0.31	0.22	0.165	褐色細砂混粘土	
SP-41	II	3a	円形	0.48			褐色細砂混粘土		
SP-42	II	3b	楕円形		0.47	0.4	0.309	褐色細砂混粘土	
SP-43	II	3c	円形	0.22		0.049	褐色細砂混粘土		
SP-44	II	3c	円形	0.21		0.151	褐色細砂混粘土		
SP-45	II	3c	円形	0.22		0.058	褐色細砂混粘土		
SP-46	II	3c	円形	0.13		0.026	褐色細砂混粘土		
SP-47	II	3c	楕円形		0.29	0.2	0.103	褐色細砂混粘土	
SP-48	II	3c	楕円形		0.34	0.26	0.233	褐色細砂混粘土	
SP-49	II	3c	円形	0.31		0.176	褐色細砂混粘土		
SP-50	II	3c	楕円形		0.33	0.36	0.13	褐色細砂混粘土	
SP-51	II	3c	円形	0.22		0.051	褐色細砂混粘土		
SP-52	II	3c	楕円形		0.22	0.18	0.049	褐色細砂混粘土	
SP-53	II	3c	楕円形		0.28	0.24	0.063	褐色細砂混粘土	

第2表 小穴法量表(1)

小穴名	区	底区	平面形状	长(m)	宽(m)	深(m)	土质	出产物	参考
SP-54	II	3c	円形	0.14			褐色细砂砾土		
SP-55	II	3d	円形	0.19			褐色细砂砾土		
SP-56	II	3d	椭圆	0.14			褐色细砂砾土		
SP-57	II	3d	椭圆	0.38	0.3		褐色细砂砾土		
SP-58	II	3d	椭圆	0.29	0.24		褐色细砂砾土		
SP-59	II	3c	円形	0.28			褐色细砂砾土		
SP-60	II	3d	円形	0.2			褐色细砂砾土		
SP-61	II	3d	椭圆		0.28	0.25	褐色细砂砾土		
SP-62	II	3d	円形	0.24			褐色细砂砾土		
SP-63	II	3d	円形	0.28			褐色细砂砾土		
SP-64	II	3d	円形	0.2			褐色细砂砾土		
SP-65	II	3d	円形	0.15			褐色细砂砾土		
SP-66	II	3d	円形	0.28			褐色细砂砾土		
SP-67	II	3d	椭圆	0.43	0.2	0.211	褐色细砂砾土		
SP-68	II	3d	円形	0.22			褐色细砂砾土		
SP-69	II	3d-e	椭圆		0.32	0.44	褐色细砂砾土		
SP-70	II	3e	円形	0.29			褐色细砂砾土		
SP-71	II	3e	椭圆	0.69	0.56	0.318	褐色细砂砾土		
SP-72	II	3e	長方形	0.64	0.52	0.366	褐色细砂砾土		
SP-73	II	3e	椭圆	0.36	0.25	0.176	褐色细砂砾土		
SP-74	II	3e	円形	0.24			褐色细砂砾土		
SP-75	II	3e	円形	0.22			褐色细砂砾土		
SP-76	II	3e	円形	0.21			褐色细砂砾土		
SP-77	II	3e	円形	0.32			褐色细砂砾土		
SP-78	II	3e	円形	0.16			褐色细砂砾土		
SP-79	II	3e	円形	0.3			褐色细砂砾土		
SP-80	II	3e	円形	0.29			褐色细砂砾土		
SP-81	II	3e	円形	0.26			褐色细砂砾土		
SP-82	II	3e	椭圆		0.32	0.2	褐色细砂砾土		
SP-83	II	3e	円形	0.47			褐色细砂砾土		
SP-84	II	3e	円形	0.28			褐色细砂砾土		
SP-85	II	3e	円形	0.23			褐色细砂砾土		
SP-86	II	3e	円形	0.24			褐色细砂砾土		
SP-87	II	3e	円形	0.21			褐色细砂砾土		
SP-88	II	3e	円形	0.16			褐色细砂砾土		
SP-89	II	3e	円形	0.23			褐色细砂砾土		
SP-90	II	3e	椭圆		0.2	0.18	褐色细砂砾土		
SP-91	II	3e	円形	0.31			褐色细砂砾土		
SP-92	II	3f	円形	0.38			褐色细砂砾土		
SP-93	II	3e	円形	0.28			褐色细砂砾土		
SP-94	II	3e	円形	0.22			褐色细砂砾土		
SP-95	II	3e	円形	0.22			褐色细砂砾土		
SP-96	II	3e	円形	0.38			褐色细砂砾土		
SP-97	II	3f	円形	0.24			褐色细砂砾土		
SP-98	II	3f	椭圆		0.42	0.34	褐色细砂砾土		
SP-99	II	3f	円形	0.28			褐色细砂砾土		
SP-100	II	3f	円形	0.2			褐色细砂砾土		
SP-101	II	3f	椭圆		0.55	0.46	褐色细砂砾土		
SP-102	II	3f	円形	0.23			褐色细砂砾土		
SP-103	II	3f	円形	0.17			褐色细砂砾土		
SP-104	II	3f	円形	0.24			褐色细砂砾土		
SP-105	II	3f	円形	0.36			褐色细砂砾土		
SP-106	II	3f	円形	0.22			褐色细砂砾土		
SP-107	II	3f	椭圆		0.38	0.26	褐色细砂砾土		
SP-108	II	3f	円形	0.18			褐色细砂砾土		
SP-109	II	3f	円形	0.28			褐色细砂砾土		
SP-110	II	3f	円形	0.32			褐色细砂砾土		
SP-111	II	3f	円形	0.68			褐色细砂砾土		
SP-112	II	3f	椭圆		0.4	0.26	褐色细砂砾土		
SP-113	II	3f	椭圆		0.39	0.28	褐色细砂砾土		
SP-114	II	3f	円形	0.24			褐色细砂砾土		
SP-115	II	3f	円形	0.24			褐色细砂砾土		
SP-116	II	3f	円形	0.3			褐色细砂砾土		
SP-117	II	3f	椭圆		0.49	0.29	褐色细砂砾土		
SP-118	II	3f	椭圆		0.44	0.32	褐色细砂砾土		
SP-119	II	3f	円形	0.16			褐色细砂砾土		
SP-120	II	3f	円形	0.37			褐色细砂砾土		
SP-121	II	3f	椭圆		0.56	0.36	褐色细砂砾土		
SP-122	II	3f	椭圆		0.71	0.51	褐色细砂砾土		
SP-123	II	3f	円形	0.3			褐色细砂砾土		
SP-124	II	3f	円形	0.22			褐色细砂砾土		
SP-125	II	3f	椭圆		0.38	0.29	褐色细砂砾土		
SP-126	II	3f	椭圆		0.4	0.24	褐色细砂砾土		
SP-127	II	3f	椭圆		0.28	0.2	褐色细砂砾土		

第3表 小穴法量表(2)

小穴番号	区	地区	平面形状	極(φ)	長径(a)	短径(b)	深さ(m)	堆積土	出土遺物	備考
SP-128	II	3f	円形	0.3			0.186	褐色細砂混粘土		
SP-129	II	3f	円形	0.4			0.165	褐色細砂混粘土		
SP-130	II	3f	椭円形		0.52	0.26	0.185	褐色細砂混粘土		
SP-131	II	3f	円形	0.3			0.104	褐色細砂混粘土		
SP-132	II	3f	円形	0.25			0.188	褐色細砂混粘土		
SP-133	II	3f*g	椭円形		0.26	0.22	0.179	褐色細砂混粘土		
SP-134	II	3g	円形	0.17			0.103	褐色細砂混粘土		
SP-135	II	3g	円形	0.26			0.103	褐色細砂混粘土		
SP-136	II	3g	椭円形		外0.54 内0.38	外0.36 内0.14	外0.199 内0.118	褐色細砂混粘土		
SP-137	II	3g	円形	0.43			0.045	褐色細砂混粘土		
SP-138	II	3t	円形	0.28			0.076	褐色細砂混粘土		
SP-139	II	3t	円形	0.2			0.304	褐色細砂混粘土		
SP-140	II	3b	円形	0.25			0.262	褐色細砂混粘土		
SP-141	II	5a	円形	0.3			0.12	暗褐色細砂混粘土		
SP-142	II	5a	円形	0.25			0.21	暗褐色細砂混粘土		
SP-143	II	5a	円形	0.35			0.2	暗褐色細砂混粘土		
SP-144	II	5a	円形	0.27			0.2	暗褐色細砂混粘土		
SP-145	II	5a	円形	0.32			0.26	暗褐色細砂混粘土		
SP-146	II	5a	円形	0.28			0.21	暗褐色細砂混粘土		
SP-147	II	5b	円形	0.28			0.14	暗褐色細砂混粘土		
SP-148	II	5b	円形	0.22			0.14	暗褐色細砂混粘土		
SP-149	II	5b	円形	0.19			0.14	暗褐色細砂混粘土		
SP-150	II	5b	円形	0.18			0.15	暗褐色細砂混粘土		
SP-151	II	5b	円形	0.19			0.07	暗褐色細砂混粘土		
SP-152	II	5b	椭円形		0.52	0.38	0.32	暗褐色細砂混粘土		
SP-153	II	5b	円形	0.17			0.06	暗褐色細砂混粘土		
SP-154	II	5b	椭円形		0.48	0.42	0.16	暗褐色細砂混粘土		
SP-155	II	5c	円形	0.21			0.08	暗褐色細砂混粘土		
SP-156	II	5c	椭円形		0.8	0.54	0.1	暗褐色細砂混粘土		北側に一段盛りがある。
SP-157	II	5c	円形	0.36			0.1	暗褐色細砂混粘土		
SP-158	II	5c	円形	0.4			0.12	暗褐色細砂混粘土		
SP-159	II	5d	円形	0.24			0.13	暗褐色細砂混粘土		
SP-160	II	5d	円形	0.23			0.16	暗褐色細砂混粘土		
SP-161	II	5d	円形	0.2			0.12	暗褐色細砂混粘土		
SP-162	II	5d	円形	0.24			0.13	暗褐色細砂混粘土		
SP-163	II	5d	円形	0.25			0.08	暗褐色細砂混粘土		
SP-164	II	5b	椭円形		0.49	0.4	0.08	褐色細砂混粘土		
SP-165	II	5b	椭円形		0.46	0.38	0.15	褐色細砂混粘土		
SP-166	IV	7b	円形	0.35			0.18	灰黑色細砂混粘土		
SP-167	IV	7c	円形	0.37			0.15	灰黑色細砂混粘土		
SP-168	IV	7c	椭円形		0.4	0.25	0.2	灰黑色細砂混粘土		
SP-169	IV	7c	円形	0.25			0.1	灰黑色細砂混粘土		
SP-170	IV	7c	円形	0.28			0.1	灰黑色細砂混粘土		
SP-171	IV	7c	円形	0.2			0.15	灰黑色細砂混粘土		
SP-172	IV	7c	円形	0.19			0.15	灰黑色細砂混粘土		
SP-173	IV	7c	円形	0.2			0.14	灰黑色細砂混粘土		
SP-174	IV	7c	円形	0.18			0.04	灰黑色細砂混粘土		
SP-175	IV	7d	円形	0.12			0.04	灰黑色細砂混粘土		
SP-176	IV	7d	円形	0.28			0.2	灰黑色細砂混粘土		
SP-177	IV	7d	円形	0.12			0.12	灰黑色細砂混粘土		
SP-178	IV	7d	円形	0.22			0.14	灰黑色細砂混粘土		
SP-179	IV	7d	円形	0.4			0.3	灰黑色細砂混粘土		
SP-180	IV	7f	円形	0.3			0.22	暗灰色シルト混粘土		
SP-181	IV	7f	椭円形		0.52	0.32	0.1	暗灰色シルト混粘土		
SP-182	IV	7f	円形	0.6			0.17	暗灰色シルト混粘土	71	
SP-183	IV	7f	円形	0.22			0.07	暗灰色シルト混粘土		
SP-184	IV	7f	円形	0.33			0.12	暗灰色シルト混粘土		
SP-185	IV	7f	椭円形		0.52	0.36	0.2	暗灰色シルト混粘土		
SP-186	IV	7f	円形	0.28			0.08	暗灰色シルト混粘土		
SP-187	IV	7f	円形	0.26			0.14	暗灰色シルト混粘土		
SP-188	IV	7h	円形	0.3			0.1	暗灰色シルト混粘土		
SP-189	IV	7h	円形	0.24			0.11	暗灰色シルト混粘土		
SP-190	IV	7h	椭円形		0.46	0.3	0.04	暗灰色シルト混粘土		
SP-191	IV	7h	円形	0.34			0.17	暗灰色シルト混粘土		
SP-192	IV	7h	円形	0.5			0.16	暗灰色シルト混粘土		
SP-193	IV	7h	円形	0.2			0.08	暗灰色シルト混粘土		
SP-194	IV	7h	円形	0.45			0.12	暗灰色シルト混粘土		
SP-195	IV	7h	円形	0.26			0.07	暗灰色シルト混粘土		

第4表 小穴法量表 (3)

坏(67)、甕(68)、磨製石鐵(69)が、S P - 105内からは弥生時代中期の石包丁(70)、S P - 182内からは弥生時代中期の蓋(71)が出土している。(第2~4表参照)

#### 溝(S D)

##### S D - 1

第I区~第IV区で検出した南北方向の溝で、幅1.0~1.8m、深さ0.3~0.8mを測る。溝の埋土は暗褐色細砂、淡灰色シルト混粘土、淡黄灰色粘土、灰色粘土、暗灰色粘土で、溝内からは弥生時代中期の蓋(72・73)、壺(74・75)、高坏(76)、甕(77・78)が出土している。(72)は大きく内湾してひろがる、甕用の蓋。II~III様式と思われる。(73)はハの字にひろがる蓋

で、III様式と思われる。(74)は受け口状口縁壺。上方のみ拡張する。[河内III-1様式]。

(75)は口縁端部がやや垂下し、面をもつ。

無文の壺。[河内II-3様式]。(76)は楕円形の高坏。端部を内外に肥厚させて面をもつ。

直立気味に立ち上がる口縁部。[河内IV-1様式]。(77)は「く」字状に外反する口縁部の大形甕。胴部の張りが大きい。[河内III-2様式]。(78)は「く」字状に外反する口縁部の小形甕で、(73)が蓋になると思われる。

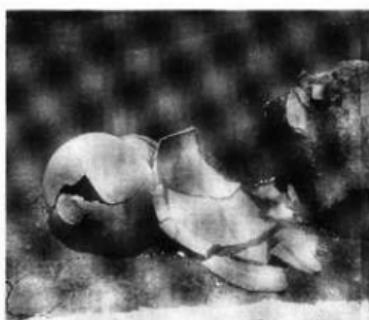
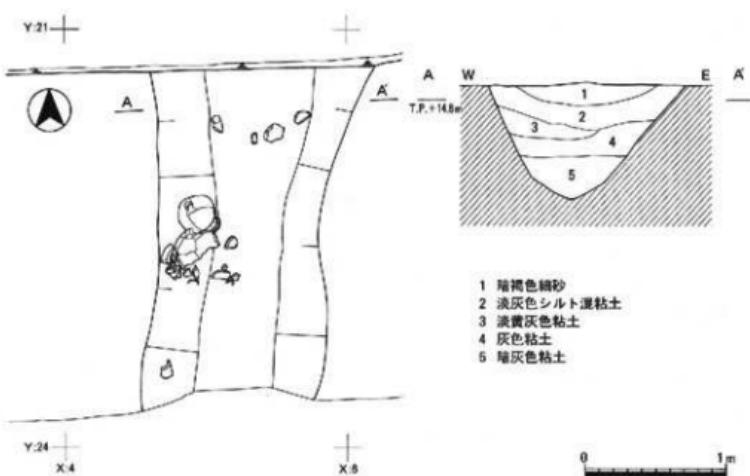
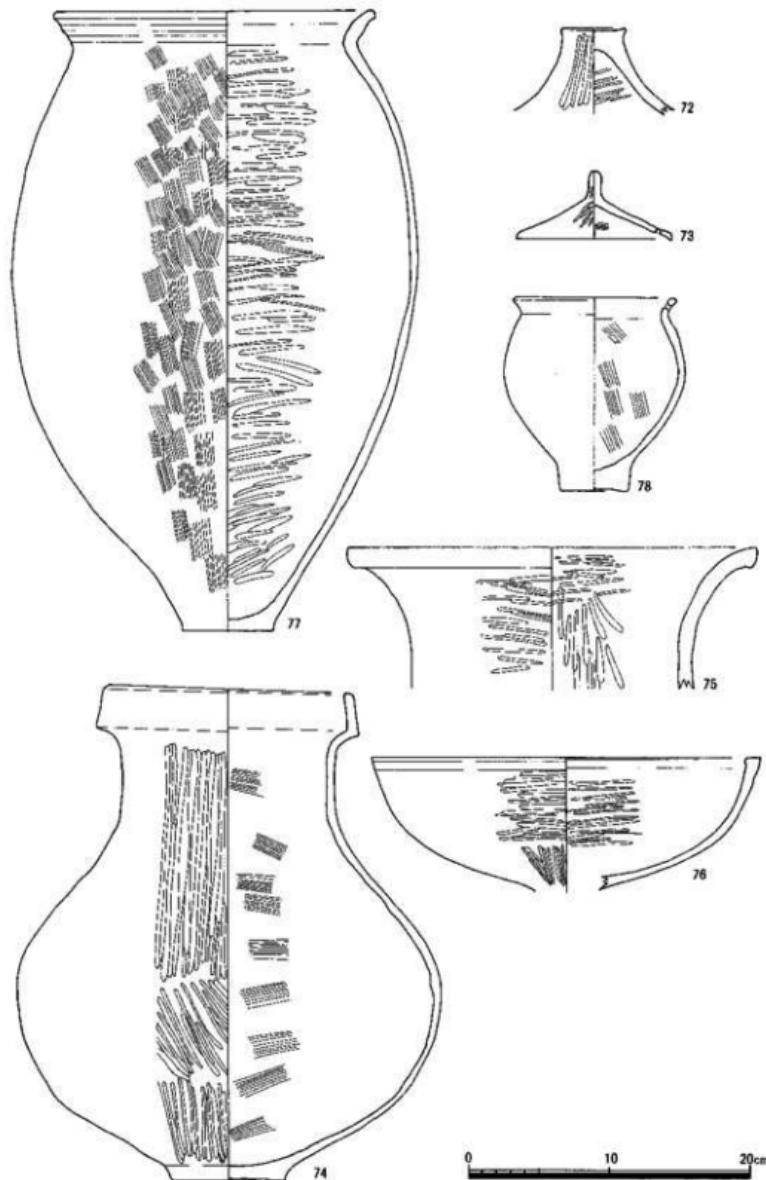


写真2 第III区 SD-1 遺物出土状況（西から）



第35図 第III区 SD-1 平断面図



第36図 SD-1 (72~78) 出土遺物実測図

## SD-2

第1区で検出した南北方向の溝で、北はSD-3と合流し、南は調査区外に至る。幅1.0～1.6m、深さ0.6mを測る。埋土は、暗灰色細砂混粘土で、溝内から弥生時代中期の垂下口縁を持つ壺(79～81)、垂下口縁に内傾する付加状口縁を持つ壺(82・83)、口縁部内外面に加飾を持つ壺(84・85)、大形細頸壺(86・87)、鉢(88・89)、高坏(90)、甕(91・92)、蓋(93)が出土している。(79)は口縁下端が垂下する。口縁部内面の全面に円形浮文を貼り付ける大形広口壺。[河内IV-3様式]。(80・81)の形態は(79)と同じ。[河内IV-2～IV-3様式]。(82)は付加状の口縁をもち、下方部へ大きく垂下する広口壺。[河内IV-1様式]。(83)の形態は(82)と同じ。長頸の広口壺。[河内IV-1様式]。(84)は頸部と口縁端面に凹線文を施す。口縁部内面に列点文、円形竹管文を施す。[河内IV-1～2様式]。(85)は頸部と口縁端面に凹線文を施す。口縁部内面に列点文、波状文を施す。[河内IV-1～2様式]。(86)の口縁部は内湾し、端部に面をもつ大形の細頸壺。[河内IV-2様式]。(87)は直立ぎみでやや内湾する口縁部をもつ大形の細頸壺。[河内IV-1様式]。(88)の口縁部は段状に肥厚して面をもつ。やや内側へ口縁部が傾斜する鉢。[河内IV-2様式]。(89)の口縁部は段状に肥厚して面をもつ。直立する口縁部をもつ鉢。[河内IV-2様式]。(90)は口縁端部に面をもつ。櫛描列点を施す高坏。[河内IV-1様式]。(91)は口縁部が下方に垂下する。Ⅲ～Ⅳ様式と思われる。(92)は外面ハケを施す。口縁部はくびれが鋭く、端面を上方に拡張させる壺。[河内IV-1様式]。(93)はハの字にひらく。Ⅲ様式の蓋と思われる。

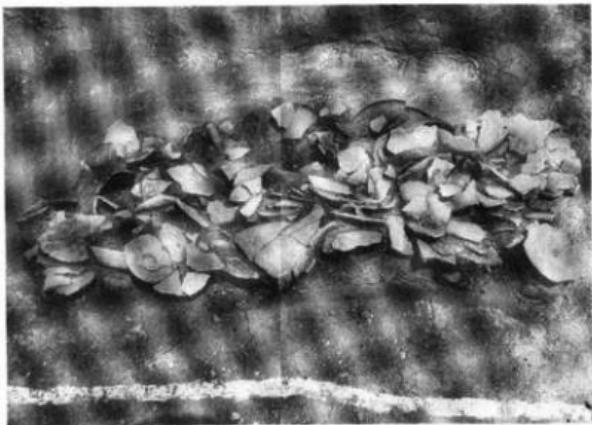
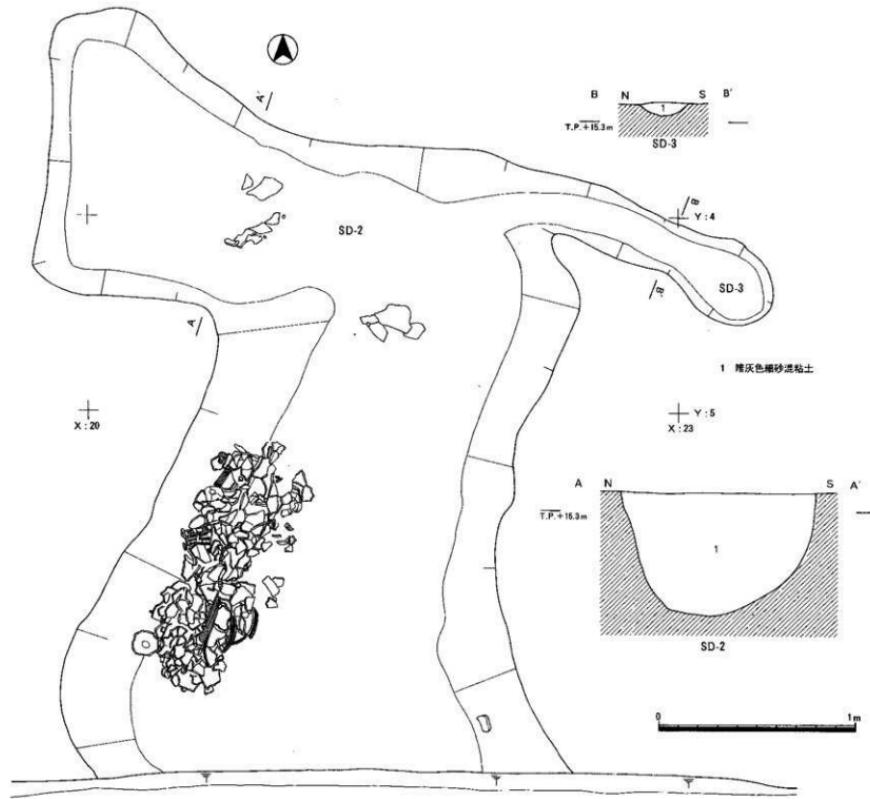
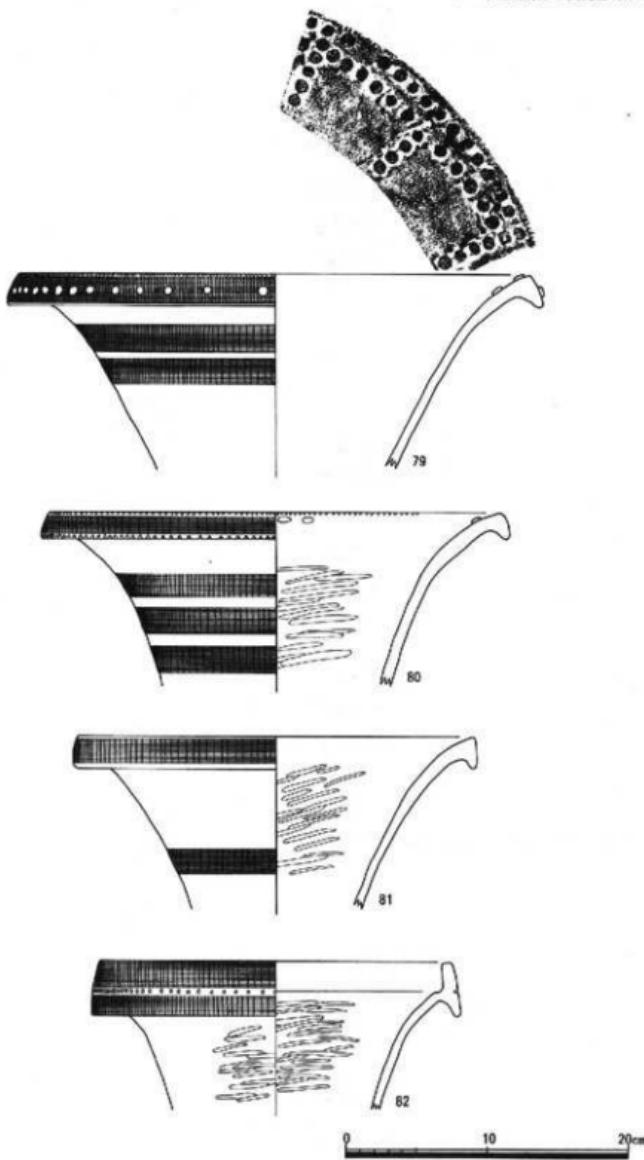


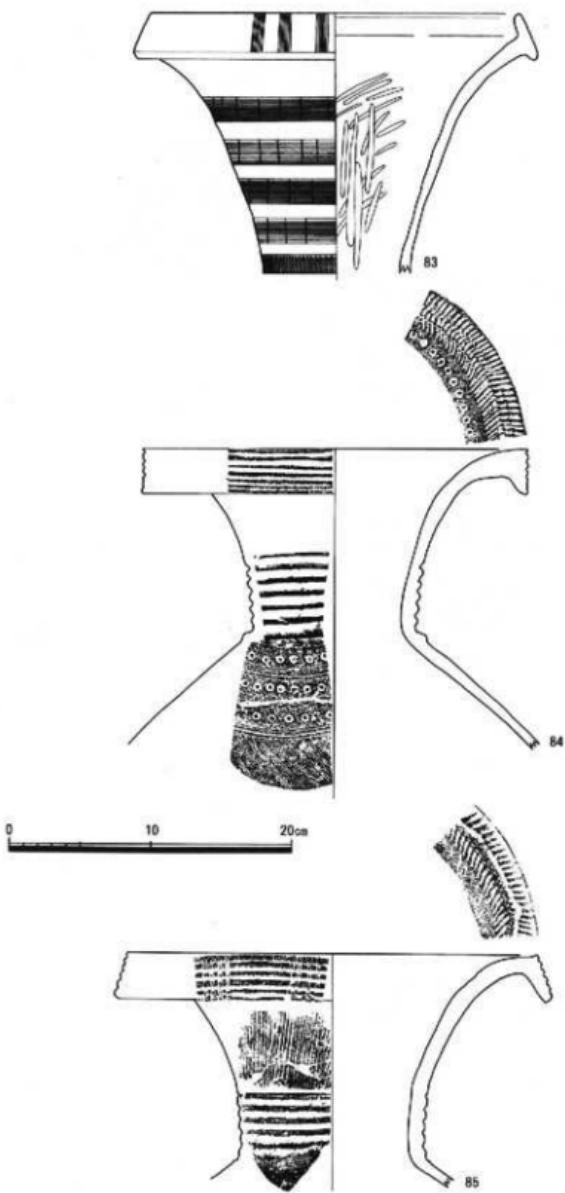
写真3 SD-2遺物出土状況（西から）



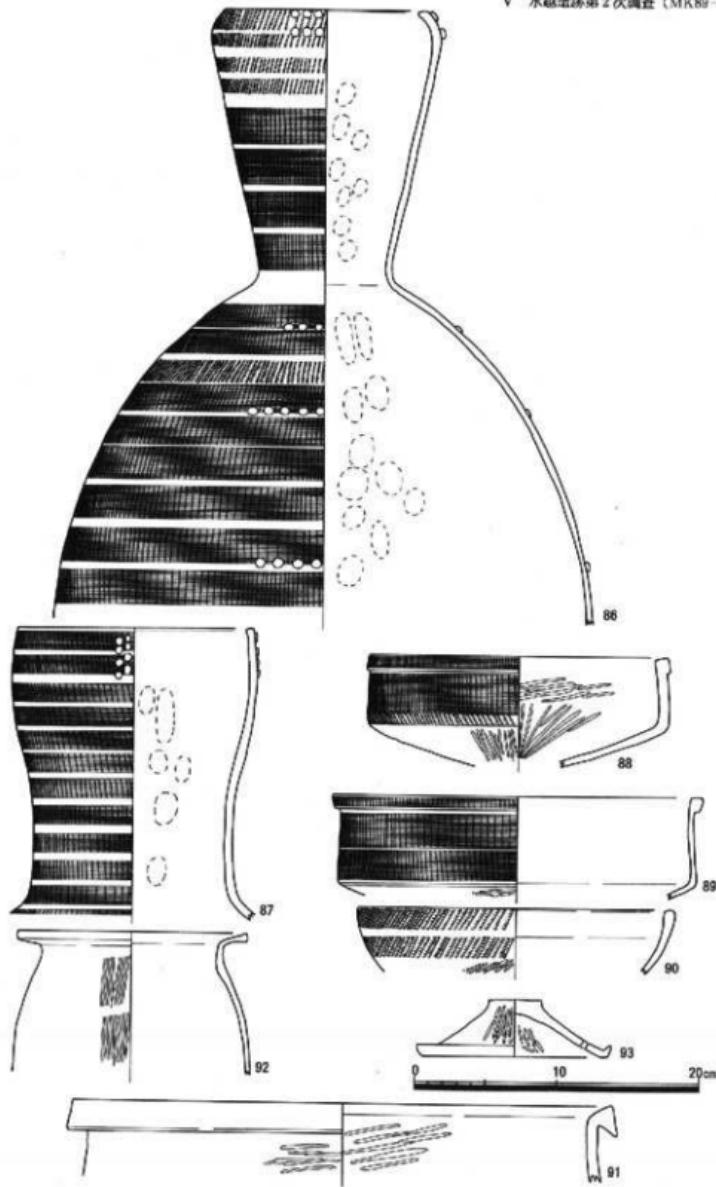
第37図 SD-2・SD-3断面図



第38図 SD-2 (79~82) 出土遺物実測図



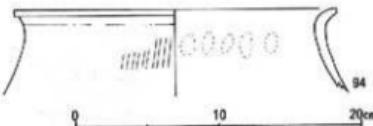
第39図 SD-2 (83~85) 出土遺物実測図



第40図 SD-2 (86~93) 出土遺物実測図

### SD-3

第I区で検出した東西方向の溝で、SD-2と合流する。幅0.3~0.4m、深さ0.1mを測る。埋土は灰色細砂混粘土で、溝内からは弥生時代中期の甕(94)が出



第41図 SD-3 (94) 出土遺物実測図

土している。(94)はゆるやかに短く外反する口縁部。粗いハケを施すⅢ様式のものと思われる。

### SD-4

第I区で検出した東西方向の溝で、幅0.6m、深さ0.25mを測る。埋土は灰色粘土で、溝内からは弥生時代中期の土器の破片が少量出土している。

### SD-5

第I区で検出した南東-北西方向の溝で、幅0.2m、深さ0.1mを測る。埋土は灰色細砂混粘土で、溝内からの遺物の出土はなかった。

### SD-6

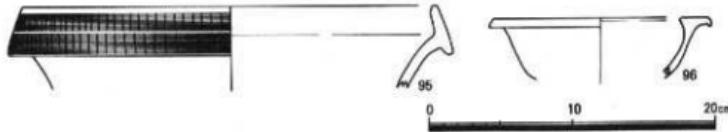
第I区で検出した南北方向の溝で、幅0.5m、深さ0.1mを測る。埋土は灰色粘土で、溝内からの遺物の出土はなかった。

### SD-7

第II区で検出した東西に伸び、東で北へ直角に曲がる溝で、幅0.2~0.65m、深さ0.1mを測る。埋土は灰色細砂混粘土で、溝内からは弥生時代中期の土器の破片が少量出土している。

### SD-8

第II区で検出した東西方向の溝で、幅0.4~0.65m、深さ0.25~0.45mを測る。埋土は灰色細砂混粘土で、溝内からは弥生時代中期〔河内Ⅲ-1様式〕の甕(95)、高坏(96)が出土した。(95)は有段口縁で下方へ垂下する。(96)は水平口縁をもつ。



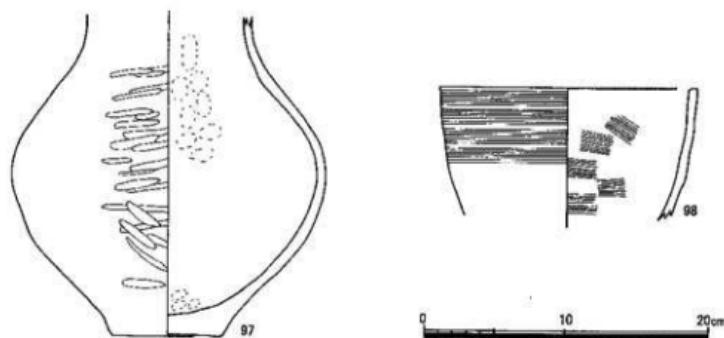
第42図 SD-8 (95・96) 出土遺物実測図

### SD-9

第II区で検出した南西-北東方向の溝で、幅0.3~0.4m、深さ0.4mを測る。埋土は灰色細砂混粘土で、溝内からは弥生時代中期の土器の破片が少量出土している。

### SD-10

第II区で検出した南東-北西方向の溝で、幅0.9m、深さ1.5mを測る。埋土は灰色細砂混粘



第43図 SD-10 (97・98) 出土遺物実測図

上で、溝内からは弥生時代中期〔河内II-1様式〕の壺(97)、鉢(98)が出上した。(97)は算盤玉形に近い球形の体部から直立ぎみの頸部をもつ。(98)は直立する口縁で端部は面をもつ。

## SD-11

第II区で検出した東西方向の溝で、幅0.3~0.5m、深さ0.1mを測る。埋土は灰色細砂混粘土で、溝内からの遺物の出土はなかった。

## SD-12

第II区で検出した東西方向の溝で、幅0.4m、深さ0.25mを測る。埋土は灰色細砂混粘土で、溝内からの遺物の出土はなかった。

## SD-13

第III区で検出した東西方向の溝で、幅0.1m、深さ0.1mを測る。埋土は灰色細砂混粘土で、溝内からの遺物の出土はなかった。

## SD-14

第III区で検出した南北方向の溝で、幅0.25m、深さ0.1mを測る。埋土は灰色細砂混粘土で、溝内からの遺物の出土はなかった。

## SD-15

第III区で検出した南東-北西方向の溝で、幅0.2~0.6m、深さ0.1mを測る。埋土は灰色細砂混粘土で、溝内からは弥生時代中期の上器の破片が少量出土している。

## SD-16

第III区で検出した南西-北東方向の溝で、幅0.3~0.6m、深さ0.1mを測る。埋土は灰色細砂混粘土で、溝内からは弥生時代中期の土器の破片が少量出土している。

### SD-17

第III区で検出した南北方向の溝で、幅0.5m、深さ0.2mを測る。埋土は灰色細砂混粘土で、溝内からの遺物の出土はなかった。

### SD-18

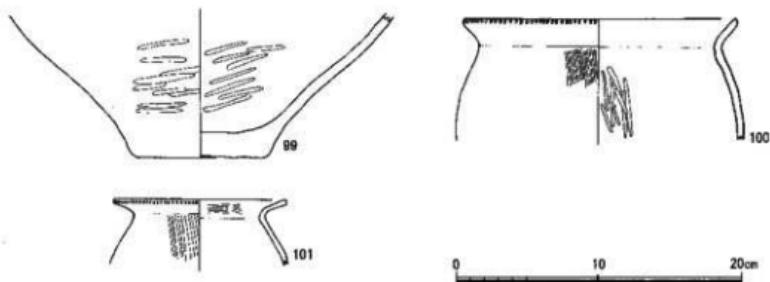
第IV区で検出した東西方向の溝で、幅0.3~0.6m、深さ0.25mを測る。埋土は暗褐色細砂混粘土で、溝内からは弥生時代中期の土器の破片が少量出土している。

### SD-19

第IV区で検出した南西-北東方向の溝で、幅0.2m、深さ0.1mを測る。埋土は暗灰色細砂混粘土で、溝内からの遺物の出土はなかった。

### SD-20

第IV区で検出した南西-北東方向の溝で、幅0.25~0.35m、深さ0.1mを測る。埋土は暗灰色細砂混粘土で、溝内からは弥生時代中期の土器の破片が少量出土している。



第44図 SD-21 (99~101) 出土遺物実測図

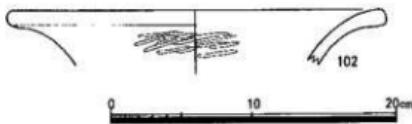
### SD-21

第IV区で検出した南西-北東方向の溝で、幅0.4m、深さ0.1mを測る。埋土は暗灰色細砂混粘土で、溝内からは弥生時代中期の壺（99）、甌（100・101）が出土した。（100・101）は端部にキザミ目を施す人形の甌と思われる。



### SD-22

第IV区で検出した南北方向の溝で、幅1.0m、深さ0.15mを測る。埋土は暗灰色細砂混粘土で、溝内からは弥生時代中



第45図 SD-22 (102・103) 出土遺物実測図

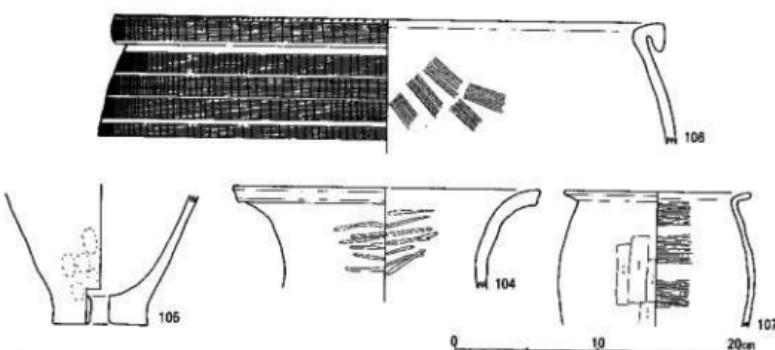
期〔河内III-3様式〕の無文の壺(102)、〔河内III-1様式〕の有文の鉢(103)が出土した。

#### SD-23

第IV区で検出した東西方向の溝で、幅0.3~0.5m、深さ0.2mを測る。埋土は暗灰色粘土で、溝内からは弥生時代中期の土器の破片が少量出土している。

#### SD-24

第I~IV区で検出した。幅4.9~8.1m、深さ1.3~1.9mを測る。検出した断面はV字型を呈し、第I区の東端から第IV区の南東側へ向かう上面の標高はT.P.+15.5m~T.P.+15.4mと



第46図 SD-24 (104~107) 出土遺物実測図

やや緩やかな傾斜をもつ環濠と推定される。埋土は①灰色細砂混粘土②褐色細砂混粘土③灰色細砂混粘土④暗灰色細砂混粘土⑤暗灰色粘土⑥灰青色細砂⑦暗灰色シルト混粘土⑧褐色シルト混粘土⑨灰色シルト混粘土⑩灰色磧混粘土⑪灰青色微砂で、溝内からは弥生時代中期の壺(104)、底部有孔土器(105)、河内III-2様式の鉢(106)、壺(107)が出土した。(104)はゆるやかに外反し、面をもつ無文の壺。〔河内II-3様式〕。(105)は丈長の壺の形になる。底部に孔がある。(106)は口縁部が垂下し面をもつ。口縁部は内傾し、端面にキザミ目を施す有文の鉢。〔河内III-1様式〕。(107)は口縁部「く」字状に外反し水平にひろがる。外面にヘラケズリを施す。形は河内形と思われるが、調整は紀伊のものと思われる。〔河内III-1様式〕

#### SD-25

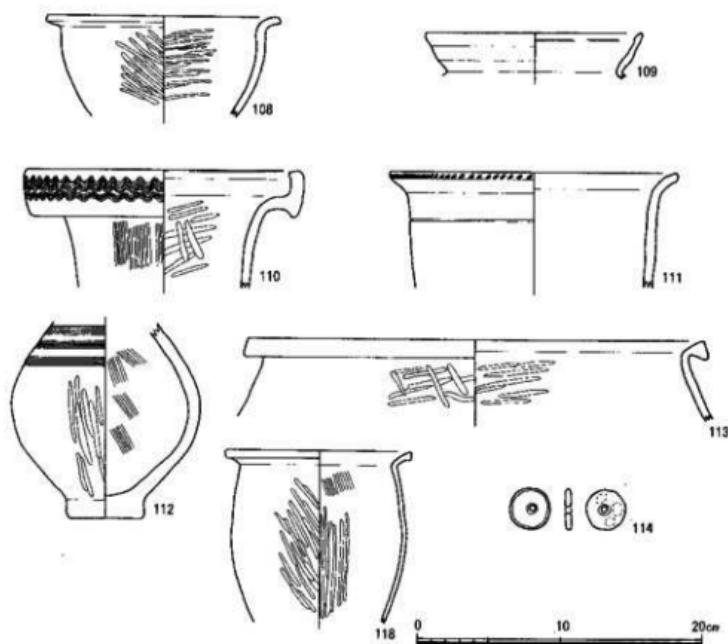
第III区で検出した南北方向の溝で、幅0.3~0.4m、深さ0.1mを測る。埋土は灰色細砂混粘土で、溝内からは、土師器の破片が少量出土している。

#### SD-26

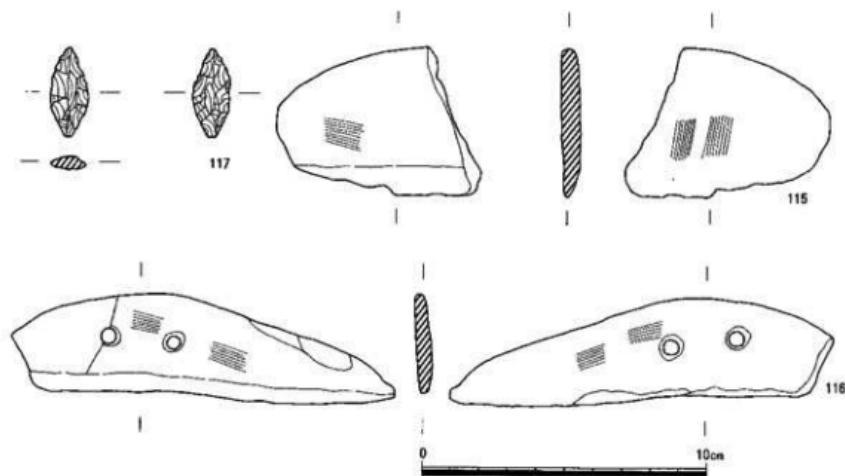
第IV区で検出した南北方向の溝で、幅4.5m、深さ1.6mを測る。埋土は上から褐色シルト混粘土、灰色細砂混粘土で、溝内からは、土師器の破片が少量出土している。

### 第1層内出土遺物

第I区では弥生時代中期〔河内III-2様式〕の鉢(108)、古墳時代前期〔布留式〕の壺(109)が出土している。第II区では弥生時代中期の壺(110)、弥生時代前期〔河内I-2様式〕の壺(111)が、第III区では弥生時代中期の壺(112)、壺(113)、紡錘車(114)、石包丁(115・116)、石鎌(117)が、第IV区では弥生時代中期〔河内IV-1様式〕の壺(118)が出土した。



第47図 第1層 (108~114・118) 出土遺物実測図



第48図 第1層 (115~117) 出土遺物実測図

### 第3章 出土遺物観察表

報告番号 回収番号	出土遺物	種類 基準	口径 底径 (cm)	底径 長さ 幅 厚み	形態・調整	色調	地土	焼成	備考
1 五	NH-1	縄文土器 深鉢	40.0		口縁内外面ヨコナデ。内面と口縁端部に縄文を施す。外面上縁を施した後、底盤を施す。縄文時代中期の軸元式である。	灰白色 (10YH8/1)	1mm~3mm程度の砂粒含む。	良好	
2 五	SH-1	弥生土器 細頸壺	14.0		口縁内外面ヨコナデ。外面に縦状文を施す。	黒褐色 (10YR3/2)	1mm程度の砂粒含む。	良好	
3	SK-1	弥生土器 壺	7.0		底部内外面ナデ。	黒褐色 (10YR2/2)	1mm程度の砂粒含む。	良好	
4	SD-1	弥生土器 高杯		14.0	底部内面ヨコナデ。外面ヘラミガキ。	褐色 (10YH4/6)	1mm程度の砂粒含む。	良好	
5	SE-1	弥生土器 壺	40.0		口縁内外面ヨコナデ。体部内面ナデ、外面上縁を施す。	黄褐色 (10YH5/8)	1mm程度の砂粒含む。	良好	
6	SE-1	弥生土器 壺	11.2		口縁内外面ヨコナデ。体部内外面ナゲ。	黒褐色 (10YR2/2)	1mm程度の砂粒含む。	良好	
7 五	SK-1	太形縫刃 石斧	8.7 6.5 4.8		基部を欠損している。両面とも研磨されている。	暗緑灰色 (5G4/1)			
8	SE-2	弥生土器 広口壺	20.0		口縁内外面ヨコナデ。	褐色 (7.5YR7/6)	2mm程度の砂粒含む。	良好	
9	SK-2	弥生土器 細頸壺	12.0		口縁内外面ヨコナデ。体部内面ナデ、外面上縁を施す。体部外面上縁に横書き直線文を施す。	黒褐色 (7.5YR3/1)	2mm程度の砂粒含む。	良好	
10	SE-2	弥生土器 壺			体部内面ナデ。外面に太縦併用縞模様直線文を施す。	灰褐色 (7.5YR5/2)	2mm程度の砂粒含む。	良好	
11	SE-2	弥生土器 壺	8.2		体部内面ナデ、外面上縁を施す。底盤内外面ナデ。	褐色 (7.5YR7/6)	2mm~3mm程度の砂粒含む。	良好	
12 五	SE-2	弥生土器 壺	34.0		口縁内外面ヨコナデ。体部内面ナゲ、外面上縁を施す。	黒褐色 (10YH2/2)	5mm程度の砂粒少量含む。	良好	
13 五	SE-2	石鏡		3.1 1.8 0.6	縫刃状に縫隙を削離している。	暗青灰色 (5B4/1)			
14 五	SE-2	石槍		6.5 4.0 1.5	両面に剥離痕がある。	暗青灰色 (5B4/1)			

報告番号 図版番号	出土遺構	種類 形態	1群 基高 或底 (cm)	被覆 長さ 幅厚み	形態・特徴	色調	胎土	焼成	備考
15 五	SE-3	弥生土器 壺	17.4		口縁部内外面ココナデ。腹部内外面 ヘラミガキ。腹部外面に擦接き痕線文を施す。	赤色 (10R5/8)	1mm~3mm程 度の砂粒含 む。	良好	
16 五	SE-3	弥生土器 壺	12.0		LJ縁部内外面ココナデ。腹部内外面 ヘラミガキ。LJ縁端面に列点文、体 部外面に擦接き痕線文を施す。	灰黃褐色 (10YR4/2)	1mm~3mm程 度の砂粒含 む。	良好	
17 六	SE-3	弥生土器 壺	5.8		体部内面ナグ、外面ヘラミガキ。底 部内外面ナグ。	灰黃褐色 (10YR4/2)	1mm~3mm程 度の砂粒含 む。	良好	
18 六	SE-3	弥生土器 壺	10.0		体部内面ナグ、外面ヘラミガキ。底 部内外面ナグ。体部上位に内線文と 格子文あり。	灰白色 (10YR8/1)	1mm~3mm程 度の砂粒含 む。	良好	
19 六	SE-3	弥生土器 鉢	22.4		口縁部内外面ココナデ。体部内外面 ヘラミガキ。	灰白色 (10YR8/1)	1mm~3mm程 度の砂粒含 む。	良好	
20 六	SE-3	弥生土器 鉢	7.6		LJ縁部内外面ココナデ。体部内面ナ グ、外面ヘラケズリ。口縁部に2例 一対の孔があり。他地域のものか。	褐色 (10YR4/4)	1mm程度の 砂粒含む。	良好	
21 六	SE-3	弥生土器 高環	12.0		縁部内外面ココナデ。縁部内面ナグ、 外面ヘラミガキ。	灰白色 (10YR7/1)	1mm~3mm程 度の砂粒含 む。	良好	
22 六	SE-3	弥生土器 壺	16.0 25.0 4.6		口縁部内面ハケナデのちヨコナデ、 外面ココナデ。体部内面ハケナデ。 LJ縁端面に沈継を一巻施す。外縁に 二次焼成による擦付石。	明黄褐色 (10YR6/6)	1mm程度の 砂粒含む。	良好	
23 六	SE-3	弥生土器 小平底	9.2 11.0 3.2		口縁部内外面ココナデ。体部内外面 ナグ。	黑褐色 (10YR3/1)	1mm程度の 砂粒含む。	良好	
24	SE-3	砾石	0.2		内部共に研磨がある。 両面に使用したと思われるくぼみが 残っている。	灰白色 (10YR7/1)			
25 六	SE-4	弥生土器 壺	38.0		LJ縁部内外面ココナデ。口縁端面に 沈継を一巻施す。端面下方にキザイ 目を施す。	黃褐色 (10YR5/6)	1mm~3mm程 度の砂粒含 む。	良好	
26 七	SE-4	弥生土器 壺	26.0		口縁部内外面ココナデ。体部内面ナ グ、外面ヘラミガキ。	明褐色 (7.5YR5/6)	1mm~3mm程 度の砂粒含 む。	良好	
27 七	SE-5	弥生土器 壺	14.0		口縁部内外面ココナデ。体部内外面 ヘラミガキ。	赤褐色 (5YR4/6)	1mm~3mm程 度の砂粒含 む。	良好	
28 七	SE-5	弥生土器 壺	13.6		体部内面ナグ、外面ヘラミガキ。外 縁に直線文を施したのも扇形文を施す。 下部には沈継文を施す。	褐色 (10YH4/4)	3mm程度の 砂粒含む。	良好	
29 七	SE-5	弥生土器 壺	13.6		口縁部内外面ココナデ。体部内外面 ヘラミガキ。外縁に二次焼成による 擦付石。	褐色 (7.5YH4/4)	1mm~3mm程 度の砂粒含 む。	良好	

報告番号 回収番号	山土着場	種類 表面	口径 高さ 底径 (cm)	都合 長さ 報 厚み	形態・特徴	色調	粒土	焼成	備考
30 七	SK-6	劣生土器 （ニチュア型）	3.0 5.5 2.6		口縁部内外面ヨコナギ。体部および 底面(内外面)ナゲ。	黒褐色 (10YH3/1)	1mm～3mm程 度の砂粒含 む。	良好	
31 七	SE-6	劣生土器 型	16.4		口縁部内外面ヨコナギ。体部内面ナ ゲ、ヘラによる押さえあり。外面へ ラミガキ。外面に二次焼成による焼 付孔。	褐色 (7.5YR24/4)	1mm～3mm程 度の砂粒含 む。	良好	
32 七	SE-7	土器類 (も留) 小型地	10.0 7.8		口縁部内外面へラミガキのちヨコナ ギ。体部内外面へラミガキ。	褐色 (SYR6/8)	2mm程度の 砂粒極少量 含む。	良好	
33 七	SK-7	土器類 (も留) 小形地	13.3		口縁部内外面へラミガキのちヨコナ ギ。体部内外面へラミガキ。	褐色 (SYR6/8)	2mm程度の 砂粒極少量 含む。	良好	
34 七	SK-7	土器類 (も留) 型	14.0		口縁部内外面ヨコナギ。体部内面へ タケズリ、外面タキキ。	灰色 (N5/7)	1mm～3mm程 度の砂粒含 む。	良好	
35 七	SK-4	劣生土器 型	17.0		口縁部内外面ヨコナギ。体部内外面 へラミガキ。	に赤い黄褐色 (10YR5/4)	1mm～3mm程 度の砂粒含 む。	良好	
36	SK-2	劣生土器 型	7.6		底部内面ナゲ、外面ハケナギ。	に赤い黄褐色 (10YR5/4)	1mm～3mm程 度の砂粒含 む。	良好	
37 八	SK-3	劣生土器 型	36.0		口縁部内外面ヨコナギ。体部内外面 へラミガキ。口縁端面と体部外面上 に羅状文様施す。口縁端面には等距隔 に刺文文を施す。	明赤褐色 (5YR5/8)	1mm～3mm程 度の砂粒多 量含む。	良好	
38 八	SK-5	劣生土器 型	13.6		口縁部内外面ヨコナギ。体部内面ナ ギ、外面へラミガキ。体部外面上直 欄文を施す。	褐色 (7.5YR4/6)	1mm～3mm程 度の砂粒少 量含む。	良好	
39 八	SK-5	劣生土器 型	35.2		口縁部内外面ヨコナギ。体部内面ナ ギ、外面ハケナギ。	明赤褐色 (5YH3/8)	1mm～3mm程 度の砂粒少 量含む。	良好	
40 八	SK-5	劣生土器 型	22.4		口縁部内外面ヨコナギ。体部内面へ ラミガキ、外面ハケナギ。	赤褐色 (5YH4/8)	1mm～3mm程 度の砂粒少 量含む。	良好	
41	SK-6	劣生土器 型	18.4		口縁部内外面ヨコナギ。体部内外面 ナギ。	赤色 (10H4/8)	1mm～3mm程 度の砂粒少 量含む。	良好	
42 八	SK-9	劣生土器 型	5.4		体部内外面へラミガキ。底部内面ナ ギ。体部外面上に二次焼成による焼 付孔。	灰黃褐色 (10YH5/2)	1mm～3mm程 度の砂粒少 量含む。	良好	
43 八	SK-10	劣生土器 型	18.0		口縁部内外面ヨコナギ。底部内面ナ ギ、外面へラミガキ。口縁端面に波 状文、体部外面上に直線文を施す。	褐色 (7.5YH4/6)	1mm～3mm程 度の砂粒多 量含む。	良好	
44	SK-10	劣生土器 高环	14.0		底部内外面ヨコナギ。底部内面へラ ミガキ、外面ナギ。	淡黃褐色 (10YH6/6)	1mm～3mm程 度の砂粒多 量含む。	良好	

報告番号 採取番号	出土遺構	種類 器種	口径 器高 底径 (cm)	断面 形状 厚み	形態・調整	色調	胎土	焼成	備考
45	SK-10	弥生土器 甕	16.0		口縁部内外面ヨコナダ。体部内面ナ デ、外側ヘラミガキ。	褐色 (10YR4/6)	1mm~3mm程 度の砂粒合 む。	良好	
46	SK-10	弥生土器 甕	13.2		口縁部内外面ヨコナダ。体部内面ハ ケナダ。	褐色 (7.5YR6/8)	1mm~3mm程 度の砂粒合 む。	良好	
47 八	SK-10	石錐	4.0 1.4		先端部を欠損している。両面共に調 整削離がある。	暗青灰色 (5B3/1)			
48 八	SK-10	石錐	2.0 0.5		基部が欠損している。両面共に調整 削離がある。	青灰色 (5B6/1)			
49	SK-12	弥生土器 甕	7.2		体部内面ナデ、外側ヘラミガキ。底 部内面ナデ。	明黄褐色 (10YR6/6)	1mm~3mm程 度の砂粒多 量含む。	良好	
50	SK-13	弥生土器 甕	24.0		口縁部内外面ヨコナダ。体部内面ハ ケナダ、外側ヘラミガキ。	褐色 (10YR5/1)	1mm程度の 砂粒を極少 量含む。	良好	
51 九	SK-14	弥生土器 広口甕	14.4 30.7 7.0		口縁部内外面ヨコナダ。体部および 底部内外面ヘラミガキ。頭部から体 部にかけて肉縫線を施す。	暗赤褐色 (2.5YR3/6)	1mm~3mm程 度の砂粒多 量含む。	良好	
52 九	SK-14	弥生土器 甕	6.4		体部下位および底部内面ヘラミガキ。 体部上位ハケナダ。体部および底部 外側ヘラミガキ。頭部から体部にか けて肉縫線を施す。	灰黃褐色 (10YR5/2)	1mm~3mm程 度の砂粒多 量含む。	良好	
53 九	SK-14	弥生土器 広口甕	16.0		口縁部内外面ヨコナダ。体部内面ヘ ラミガキ。外側ヘラミガキのらハケ ナダ。	明褐色 (7.5YR5/8)	2mm程度の 砂粒少量含 む。	良好	
54	SK-14	弥生土器 甕	19.0		口縁部内外面ヨコナダ。体部内面ヘ ラミガキ。体部外側に2次焼成に よる焼付泥。	褐色 (7.5YR4/6)	2mm程度の 砂粒少量含 む。	良好	
55 九	SK-14	弥生土器 甕	16.8		口縁部内面横方向のハケナダ。外側 縱方向のハケナダ。体部内面ナデ、 外側ハケナダ。	におい黄褐色 (10YR4/3)	1mm~3mm程 度の砂粒多 量含む。	良好	
56 九	SI-2	弥生土器 甕	26.0		口縁部内外面ヨコナダ後ヘラミガキ。 外側ヨコナダ。	暗赤褐色 (2.5YR3/6)	1mm~3mm程 度の砂粒多 量含む。	良好	
57	SI-2	弥生土器 甕	8.8		体部内外面ナデ。底部内面ナデ。	明赤褐色 (5YR5/8)	1mm~5mm程 度の砂粒多 量含む。	良好	
58 九	SI-2	弥生土器 甕	21.6		口縁部内外面ヨコナダ。体部内面ナ デ、外側ヘラミガキ。	明褐色 (7.5YR5/8)	2mm程度の 砂粒少量含 む。	良好	
59 九	SI-2	石錐	6.0 4.1 1.1		太製品。両面ともに調整削離がある。	灰色 (N4/)			

報告番号 回復度合	出土場所	種類 岩種	口縁 器高 底径 (cm)	側面 長さ 幅 厚み	形態・特徴	色調	地土	構成	備考
60 九	SI-3	弥生土器 壺	23.2		口縁部内外面ヨコナギ。端面に直線文を施す。	明赤褐色 (SYR5/8)	1mm~5mm程度の砂粒少 量含む。	良好	
61	SP-13	弥生土器 罐	16.8		口縁部内外面ヨコナギ。外面に列点文を施す。	明赤褐色 (SYR5/8)	1mm~3mm程度の砂粒多 量含む。	良好	
62	SP-13	弥生土器 壺	32.0		口縁部内外面ヨコナギ。体部内面ハ ケナギ、外面ヘラミガキ。	灰黃褐色 (10YR5/2)	1mm~3mm程度の砂粒含 む。	良好	
63	SP-19	弥生土器 壺	24.6		口縁部内外面ヨコナギ。体部内面ナ ギ、外面ヘラミガキ。	灰黃褐色 (10YR5/2)	1mm~3mm程度の砂粒含 む。	良好	
64	SP-23	弥生土器 壺	23.2		杯底部内外面ヨコナギ。外面に回線文 を2条施す。	淡青褐色 (7.5YR8/6)	1mm程度の 砂粒含む。	良好	
65 -○	SP-29	石錐		3.4 1.4 0.3	両面共に刻痕剥離が見られる。	暗青灰色 (5B4/1)			
66 -○	SP-37	弥生土器 壺	6.0		体部内外面ナギ。内面に指痕/圧痕あ り。底面部内外面ナギ。	褐色 (10YR4/6)	1mm~5mm程度 の砂粒多 量含む。	良好	
67	SP-71	弥生土器 壺	26.0		口縁部内外面ヨコナギ。体部内面ハ ケナギのちヘラミガキ、外面ヘラミ ガキ。外面に列点文を施す。	黒褐色 (10YR2/2)	1mm~3mm程度 の砂粒少 量含む。	良好	
68 -○	SP-71	弥生土器 壺	14.0		口縁部内外面ヨコナギ。体部内面ナ ギ、内面ヘラミガキ。内面に粘土接 合痕あり。	黒褐色 (10YR3/2)	1mm~3mm程度 の砂粒少 量含む。	良好	
69 -○	SP-71	磨製石錐		4.9 1.6 0.6	両面丸にしのぎがある。基部両側部 は削をもつ。両面と側面共に丁寧に 研磨されている。	暗青灰色 (5B3/1)			
70 -○	SP-105	石包丁		0.4	両面丸丁寧に研磨されている。鏡孔 1ヶ所あり。	暗緑灰色 (10G4/1)			
71 -○	SP-182	弥生土器 壺	16.0		口縁部内外面ヨコナギ。体部内面ハ ケナギのちハケナギ、外面ヘラミガ キ。	赤褐色 (5YR4/5)	1mm~3mm程度 の砂粒少 量含む。	良好	
72	SI-1 -○	弥生土器 (第Ⅲ区) 壺	11.0		体部内外面ヘラミガキ。天井部内外 面ナギ。	灰黃褐色 (10YR4/2)	1mm程度の 砂粒少量含 む。	良好	
73 -○	SI-1 -○	弥生土器 (第Ⅲ区) 壺	16.8 35.0 8.0		天井部外面に突起あり。内面ハケナ ギ、外面ヘラミガキ。2箇一对の鋸 孔が2ヶ所あり。	ぶい黄褐色 (10YR6/4)	1mm程度の 砂粒少量含 む。	良好	
74	SI-1	弥生土器 壺			口縁部内外面ヨコナギ。質部および 体部内面ハケナギ、粘土接合痕あり。 外面ヘラミガキ。	褐褐色 (10YR5/8)	1mm~3mm程度 の砂粒少 量含む。	良好	

報告書号 開拓番号	出土遺物	種類	口径 西高 底径 (cm)	削長さ 幅厚 厚み	形態・調整	色調	胎土	焼成	備考
75 —	SD-1 (第3区)	陶生土器 壺	29.0		口縁部内外面ヨコナデ。腹部内外面 ヘラミガキ。	褐色 (10YR4/6)	1mm~3mm程 度の砂粒多 量含む。	良好	
76 —	SD-1 (第3区)	陶生土器 壺	27.6		口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面 ヘラミガキ。	明赤褐色 (5YR15/8)	1mm~3mm程 度の砂粒多 量含む。	良好	
77 —	SD-1 (第3区)	陶生土器 壺	22.4 44.2 6.4		I口縁部内外面ヨコナデ、体部内面へ ラミガキ、外面ヘケナデ。	赤褐色 (5YR14/8)	1mm~3mm程 度の砂粒多 量含む。	良好	
78 —	SD-1 (第3区)	陶生土器 壺	11.0 13.7 4.8		口縁部内外面ヨコナデ。体部内面へ ケナデ、外面ナデ。口縁部2箇一対 の孔あり。	灰黄褐色 (10YR5/3)	1mm~3mm程 度の砂粒多 量含む。	良好	
79 —	SD-2	陶生土器 壺	36.0		口縁部内外面ヨコナデ。腹部内外面 ナデ。口縁端面に彫刻文と刺突文、 腹部外面に彫刻文を施す。口縁部内面 に円形浮き文を施す。口縁内面端部 にモザイクを施す。	明褐色 (7.5YH5/6)	1mm程度の 砂粒含む。	良好	
80 —	SD-2	陶生土器 壺	33.0		I口縁部内外面ヨコナデ。腹部内面へ ラミガキ、外面ナデ。口縁端面と腹 部外面に彫刻文を施す。口縁部内面 に円形浮き文を施す。口縁内面端部 にモザイクを施す。	灰黄褐色 (10YR6/3)	1mm~2mm程 度の砂粒合 む。	良好	
81 —	SD-2	陶生土器 壺	28.0		I口縁部内外面ヨコナデ、腹部内面へ ラミガキ、外面ナデ。口縁端面と腹 部外面に彫刻文を施す。	灰黄褐色 (10YR6/2)	1mm程度の 砂粒含む。	良好	
82 —	SD-2	陶生土器 壺	24.8		I口縁部内外面ヨコナデ、腹部内面へ ラミガキ。口縁端面に彫刻文と刺 突文を施す。	明赤褐色 (5YR5/6)	1mm~3mm程 度の砂粒含 む。	良好	
83 —	SD-2	陶生土器 壺	26.0		口縁部内外面ヨコナデ、腹部内面へ ラミガキ、外面ナデ。口縁端面と腹 部外面に彫刻文、腹部外面に彫刻文と刺 突文を施す。	灰褐色 (7.5YR6/2)	1mm程度の 砂粒含む。	良好	
84 —	SD-2	陶生土器 壺	27.0		口縁部内外面ヨコナデ、腹部内面へ ナデ。口縁端面に彫刻文、円形竹 管文、口縁端面に凹印文、腹部外面 に凹印文、体部外面に彫刻文、内壁 文、斜格子文と円形浮き文を施す。	にぼい黄褐色 (10YR6/4)	1mm程度の 砂粒含む。	良好	
85 —	SD-2	陶生土器 壺	39.0		I口縁部内外面ヨコナデ、腹部内外面 ハラナデ。口縁端面に凹印文、波 状文、口縁端面に凹印文、腹部外面 に凹印文、体部外面に彫刻文、直線 文を施す。	にぼい黄褐色 (10YR6/4)	1mm程度の 砂粒含む。	良好	
86 —	SD-2	陶生土器 人型埴輪	14.0		口縁部内外面ヨコナデ。腹部から体部内 外側ナデ。口縁部外側と腹部外側に 凹印文、下部に彫刻文、体部外側に彫 刻文を施し、口縁部と体部に凹印浮き文を施す。	明黄褐色 (10YR6/8)	1mm~3mm程 度の砂粒含 む。	良好	
87 —	SD-2	陶生土器 人型埴輪	16.4		I口縁部内外面ヨコナデ。腹部から体 部内外側ナデ。口縁部から体部外側 に彫刻文を施す。腹部上位と体部上 位に円形浮き文を施す。	灰黄色 (5.5Y6/2)	2mm程度の 砂粒含む。	良好	
88 —	SD-2	陶生土器 体	20.8		I口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面 ヘラミガキ。口縁端面と体部上位外 面に彫刻文と凹印文を施す。	赤褐色 (5YR4/8)	1mm~3mm程 度の砂粒含 む。	良好	
89 —	SD-2	陶生土器 盆	26.0		口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面 ナデ、外面ヘラミガキ。口縁端面と体 部上位外側に彫刻文と刺突文を施す。	黄褐色 (10YR5/6)	1mm~3mm程 度の砂粒含 む。	良好	

報告番号 回収番号	出土遺構	種類 器種	口径 高さ 底径 (cm)	留送 長さ 幅 厚み	形態・調整	色調	胎土	焼成	備考
90 一二	SD-2	弥生土器 高环	22.0		口縁部内外面ヨコナダ。体部内面ナ ダ、外面ヘラミガキ。体部上位外面 に列点文を施す。	黄褐色 (10YR5/0)	1mm~3mm程 度の砂粒含 む。	良好	
91 一三	SD-2	弥生土器 壺	38.0		口縁部内外面ヨコナダ。体部内外面 ヘラミガキ。	にぶい黄褐色 (10YR5/4)	1mm~3mm程 度の砂粒含 む。	良好	
92	SD-2	弥生土器 壺	16.0		口縁部内外面ヨコナダ。体部内面ナ ダ、外面ハケナダ。	褐色 (5YR6/0)	1mm~3mm程 度の砂粒含 む。	良好	
93 一三	SD-2	弥生土器 壺	13.0		口縁部内外面ヨコナダ。体部内外面 ヘラミガキ。天井部内外面ナダ。2 個一对の孔を施す。	黄褐色 (10YR5/0)	1mm~3mm程 度の砂粒含 む。	良好	
94	SD-3	弥生土器 壺	22.6		口縁部内外面ヨコナダ。体部内面ナ ダ、指痕圧痕あり。外側ハケナダ。	明赤褐色 (5YR6/0)	1mm~3mm程 度の砂粒少 量含む。	良好	
95 一三	SD-8	弥生土器 壺	29.2		口縁部内外面ヨコナダ、外面上に壓状 文2条施す。頸部内外面ナダ。	黄褐色 (10YR5/8)	1mm~3mm程 度の砂粒少 量含む。	良好	
96	SD-8	弥生土器 高环	14.6		口縁部内外面ヨコナダ。体部内外面 ナダ。	黄褐色 (10YR5/8)	1mm~3mm程 度の砂粒少 量含む。	良好	
97 一二	SD-10	弥生土器 壺	7.6		体部内面ナダ、指痕圧痕あり。外側 ヘラミガキ。	明黄褐色 (10YR6/8)	1mm~3mm程 度の砂粒少 量含む。	良好	
98 一二	SD-10	弥生土器 鉢	18.0		口縁部内外面ヨコナダ。体部内面ハ ケナダ、外側ナダ。外面上直線文を 施す。	暗褐色 (10YR3/3)	1mm~3mm程 度の砂粒少 量含む。	良好	
99	SD-21	弥生土器 壺	8.8		体部内外面ヘラミガキ。底部内外面 ナダ。	褐褐色 (7.5YR5/8)	1mm~3mm程 度の砂粒少 量含む。	良好	
100 一二	SD-21	弥生土器 壺	18.8		口縁部内外面ヨコナダ。体部内面ヘ ラミガキ、外側ハケナダ。口縁端面 にキザし目を施す。	褐色 (7.5YR6/8)	1mm~3mm程 度の砂粒少 量含む。	良好	
101 一二	SD-21	弥生土器 壺	12.0		口縁部内外面ハケナダ。体部内面ナ ダ、外側ハケナダ。口縁端面にキザ し目を施す。	褐色 (7.5YR4/3)	1mm程 度の 砂粒少 量含む。	大和型	
102	SD-22	弥生土器 壺	26.0		口縁部内外面ヨコナダ。頸部内外面 ヘラミガキ。	褐色 (7.5YR6/8)	1mm~3mm程 度の砂粒少 量含む。	良好	
103 一四	SD-22	弥生土器 鉢	28.4		口縁部内外面ヨコナダ。体部内面ハ ケナダ、外側ナダ。口縁端面に壓状 文と刺突文、体部外側に直線文を施 す。	褐灰色 (10YR6/1)	1mm~3mm程 度の砂粒少 量含む。	良好	
104 一四	SD-24	弥生土器 壺	21.4		口縁部内外面ヨコナダ。頸部内外面 ヘラミガキ。	褐色 (7.5YR6/8)	1mm~3mm程 度の砂粒少 量含む。	良好	

剖面番号 断面番号	川土沿構 種類 説明	口縁 基底 底径 (m)	断面 長さ 幅厚み	形態・調整	色調	助土	焼成	備考
105 一四	弥生土器 底部有孔 土器	6.6		体部内外面ハケナデ、指頭圧痕あり。底部に孔あり。	褐色 (7.5YR6/8)	1mm~3mm程度の砂粒少 量含む。	良好	
106 一四	弥生土器 鉢	38.2		口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ハ ケナデ。外側ナデ。口縁端部に壓状 紋とキザミ目、体部外間に壓状紋を 施す。	初灰色 (10YR6/1)	1mm~3mm程度の砂粒少 量含む。	良好	
107 一四	弥生土器 甕	13.0		口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ハ ケナデ。外面ハラケナデ。	にぶい黄褐色 (10YR7/3)	1mm程度の 砂粒少量含 む。	良好	
108 一四	弥生土器 盆	16.0		口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面 ハラミガキ。	にぶい黄褐色 (10YR8/4)	1mm~3mm程度 の砂粒含む。	良好	
109 第一層	土師器 (布留) 壶	15.0		口縁部内外面ヨコナデ。	褐色 (3YR8/8)	1mm程度の 砂粒少量含 む。	良好	
110 一四	弥生土器 甕	19.0		口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ハ ラミガキ。外側ハケナデ。口縁端部に 壓状紋波状文を施す。	赤褐色 (5YR4/6)	1mm~3mm程度 の砂粒含む。	良好	
111 一四	弥生土器 甕	20.0		口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面 ナデ。口縁端部にキザミ目を施す。 体部に沈線を一条施す。	赤褐色 (5YR4/6)	1mm~3mm程度 の砂粒含む。	良好	
112 第一層	弥生土器 甕	5.0		体部内面ハケナデ、外側ハラミガキ。 体部上位外側に直線文を施す。	黄褐色 (10YR5/6)	1mm~4mm程度 の砂粒多 量含む。	良好	
113 第一層	弥生土器 甕	32.0		口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面 ハラミガキ。	にぶい黄褐色 (10YR5/4)	5mm程度の 砂粒含む。	良好	
114 第一層	防護柵	2.5 0.4		外側面はナデ、指頭圧痕あり。ほぼ 中央に1個の孔があけられている。	暗褐色 (10YR3/3)	1mm~3mm程度 の砂粒含 む。	良好	
115 一五	第一層 石包丁	0.5		両面共に研磨されている。	暗緑灰色 (5G4/1)			
116 一五	第一層 石包丁	0.5		両面共に研磨されている。ほぼ中央 に2箇所の孔があげられている。	暗緑灰色 (5G4/1)			
117 一五	第一層 石鎚	3.1 1.2 0.5		両面共に調整剝離痕あり。	暗青灰色 (5B4/1)			
118 一五	第一層 弥生土器 甕	13.0		口縁部内外面ヨコナデ。体部内面上 位ハケナデ、下位ハラミガキ。外側 ハラミガキ。体部外側に2次焼成に による焼付層。	暗褐色 (10YR2/3)	1mm程度の 砂粒多 量含 む。	良好	

## 第4章 まとめ

今回の調査地は生駒山地の西麓に広がる扇状地上に位置している関係上、河内平野の沖積地特有の堆積状況とはことなり、現地表面から約0.5～0.6mで弥生時代、古墳時代前期、中世、近世の遺構が検出され、平野部にくらべ、比較的浅い部分に遺跡が存在していることが判明した。また下層確認トレンチでは、縄文時代中期の遺構を検出している。

### 縄文時代中期の遺構について

縄文時代中期の河川（N R-1）を検出した。出土した遺物は流れ込みであるが、遺物の摩耗の度合いは少なく、上流の近い地点に集落が存在していた可能性があると思われる。

### 弥生時代中期の遺構について

検出した遺構の中でも弥生時代中期初頭から中期後半（河内II-1様式～河内IV-4様式）にかけてのものが大半を占め、当調査地で生活を営んでいたことがわかった。

調査区の東側で地形的に高い（T.P.+15.4m付近）場所で検出した断面V字形の溝（SD-24）は、集落を区画している環濠と推定され、この溝の西に居住域（一部東側にも存在している）があったことが判明した。この溝は、扇状地を南西～北東に切っている環濠である。

集落内の井戸の位置は、各調査区の西側の地形的に低い（T.P.+15.0m付近）場所に集中している。この井戸より東側の地形的に高い部分に居住域を築いていたと推定でき、特に第II区のSE-3からSD-24まではT.P.+15.2m～15.4mで一段高くなっている。建物（おそらく掘立柱建物）が数回もしくは数十回建て替えられたと考えられる小穴を多数検出した。北側の第I区ではSD-1から東側で竪穴住居を検出しておらず、調査地内の北側に居住域が集中していることがわかった。

弥生時代前期の遺構はSE-4の一ヶ所だけであり、また後期の遺構は検出していないことから、今回の調査地では、弥生時代前期末から中期全般にわたり生活していたと推定できる。

### 周辺の調査を含めて

今回の調査地より東側には地形的に4～5mのなだらかに生駒山地へ向かって上っていく段差がある。この段差の上（今回の調査地から約170m東）には昭和53年度調査地（第1図の④）があり、弥生時代の方形周溝墓、溝、土器窯などを検出していることから、東には墓域が広がっており、今回の調査地に居住域が存在していることがわかった。

北東約30mの平成5年度調査地（第1図の⑩）では、今回検出した遺構の時期と同じ弥生時代中期後半頃の遺構を検出している。環濠の外側にあるのか内側なのかははっきりしないが、少なくとも上記調査地まで弥生時代中期の集落が広がっていることは確実である。また、南西

へ約5mと近接している昭和57年度調査地（第1図の⑥）でも弥生時代中期の遺構を検出していることから弥生時代中期の居住域は南にも広がっていることがわかった。

註4

南西へ約100mの昭和56年度調査地（第1図の⑤）では弥生時代の中期の自然河川を検出しているが、居住域は検出していない。弥生時代中期の居住域は上記調査地（第1図の⑥）より北側に広がっていることが考えられる。

生産域は、今回の調査では検出していない。近接している調査地においても生産域は明らかにされていない。西へ約1kmと離れている大竹西遺跡では、弥生時代前期から後期にかけての水田を検出している。このことから、生駒山地西麓の扇状地上に居住域を構え生活していた集落の生産域は、おそらく扇状地末端から西側に広がる河内平野内に存在していると考えられる。

#### 古墳時代前期の遺構について

古墳時代前期の遺構は第I区で検出した井戸（SE-7）である。調査地の北西側に同時期の集落が存在していると推定できるが、周辺での調査が乏しいため集落の位置は不明である。

#### 中世の遺構について

中世の遺構は第III区で検出した溝（SD-25）である。南北方向に伸びる素掘りの溝で、条里に伴う溝の可能性が考えられるが詳細は不明である。

#### 近世の遺構について

近世の遺構は第IV区で検出した溝（SD-26）である。南北方向に伸びる素掘りの溝で、条里に伴う溝の可能性が考えられるが詳細は不明である。

#### 註

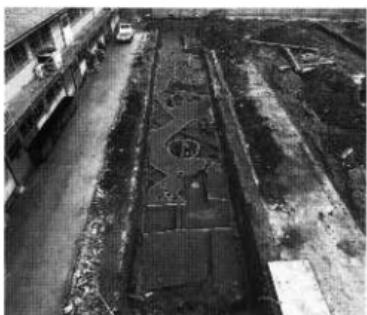
- 註1 寺沢薫 森岡秀人編著 1989 「弥生土器の様式と編年-近畿編I-」木耳社
- 註2 八尾市役所 昭和63年10月27日発行 「八尾市史（前近代）」本文編
- 註3 吉田由乃他 1994.3 「八尾市内遺跡平成5年度発掘調査報告書I」八尾市文化財調査報告29 平成5年度国庫補助事業 八尾市教育委員会
- 註4 米田敏幸他 1983.3 「八尾市内遺跡昭和57年度発掘調査報告書」-教興寺の調査-八尾市文化財調査報告9 昭和57年度国庫補助事業 八尾市教育委員会
- 註5 西村公助 「第2章 水越遺跡発掘調査概要報告」 1983 「八尾市埋蔵文化財発掘調査概要」 昭和56・57年度 財團法人八尾市文化財調査研究会報告3 財團法人八尾市文化財調査研究会
- 註6 高橋千秋他 1991「20.大竹西遺跡第1次調査(O'I-N90-1)」『平成2年度財團法人八尾市文化財調査研究会事業報告』財團法人八尾市文化財調査研究会

#### 参考文献

- ・佐原真 1968 「畿内地方」「弥生式土器集成」本編
- ・田代克己他 1980 「忍智遺跡I」（本文編）瓜生堂遺跡調査会
- ・井藤曉子他 1979 「池上遺跡 第2分冊 上器編」（財）大阪文化財センター
- ・渡辺昌宏他 1985 「美國」近畿自動車道天理～吹田線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概要報告書（財）大阪文化財センター



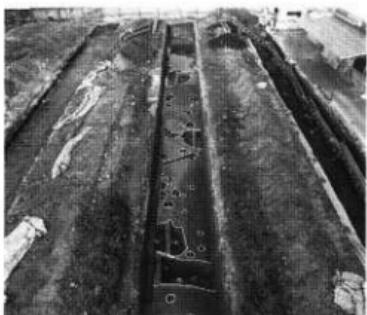
図 版



第一区 全景（西から）



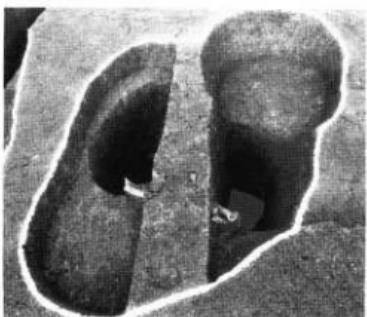
第二区 全景（西から）



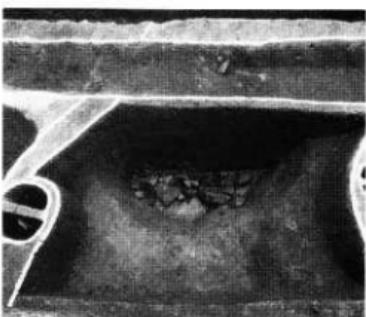
第三区 全景（西から）



第四区 全景（東から）



第一区 SE-1（西から）



第二区 SE-2（南から）



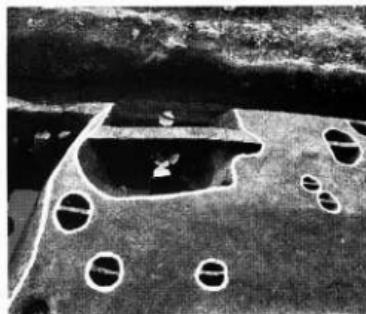
第II区 SE-2 遺物出土状況（南から）



第II区 SE-3（南から）



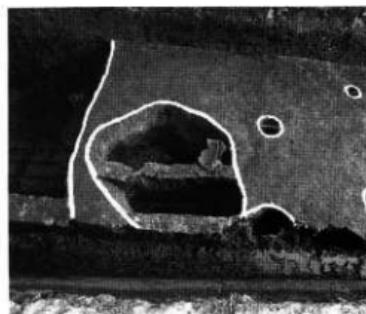
第II区 SE-3 遺物出土状況（南から）



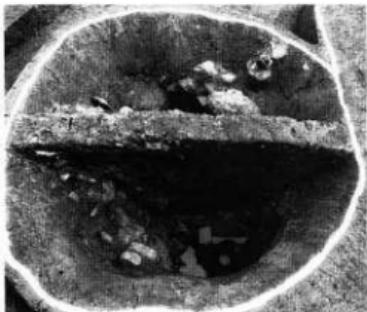
第III区 SE-4（南から）



第IV区 SE-5（南から）



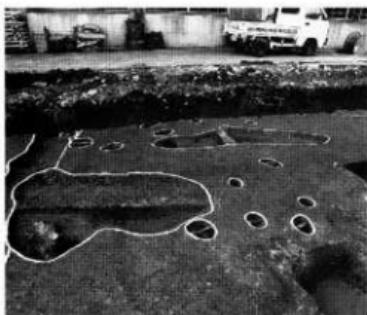
第IV区 SE-6（北から）



第I区 SE-7 (北から)



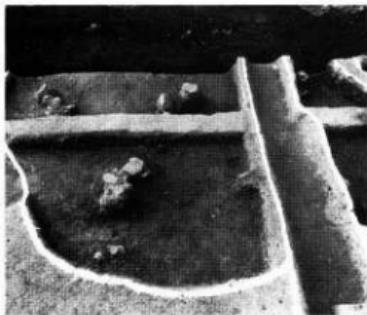
第I区 SI-2 (南西から)



第I区 SK-1 (南から)



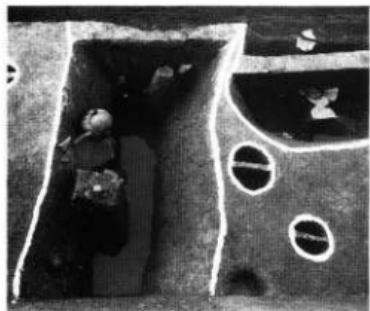
第II区 SK-5 (南から)



第III区 SK-10 (南から)



第IV区 SK-14 SD-1 (南から)



第三区 SD-1 (南から)



第一区 SD-2 (南から)



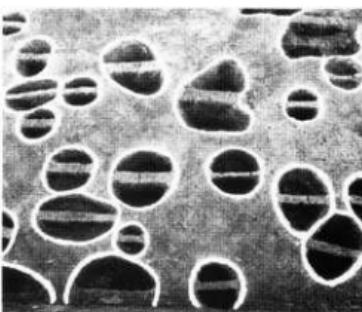
第一区 SD-2 遺物出土状況 (東から)



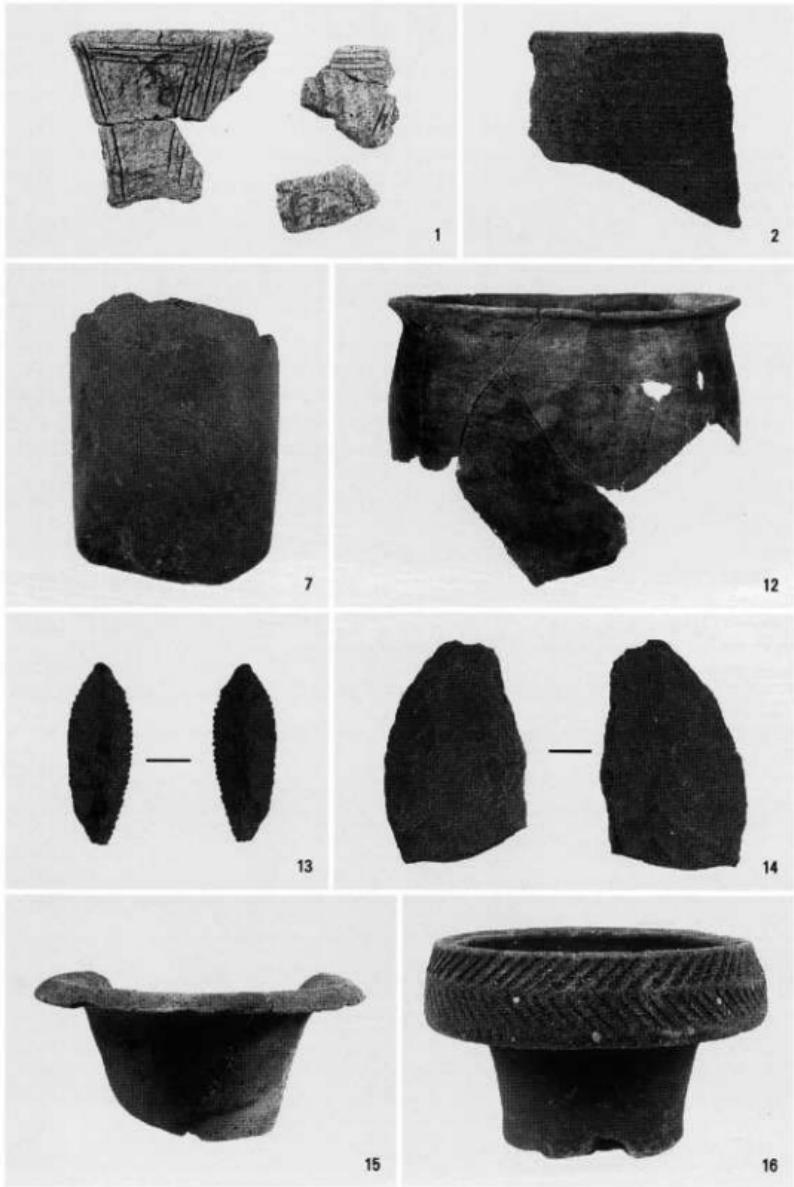
第三区 SD-24 (南から)



第四区 SD-24 (東から)



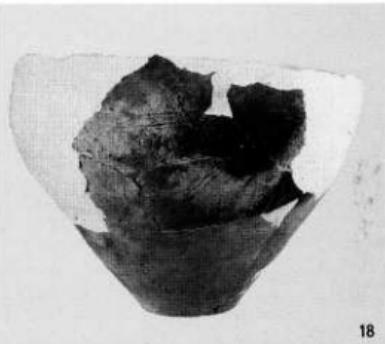
第二区 3f地区小穴 (南から)



NR-1 (1) SE-1 (2~7) SE-2 (12~14) SE-3 (15~16) 出土遺物



17



18



19



20



21



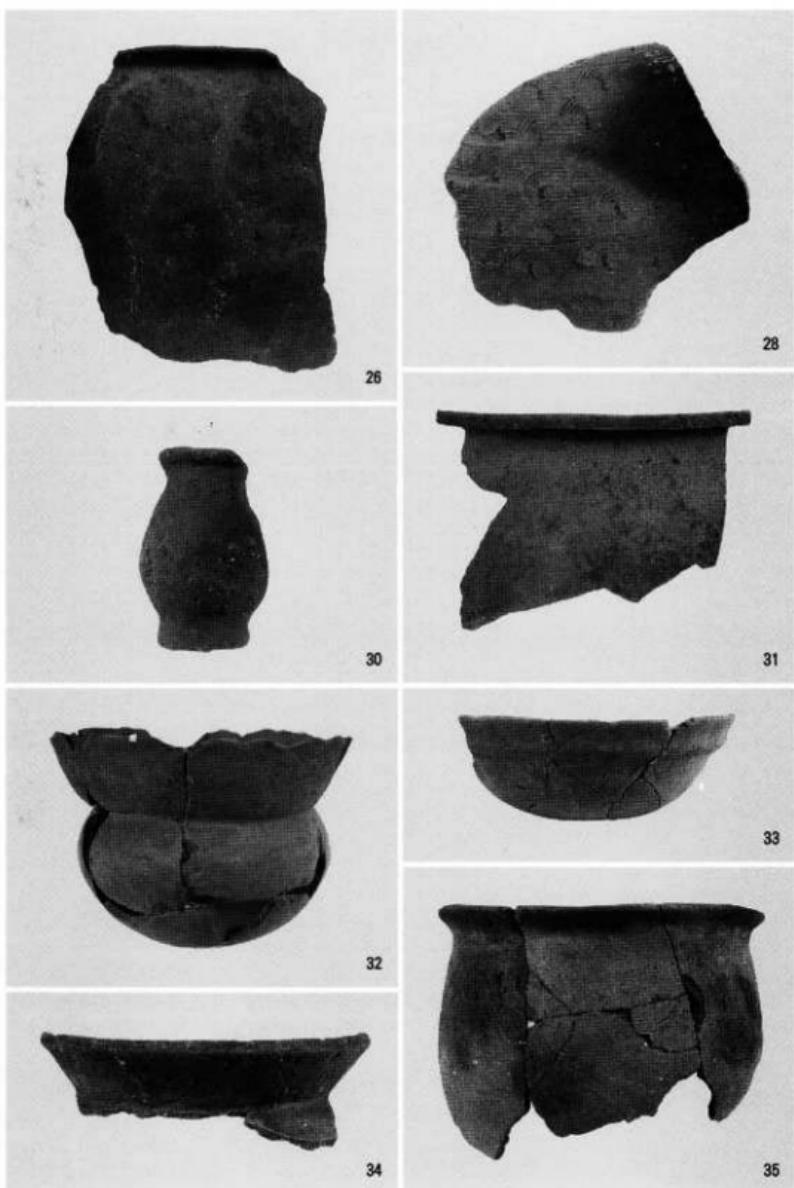
22



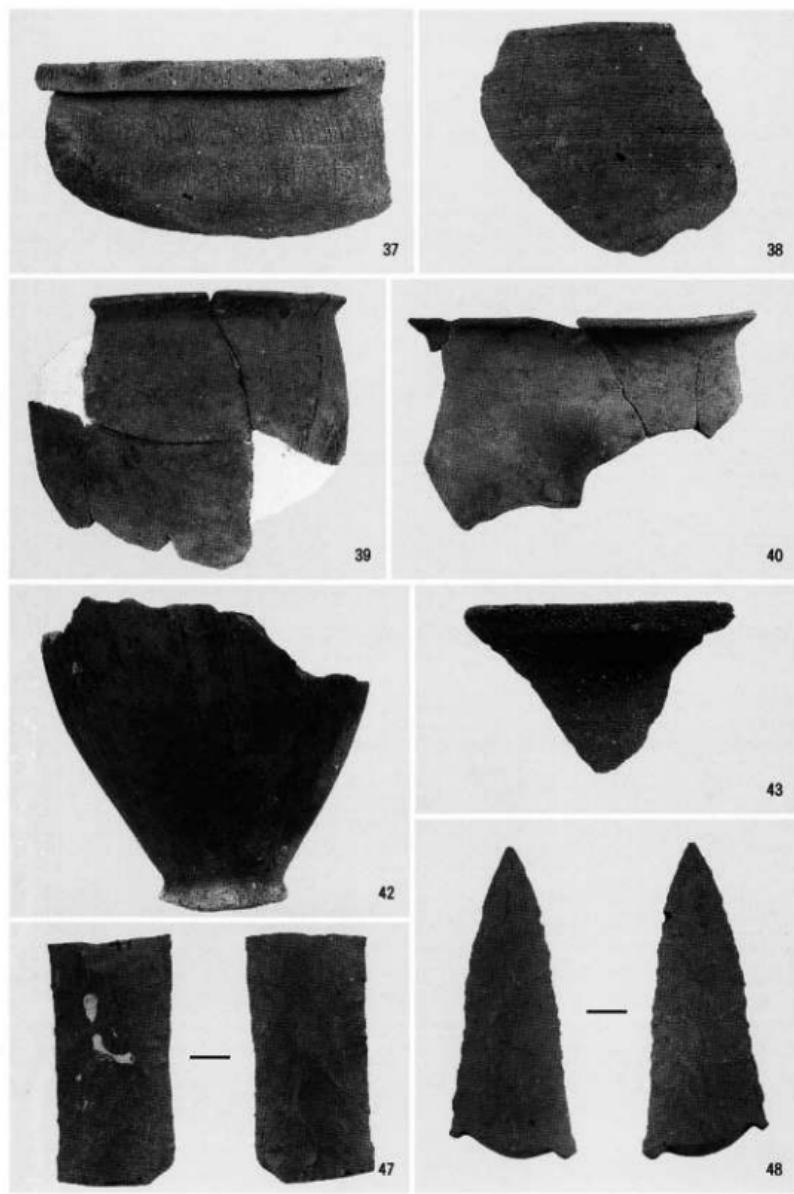
23



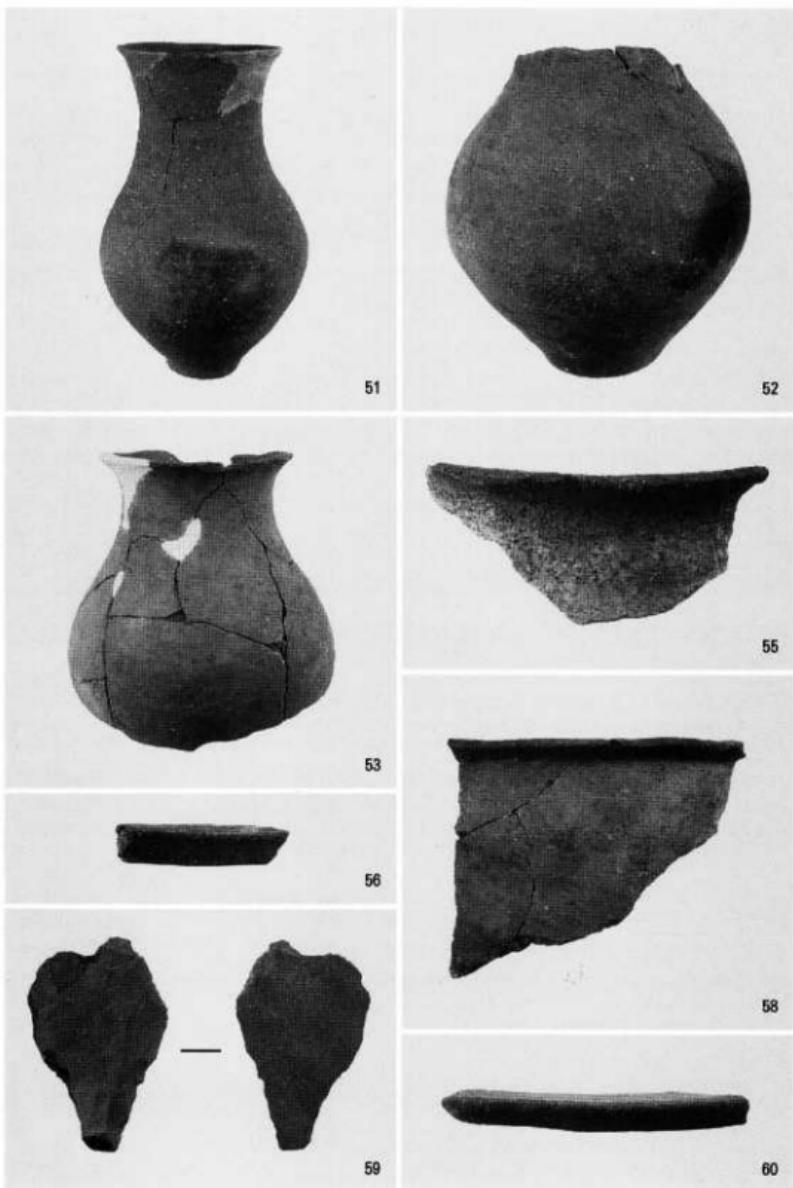
25



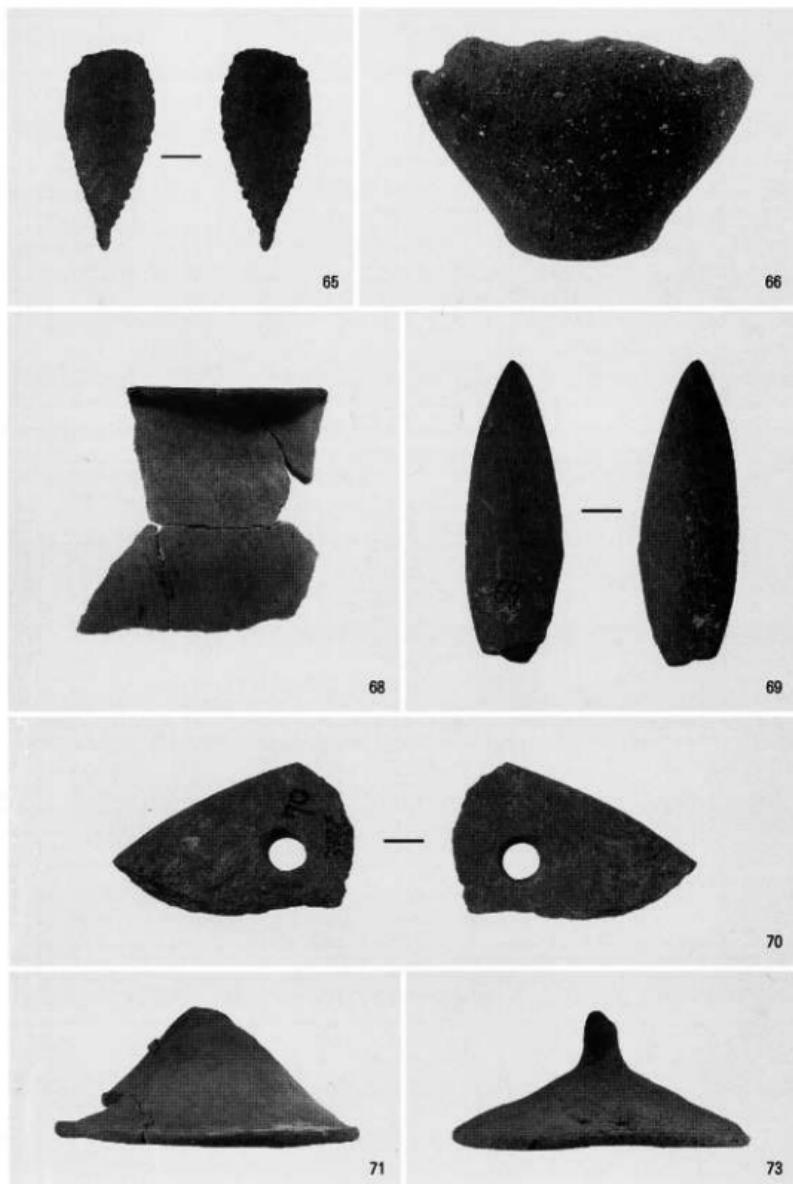
SE-4 (26) SE-5 (28) SE-6 (30・31) SE-7 (32~34) SK-1 (35) 出土遺物



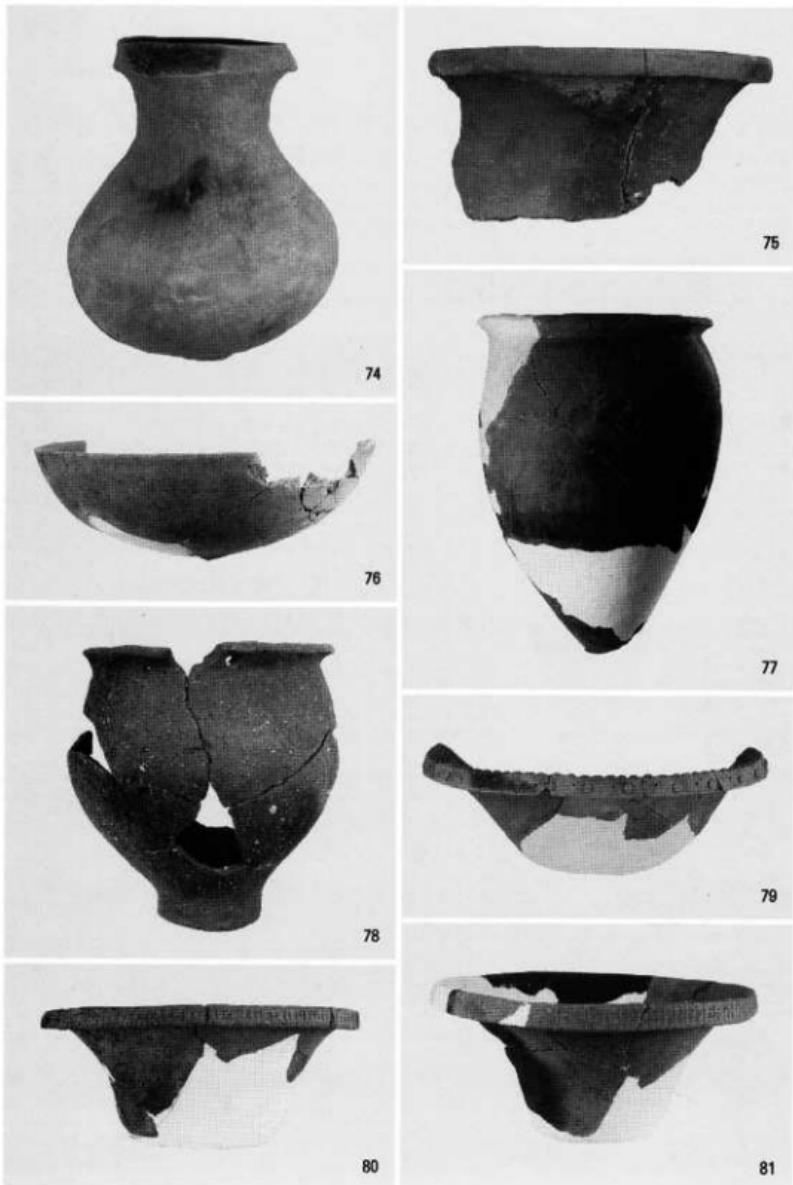
SK-3 (37) SK-5 (38~40) SK-9 (42) SK-10 (43·47·48) 出土遺物



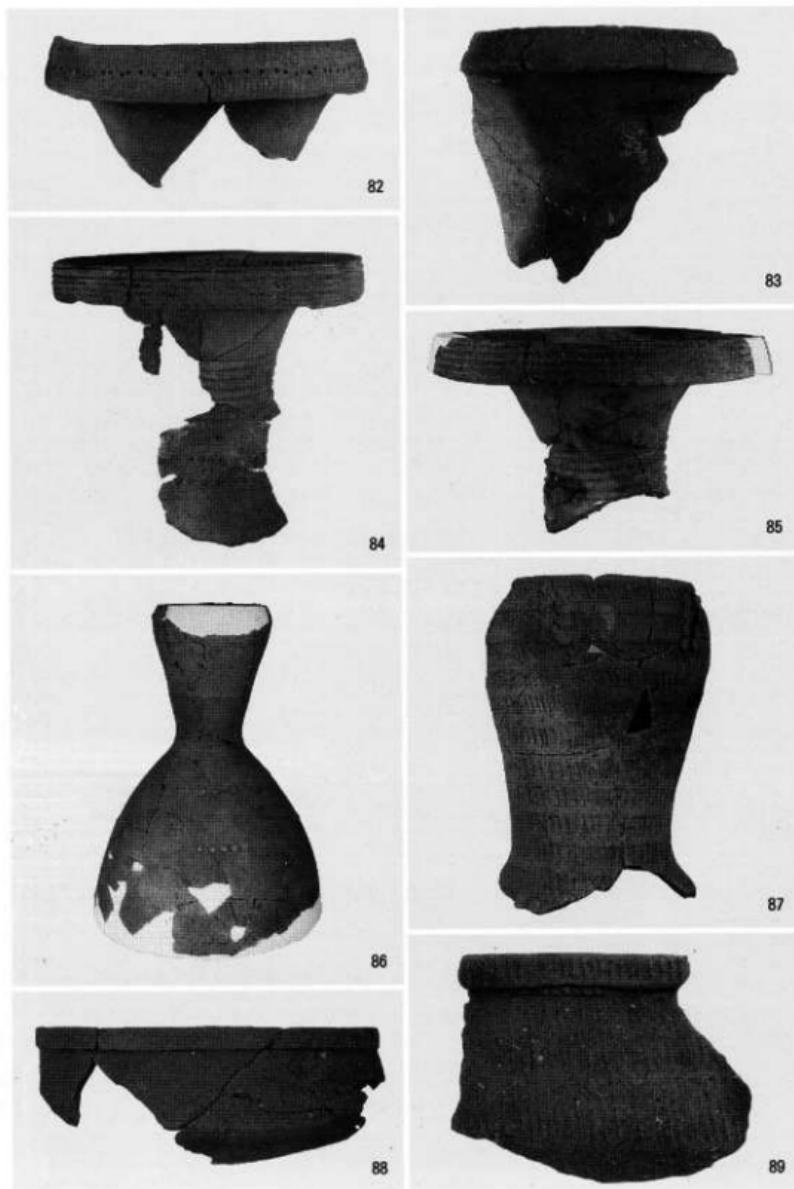
SK-14 (51~53・55) S I-2 (56・58・59) S I-3 (60) 出土遺物



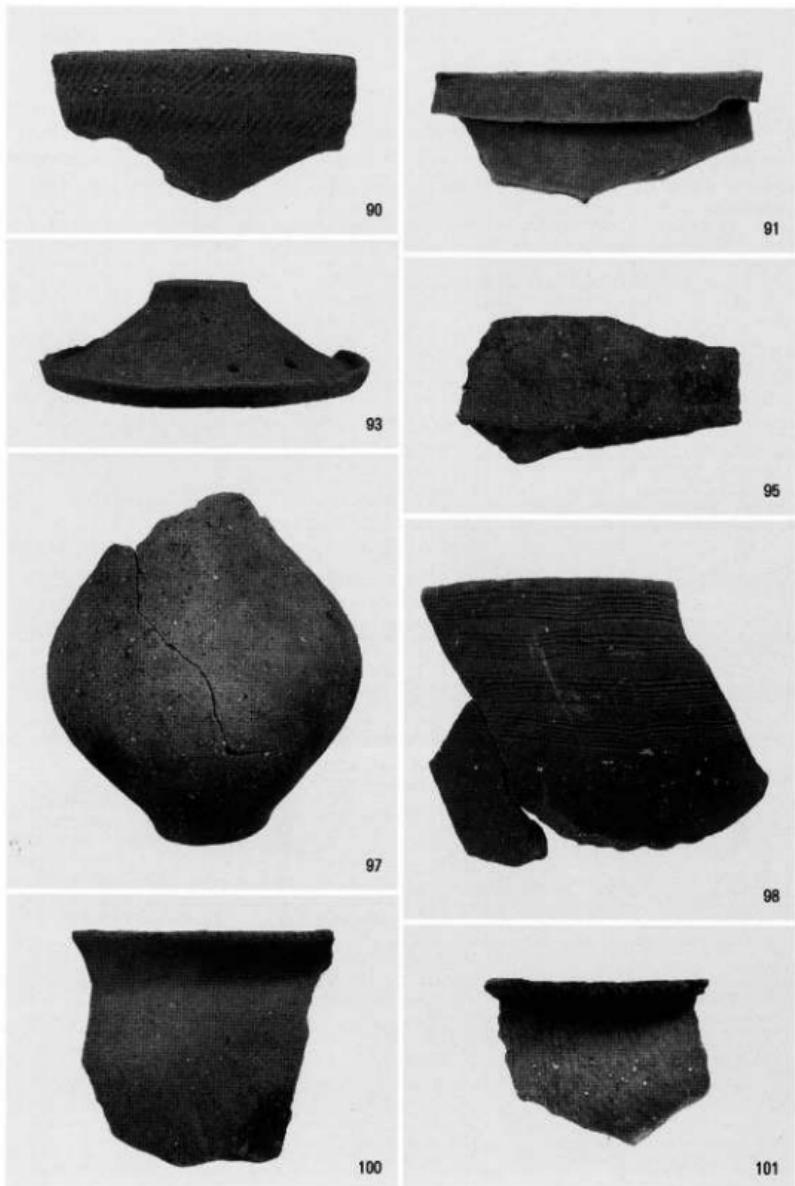
SP-29 (65) SP-37 (66) SP-71 (68・69) SP-105 (70) SP-182 (71) SD-1 (73) 出土遺物



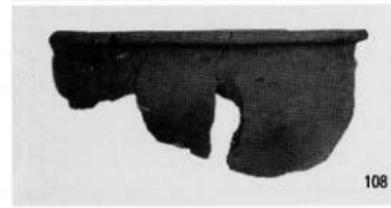
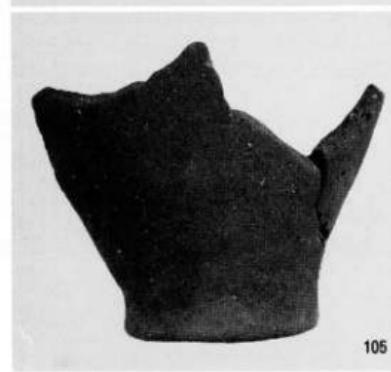
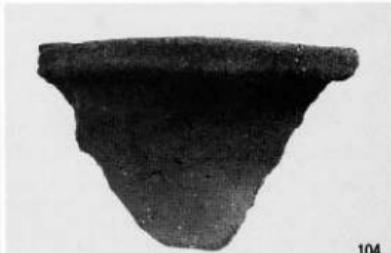
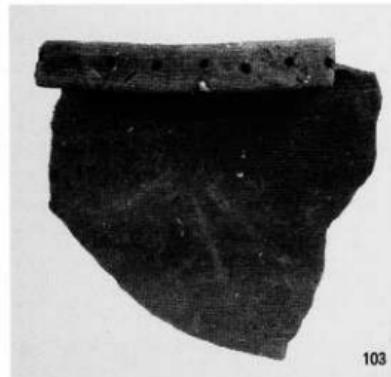
SD-1 (74~78) SD-2 (79~81) 出土遺物



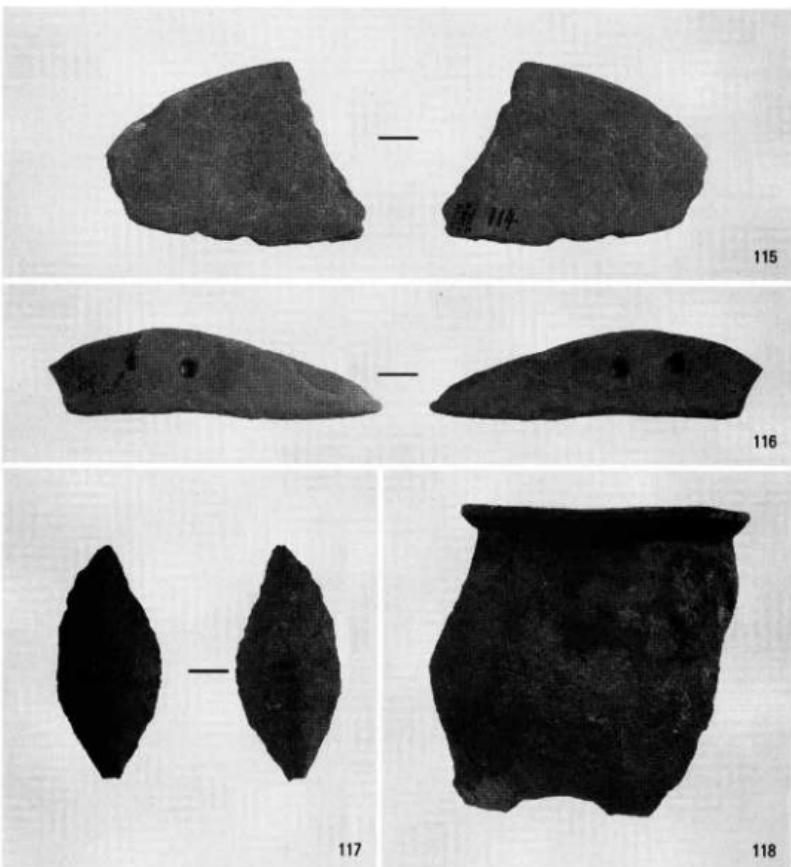
SD-2 (82~89) 出土遺物



SD-2 (90・91・93) SD-8 (95) SD-10 (97・98) SD-21 (100・101) 出土遺物



SD-22 (103) SD-24 (104~107) 第1層 (108・110・111) 出土遺物



第1層（115～118）出土遺物

VI 水越遺跡第3次調査(MK89-3)

## 例　　言

1. 本書は、大阪府八尾市水越181番地に所在する八尾市立高安中学校で実施した屋内運動場建て替えに工事に伴う水越遺跡第3次発掘調査（MK89-3）の報告書である。
1. 本調査は、八尾市教育委員会の埋蔵文化財調査指示書（八教社文第埋143号 平成元年1月24日付）に基づき、財団法人八尾市文化財調査研究会が、八尾市から委託を受けて実施したものである。
1. 現地調査は、平成元年6月26日から7月19日にかけて、高萩千秋・青木勘時を担当者として実施した。調査面積は、約451.6m<sup>2</sup>である。
1. 内業整理は、調査に並行して隨時を行い、平成9年3月に終了した。
1. 現地調査および内業整理に参加した調査補助員は以下のとおりである（五十音字順）。岡田聖一・小椋（岩本）多貴子・亀田（村田）英子・市森千恵子・西岡千恵子・中村百合・中谷嘉多
1. 方位は磁北である。図面の縮尺については、ことわりのないものに限り、遺構は100分の1、遺物は4分の1である。

## 本　文　目　次

第1章 はじめ	157
第2章 調査概要	158
第1節 調査の経過と方法	158
第2節 基本層序	159
第3節 検出遺構と出土遺物	159
第4節 出土遺物観察表	165
第3章 まとめ	168

## 挿 図 目 次

第1図 遺跡周辺図 .....	157
第2図 基本層序柱状図 .....	159
第3図 遺構平面図 .....	160
第4図 NR-1出土遺物実測図1 .....	162
第5図 NR-1出土遺物実測図2 .....	163
第6図 NR-1出土遺物実測図3 .....	164
第7図 遺構に伴わない出土遺物実測図 .....	164

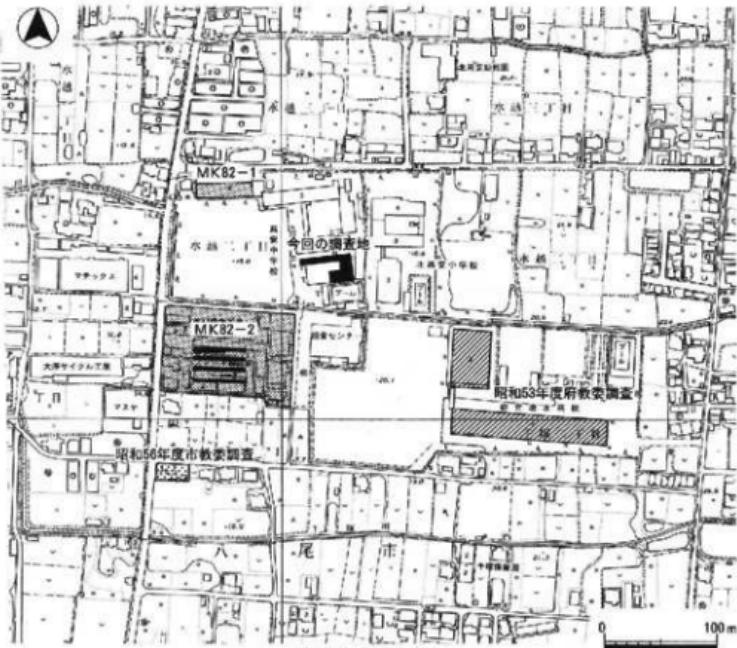
## 図 版 目 次

図版一 調査区東部（北から）	
調査区西部（西から）	
図版二 SK-1・SK-2（西から）	
NR-1断面（東から）	
図版三 出土遺物 NR-1	
図版四 出土遺物 NR-1	
図版五 出土遺物 NR-1	
図版六 出土遺物 NR-1、包含層	

## 第1章 はじめに

水越遺跡は、現在の行政区画では八尾市の北東部に所在する水越・千塚一帯に広がる縄文時代から中世に至る複合遺跡である。

当遺跡の地形は、生駒山地西麓の尾根から西に広がる扇状地の末端部（標高15～20m）にあたり、南を千塚川、北を上代川の両谷川に挟まれ、東西に幾筋かみられる小高い丘陵地状に形成された上に立地する。西側には旧大和川の沖積作用によって堆積した低平地が広がっている。当遺跡と同一扇状地には、南に恩智遺跡、北に大竹遺跡・太田川遺跡・楽音寺遺跡・花岡山遺跡などの縄文時代（一部で旧石器を出土しているが不明）からはじまる遺跡が連接している。また、古墳時代に築造された墳墓が現在でも多数残存し、その景観が今なおみられる。例えば、前期では西の山古墳・向山古墳・花岡山古墳、中期では心合寺山古墳・鏡塚古墳・中谷山古墳、後期では郡川東塚古墳・郡川西塚古墳、終末期に入ると群集墳で知られる高安古墳群をはじめとし、生駒山地西麓には大県古墳群・平尾山古墳群・山畠古墳群などが存在する。



第1図 遺跡周辺図

当遺跡の契機は、大正9年に清原得巣氏がふとしたことから石器を採集したことがきっかけである。その後も遺跡の南部にあたる千塚区域を中心に各種石器をはじめ、滑石製小玉及び同質整管玉の未製品などが採集されており、これらを清原氏が所蔵していることが確認された。また昭和9年2月当遺跡内の西方を南北に通る旧東高野街道の道路改修工事が行われた。この時、当調査地（市立高安中学校）の西側の字一里外にあたる地点で掘削された際、その地表下約60cmを測る土層（黒色土）内から弥生時代後期に比定される土器が発見されている。

その後、本格的な調査が実施されたのは、昭和53年度千塚地区内の府立清友高等学校新設工事に伴う発掘調査である。その調査の成果では縄文時代から鎌倉時代にいたる遺構・遺物が検出され、当遺跡に遺構の存在が確認された。さらにその後、当遺跡では現在（平成7年3月）までに4回の発掘調査（八尾市教育委員会1回・当調査研究会3回）が実施された。その結果、弥生時代中期の集落遺構をはじめ、縄文時代中期から鎌倉時代に至る遺構・遺物が検出されている。

## 第2章 調査概要

### 第1節 調査の経過と方法

今回の調査地は、南北に通る旧東高野街道から東に入る式内社の玉祖神社へ参道「松の馬場」の接点で、この南東部にあたる水越181番地内に所在する市立高安中学校の敷地内である。調査は八尾市施設課の計画事業である体育館建て替え工事に伴うもので、当調査研究会が当遺跡内で実施した第3次調査にあたる。

調査区は、市立高安中学校の南東部の敷地内でIH体育馆跡に新体育馆を新築するものである。調査区の設定はその計画地内で建設基礎工事によって破壊される部分を対象としたが、既設（IH体育馆）の基礎で破壊されている為、その部分は除外して設定することとなった。その結果、調査区は「逆L」字形で、東側に東西9.5m、南北24.3mを測る調査区、この調査区の南西角から西に延びる幅3.5m、長さ34.5mを測る調査区である。掘削については、八尾市教育委員会の試掘データに基づき、現地表下0.3mまでの機械掘削であったが、西側が深く落ち込んでおり、西部では最深約1.5mまで掘削した。また、東部では破壊されていない部分が若干残存しており、その部分については新たに追加して掘削した。

調査区の区割りは調査区の東部に任意の点を設定し、これを基点として調査区の方向に合わせて南北軸を設定した。そして調査区の東西50m、南北30mの範囲に10m方眼で区画した。区名は東西線が北から数字（1～5）、南北線は東からアルファベット（A～D）を付称し、北西部から1A～5D区と付して調査を進めた。なお、現地調査は平成元年度6月26日～7月19

日までの調査期間で、実働21日を要した。

## 第2節 基本層序

当調査区では現地表面から約2.7mまでに存在する土層内から普遍的にみられる6層を抽出して基本層序とした。現地表面は標高17.5mを測る。

### 第1層 盛土。層厚40~250cm。当中

学校の建設の際に整地された  
土層である。西側に行くに従  
い厚く堆積しており、西端で  
約250cmを測る。また旧体育  
館の基礎部分は大きく攪乱さ  
れている。

### 第2層 暗茶灰色細砂混粘土。層厚10

~20cm。この土層は近世の堆  
積で、東側にみられ、西側は  
造成によって削平されてない。

### 第3層 淡橙茶色粘質土。層厚60~80

cm。この上面から古墳時代前  
期の遺構が切り込んでいた。  
西部・南部の一部は攪乱され  
ている。

### 第4層 青灰色細砂混粘質土。層厚20

~30cm。

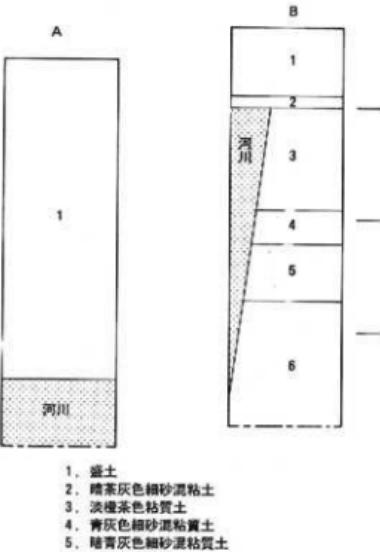
### 第5層 暗青灰色細砂混粘質土。層厚20~30cm。

### 第6層 黒灰色粘質土。層厚50~80cm。

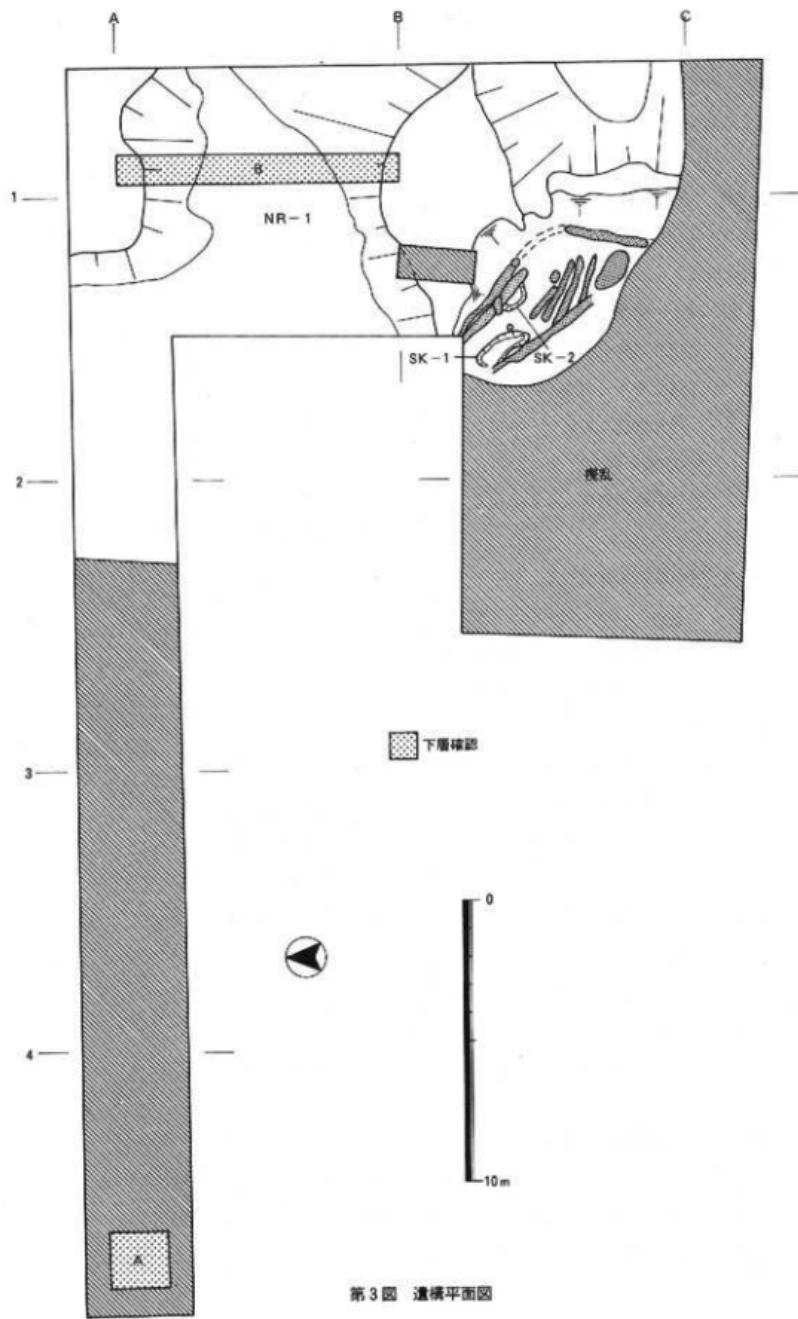
以上、当調査地内の層序である。このうち第3層上面が今回の調査面である。

## 第3節 検出遺構と出土遺物

第3層上面を調査対象面とした。調査区西部では削平されており、主に東側部分の調査となつた。調査の結果、弥生時代後期の土坑2基、古墳時代前期に比定される自然河川1条、近世の畦を検出した。下層確認の調査では時期不明の自然河川と思われる砂層を確認した。



第2図 基本層序柱状図



第3図 造構平面図

## 上坑 (SK)

## SK-1

調査区中央部 (3C区) で検出した。平面の形状は東西に長い梢円形を呈し、東西2m、南北0.6m、深さ15cmを測る。断面は浅い逆台形を呈し、内部には暗茶褐色細砂混粘質土が堆積している。遺物は内部から弥生時代後期末 (V様式) に比定される長頸壺の口縁部2片が出土した。

## SK-2

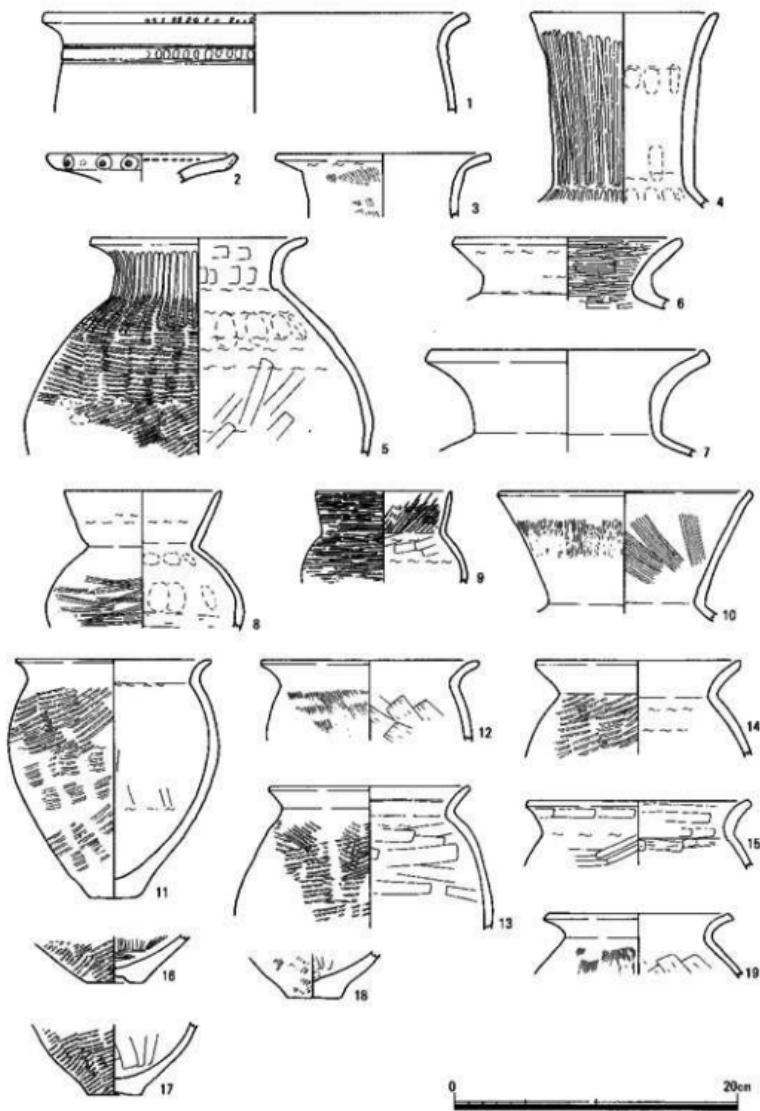
SK-1の東側隣接 (3C区) で検出した。北部は近世の溝によって切られており、平面形状は検出部で半円形を呈している。規模は東西1m、南北0.6m、深さ15cmを測る。断面は逆台形を呈し、内部には炭を少量含む淡灰褐色細砂混粘質土の一層が堆積している。遺物は出土していない。

## 河川 (NR)

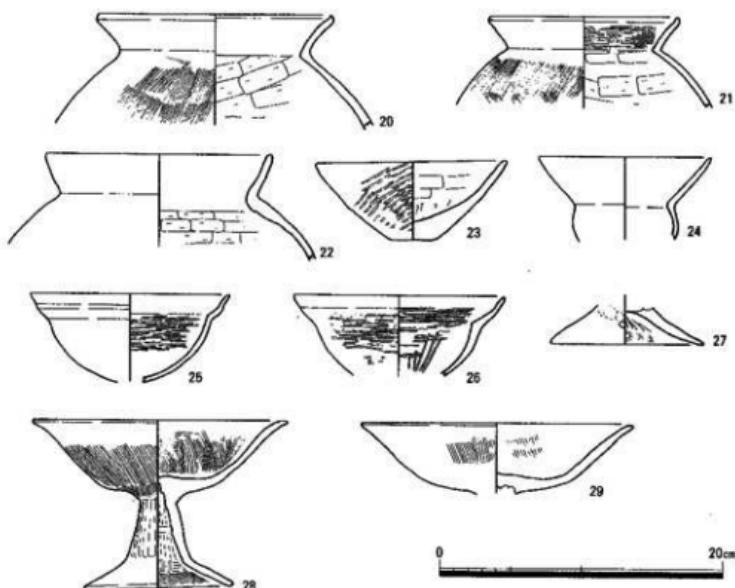
## NR-1

調査区の北部で検出した自然河川跡で、東から西へ流れをもつものである。幅7~10m、深さ3.5mを測り、断面は半円形を呈している。内部堆積土は砂礫を基調とし、その間にシルト及び粘土層が薄くサンド状に堆積している。底面付近では植物遺体が沈殿する黒灰褐色粘質土がみられ、緩やかな流れがあったことを示すものである。また、この堆積状況の観察から大きく3つに分けられ、大きな氾濫が3回以上あったことが窺える。最後の氾濫では河川から溢れた土砂 (砂礫) が調査区の南東部にまで堆積しているのを検出した。遺物は河川の堆積 (主に砂礫層) 内から縄文時代晚期・弥生時代前期・弥生時代後期 (V様式) ~古墳時代前期 (布留式新相) に比定される土器の破片が出土している。遺物量はコンテナにして約2箱分を数える。その中から図示できたものは40点である。第4図~第5図の1~29は河川の北部で出土したの遺物である。第6図の30~40は調査区南東部で検出した河川のオーバーフローした砂層内出土の遺物である。

河川の北部で検出した遺物は弥生時代前期新段階に比定される甕 (1)、弥生時代後期末に比定される壺 (2・3)・長頸壺 (4)・壺 (5~7)、古墳時代初頭に比定される壺 (8~10)・V様式系の甕 (11~18)・瀬戸内系の甕 (19)・鉢 (23)、庄内式新相の甕 (20・21)、布留式新相の甕 (22)・小型丸底壺 (24)・鉢 (25・26)・高环 (27~29) である。河川の縄文時代晚期の深鉢 (30)、古墳時代前期に比定される壺 (31~33)・小型丸底壺 (34・35)・小型台付壺 (36)・V様式系甕 (37)、庄内式新相の甕 (38・39)、布留式新相の高环 (40) である。



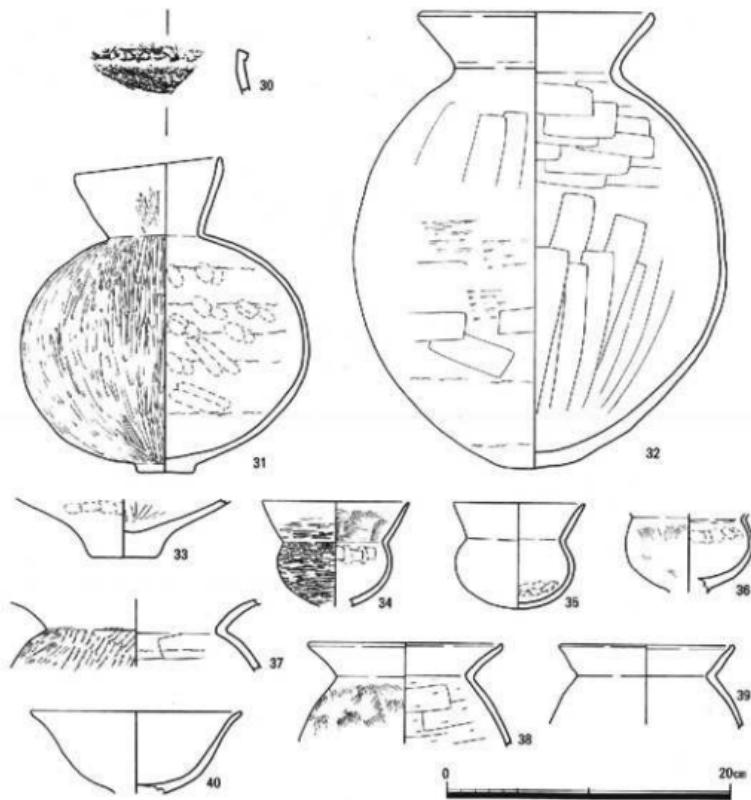
第4図 NR-1出土遺物実測図1



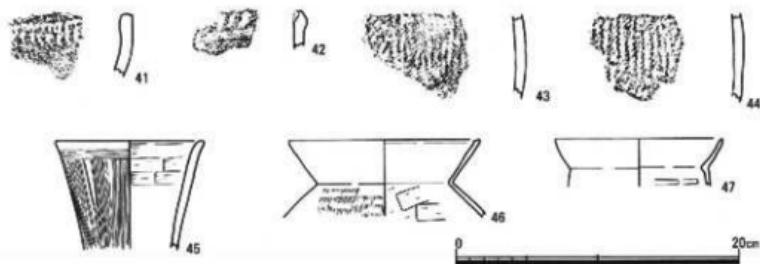
第5図 NR-1出土遺物実測図2

## 遺構に伴わない出土遺物

第2層～第6層から縄文時代～近世の遺物を少量出土している。縄文時代後期に比定される鉢形土器（41～44）、古墳時代前期（布留式古棺）に比定される長頸壺（45）・壺（46）・小型丸底壺（47）である。



第6図 NR-1出土遺物実測図3



第7図 遺構に伴わない出土遺物実測図

## 第4節 出土遺物観察表

遺物名号 図版番号	器種	法量 (cm) 器高 底径	調整・技法の特徴	色調	胎上	焼成	残存量	備考
1 三	壺 (土師器) NR-1	口径 29.8	口縁部外面ヨコナギで、 底部タケナギ。体部外面 ヨコナギ。二条の沈痕の 間に丸いヘラ状の押さえ を有す。	外乳灰茶色 内帶灰茶色	3mm以下の砂粒を 多量含む (長石・石英・赤 褐色酸化物)	良好	口縁1/5	
2 三	壺 (土師器) NR-1	口径 13.2	口縁上部外面ヨコナギで、 底部浮文有す。下部側 面の凸凹感不明顯、内面 ナギ。1周に円形圧紋を 有す。	茶褐色	5mm以下の砂粒を 多量含む (露母、 長石)	良好	1/12	
3 三	II径 15.0 同上		口縁上部外面ヨコナギで、 接合痕残存、上部ハケナ ゲ(6本)、内面磨耗の為 調整不規則。	乳褐色	5mm以下の砂粒を 多量含む (赤褐色 酸化物・長石)	良好	1/6	
4 三	長脚壺 (土師器) NR-1	口径 13.2	口縁上部外面ヨコナギで、 下部ハリミガキ。接合痕 残存、内面ナギ。体部外 面ハリミガキ、内面ナギ・ 接合痕・指痕跡残存。	茶灰色	3mm以下の砂粒を 多量含む (青斑、 角閃石・長石)	良好	口縁1/4	1/4
5 三	壺 (土師器) NR-1	口径 15.2 体部最大径 24.8	口縁上部外面ヨコナギ、 下部ハリミガキ。接合痕 残存。口縁部内面 ハリミガキ。体部上部ナ ギ・接合痕・接合痕残存、 下部ナギ後脱ナギ・ 接合痕残存。	外:茶褐色～茶 色 内:灰茶色	4mm以下の砂粒を 少量含む (長石、 角閃石・雲母)	良好	1/2	煤付着
6 三	同上	II径 16.0	口縁部内面ナギ・接合痕 残存、内面ハリミガキ。 体部内面ハリミガキ、内 面ハリミナギ。	茶褐色	6mm以下の砂粒を 多量含む (長石、 青斑)	良好	1/4	煤付着
7 三	同上	口径 19.4	口縁部外面ヨコナギ、 他タキ(4本)・接合痕、 脂痕跡或存。口縁部内 面ハリミガキ。体部上部ナ ギ・接合痕・接合痕残存、 下部ナギ後脱ナギ・ 接合痕残存。	茶褐色	4.5mm以下の砂粒 を含む (赤褐色 酸化物・長石・雲母)	良好	1/6	
8 三	同上	口径 11.0	口縁部内面ともにヨコ ナギ・接合痕残存。体部 外面ヨコナギ、毛ハ ケナギ。内面ナギ・施釉 痕跡残存。下部ハリミ ガキ。	茶灰色	6mm以下の砂粒を 少量含む (岩目・ 長石・角閃石)	良好	1/2	煤付着
9 三	II径 9.6 同上		口縁部外面ハリミガキ。 内面ハケナギ後ハリミガ キ。体部外面ハケナギ後 ハリミガキ。内面ハリナ ギ・接合痕残存。	淡褐灰色	2mm以下の砂粒を 少量含む (長石・ 赤褐色酸化物)	良好	1/4	煤付着
10 三	同上	口径 17.6	II線上部内外面ともにヨ コナギ。中部外面ハケナ ギ、内面ヨコナギ後ハ ケナギ。下部内外面ヨコナ ギ。体部外面ハケナギ、 内面ヨコナギ。	暗茶灰色	3.5mm以下の砂粒 を含む (長石・雲 母)	良好	口縁元形	
11 三	壺 (土師器) NR-1	口径 12.8 器高 16.9 底径 3.4	口縁部外面ヨコナギ、内 面白坂ナギ。体部の内面タ キ(3本)・接合痕、内面 ハラナギ・ナギ・接合痕 残存。	茶褐色	4mm以下の砂粒を 多量含む (長石・ 赤褐色酸化物)	良好	1/2	煤付着
12 四	同上	II径 15.2	口縁部外面ともにヨコ ナギ。体部外面ハケナ ギ(7本)、内面ナギ。	茶灰色	8mm以下の砂粒を 多量含む (長石・ 角閃石・雲母)	良好	口縁1/6	
13 四	同上	II径 14.0	口縁部外面ともにナギ。 体部外面タキ(3本)、内 面ハラナギ・接合痕残存。	茶褐色	7mm以上の砂粒を 多量含む (長石・ 雲母)	良好	口縁元形	煤付着

植物番号 採取番号	岩種	法量 (cm)	口徑 高さ	調査・技法の特徴	色調	胎土	焼成	残存量	備考
14 四	巣 (上部巣) NR-1	口径	14.4	口縫部内外面ともにヨコナデ。体部外面タタキ(3本)、内面ナデ・接合痕残存。	茶灰色	4mm以下の砂粒を多量含む(良石・黒母)	良好	1/4	
15 四	同上	口径	18.6	口縫上部外面ヘタナデ、下部ヨコナデ、内面ヘラナデ。体部外面ヘタナデ・接合痕残存。内面ヘラケズリ・接合痕残存。	茶灰色	4mm以下の砂粒を多量含む(良石・黒母)	良好	1/2	
16 四	同上	底径	3.8	体部外面タタキ(3本)、内面ヘラミガキ。	茶灰色	4mm以下の砂粒を多量含む(良石・黒母)	良好	底部完形	
17 四	同上	底径	3.8	体部外面タタキ(3本)、内面ヘラナデ。	茶灰色 内面灰茶色	4mm以下の砂粒を多量含む(良石・黒母)	良好	底部完形 黒斑有り	
18 四	同上	底径	3.5	体部外面タタキ後ナデ、内面ヘラナデ、武面ナデ。	淡茶灰色	3mm以下の砂粒を少量含む(良石・黒母)	良好	底部完形	
19 (上部巣) NR-1上	口径	12.8	口縫部内外面ともにヨコナデ。体部外面ヨコナデ(3本)、内面上面ヨコナデ、他ヘラケズリ。	茶灰色	3mm以下の砂粒を含む(良石・黒母)	良好	1/3		
20 四	同上	口径	16.6	口縫部内外面ともにヨコナデ。体部外面ヨコナデ(3本)、内面ヘラケズリ・接合痕残存。	淡茶灰色	2mm以下の砂粒を含む(良石・黒母)	良好	1/6	
21 四	同上	口径	18.4	口縫部外面ヨコナデ、内面ヨコナデ、他ハケナデ(3本)、体部外面ハケナデ(7本)、内面ヘラナデ・ヘラケズリ。	淡茶灰色	5mm以下の砂粒を含む(良石・黒母)	良好	1/2	
22 四	同上	口径	15.8	口縫部内外面ともにヨコナデ。体部外面剥離の為調査不明瞭、内面ヘラケズリ。	外淡褐色 内淡茶灰色	7mm以下の砂粒を多量含む(良石・黒母)	良好	口縫1/4	
23 四	林 (土脚巣) NR-1上	口径 底高 底径	12.4 5.6 2.8	外面タタキ(2本)、内面ヘラナデ・ナデ。	茶褐色	3.5mm以下の砂粒を多量含む(角閃石・黒母・良石)	良好	3/5	
24 五	小型丸底巣 (上部巣) NR-1上	口径	12.2	口縫部内外面ともにヨコナデ。体部外面ヨコナデ、内面ナデ。	暗褐色	3mm以下の砂粒を含む(暗褐色化粧粒・良石)	良好	1/4	
25 四	林 (上部巣) NR-1上	口径	14.2	口縫部内外面ともにヨコナデ。体部上面ヨコナデ・他焼失の為調査不明瞭、内面ヘラミガキ・ナデ。	淡褐色	2mm以下の砂粒を少量含む(良石・黒母・チャート)	良好	1/4	
26 五	同上	口径	15.0	口縫部内外面ともにヨコナデ・接合痕残存。体部外面ともにヘラミガキ・接合痕残存。	茶褐色	1mm以下の砂粒を少量含む(良石)	良好	口縫1/8	黒斑有り
27 五	高环 (上部巣) NR-1上	底径	19.7	体部外面ヘタナデ後ナデ・接合痕残存、内面ヘラ押さえ・ハケナデ、内面上部にヘラによる十字の切り込みを有す、四方孔有す。	暗茶褐色	3mm以下の砂粒を微量含む(良石・良石)	良好	底部完形	
28 五	同上	口径 器高 底径	17.9 12.1 10.2	口縫部内外面ともにヨコナデ。体部外面ヘナデ(上本)(下本)、内面ハケナデ(6本)・ナデ。柱状部外面ヘタナデ・接合痕、内面しづり目。體部外面ナデ、内面ハケナデ(6本)。	茶褐色	4mm以下の砂粒を多量含む(良石・黒母)	良好	1/2	側付有り

遺物番号 図版番号	名 称	法線 (cm)	口径 (cm)	調整・枝度の特徴	色 製	胎 土	焼成	残存量	備 考
29 高杯 (土器部) NR-1上			口径 19.0	口縁部内外面とともにヨコナデ。体部内外面ハケナダ。(6本)。	淡灰茶褐色	5mm以下の砂粒を多量含む(長石・雲母)	良好	環部1/2	黒斑有り
30 深鉢 (土器部) NR-1 五				外表面部へ口縁キザ(目)、側ナデ、内面ナデ。	暗灰褐色	3mm以下の砂粒を多量含む(長石・角閃石・雲母)	良好	一部	
31 盞 (土器部) NR-1 五		II径 10.2 高さ 3.8 最大径20.3	口径 10.2 高さ 3.8 最大径20.3	口縁部外面ヨコナデ後ヘラミガキ、内面ヨコナデ。接着痕有り。体部外表面ヘラミガキ、内面ナデ・接合痕・指捺痕無存。底ナデ。	淡灰茶褐色	6mm以下の砂粒を多量含む(長石・雲母・角閃石)	良	丸形	焼付着
32 同上 五		II径 16.0 高さ 32.7 最大径26.2	口径 16.0 高さ 32.7 最大径26.2	口縁部外面ヨコナデ、内面表面の凸凹感不明顯。体部外表面タキ抜ヘラミガキ、接合痕、内面ヘラミガキ。	外:乳灰茶色 内:乳灰茶色	5mm以下の砂粒を多量含む(長石・赤褐色酸化物)	良好	完形	黒斑有り
33 同上 五		底径 4.2		内外面磨擦の為面感不明顯、外側に指捺痕残存、内面にヘリ押さえ有り。	外:淡灰茶褐色 内:淡灰茶色	4mm以下の砂粒を多量含む(角閃石・長石・雲母)7mmの石一つ含む	良	底部丸形	黒斑有り
34 小平丸底盞 (土器部) NR-1 五		II径 10.4	口径 10.4	口縁部外面ヘラミガキ、内面ハケナデ(11本)。体部外表面ハケナデ後ヘラミガキ、内面ヨコナデ・ナデ・指捺痕無存。	淡灰茶褐色	1mm以下の砂粒を多量含む(長石・雲母)	良好	1/8	
35 同上 五		II径 9.2 高さ 7.0	口径 9.2 高さ 7.0	口縁部内外面とともにヨコナデ。体部内外面ともにナデ。内面に指捺痕残存。	淡灰明茶色	4mm以下の砂粒を多量含む(長石・雲母・角閃石・赤褐色酸化物)	良好	ほぼ完形	
36 小平斜付盞 (土器部) NR-1 五		最大径9.0	口径 9.0	体部外表面ハケナデ、内面ナデ・接合痕・指捺痕残存。	乳灰茶色	4mm以下の砂粒を多量含む(長石・雲母・赤褐色酸化物)	良好	环体斜完形	
37 盞 (土器部) NR-1 五			口径 13.8	口縁部内外面ともにヨコナデ。体部外表面タキナデ(10本)、内面ヘラキナデ・接合痕残存。	外:淡灰茶色 内:淡灰茶色～黄灰茶色	4mm以下の砂粒を多量含む(長石・雲母・赤褐色酸化物)	良	II幅1/8	
38 同上 五			口径 12.3	口縁部内外面ともにヨコナデ。体部外表面ハケナデ、内面剥離の為調整不明顯。	淡灰茶色	2mm以下の砂粒を少量含む(長石・雲母)	良好	II幅1/4	焼付着
40 高杯 (土器部) NR-2 六		口径 14.8		内外面ともに耗耗の為調整不明顯、内面一部にヨコナデ残存。	明茶褐色	2mm以下の砂粒を少量含む(長石・雲母)	良好	环部1/2	
41 甕 (土器部) 包含層 六				口縁部キザ(目)、外面弧形文。?、内面ナデ。	外:淡灰茶褐色 内:乳灰茶色	4mm以下の砂粒を少量含む(長石・雲母・角閃石・赤褐色酸化物)	良好	部	
42 鉢 (土器部) 包含層 六				内面ナデ、口縁部外側ヨコナデ。他ヨコナデ。	暗灰茶褐色	3mm以下の砂粒を少量含む(長石・角閃石・雲母)	良好	一部	
43 同上 六				外表面目、内面ナデ。	淡灰茶褐色	2mm以下の砂粒を多量含む(長石・雲母・石英)	良好	一部	
44 同上 六				外表面目、内面ナデ。	淡灰茶褐色	2mm以上の砂粒を多量含む(長石・雲母・石英)	良好	一部	

遺物番号 国登番号	器種	法長 (cm)	口径 cm)	調整・技術の特徴	色調	胎上	焼成	残存量	備考
45 —	長頸袋 (土瓶器) 包含層	口径 10.4	—	口縁部外面部ヨコナデ・ 板ナゲ・他ハケナゲ(7 本)、内面板ナゲ・ナゲル	茶褐色	2mm以下の砂粒を 少量含む(長石・ 板石)	良好	白羅1/6	
46	—	口径 13.6	—	口縁部外面部ともにヨコ ナゲ。体部外面部耗耗の為 調査不可観、内面ヘラケ ズリ。	茶褐色	1mm以下の砂粒を 含む(長石)4mm の右一つ含む	良好	1/3	
47	壺 (土瓶器) 台古層	口径 11.8	—	口縁部外面部ともにヨコ ナゲ。体部外面部ヨコナゲ。 内面ヘラケナゲ。	茶褐色	2mm以下の砂粒を 少量含む(長石・ 雲母。赤褐色酸化 鉄)	良好	1/4	

### 第3章 まとめ

今回の調査地は、市立高安中学校の敷地内の南東部にあたる旧体育馆跡で、調査区の大部分が既往の基礎工事により削平を受けていた。調査では僅かに免れた部分及び旧体育馆跡以外で、新設される体育馆の基礎部分を対象とした調査であった。

調査の結果、绳文時代後期～古墳時代前期に至る遺物を含む自然河川跡、弥生時代後期末に比定される土坑が検出された。河川跡は生駒山西麓から西へ広がっている扇状地に形成されたもので、河川の断面や堆積状況から数回の大きな洪水にみまわされている様子が観察できた。また河川の深さからみて長期間の間、川としての機能があったと思われる。河川の機能が停止したのは最終的に古墳時代前期(布留式古柏)ごろの洪水によるもので、調査区の南東部には河川から溢れ出た砂がみられた。

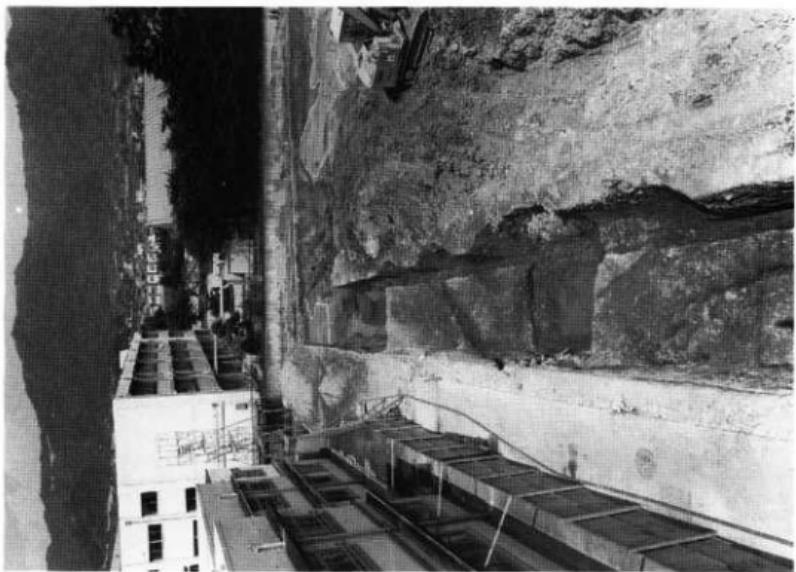
#### 参考文献

- ・西村公助 1983「第2章 水越遺跡発掘調査概要報告」『八尾市埋蔵文化財発掘調査概要 昭和56・57年度』(財)八尾市文化財調査研究会(財)八尾市文化財調査研究会報告3
- ・高萩千秋 1983「7. 水越遺跡」『昭和57年度における埋蔵文化財発掘調査—その成果と概要—』(財)八尾市文化財調査研究会
- ・米田敏幸 1989「8. 水越遺跡(63-196)の調査』『八尾市内遺跡昭和63年度発掘調査報告書Ⅱ』八尾市教育委員会 八尾市文化財調査報告20 昭和63年度公共事業
- ・近江俊秀 1989「9. 水越遺跡(63-354)の調査』『八尾市内遺跡昭和63年度発掘調査報告書Ⅱ』八尾市教育委員会 八尾市文化財調査報告20 昭和63年度公共事業
- ・高萩千秋 1989「I. 水越遺跡(第1次調査)」『八尾市埋蔵文化財発掘調査報告—水越遺跡・竹洞遺跡・恩智遺跡—』(財)八尾市文化財調査研究会報告23
- ・西村公助 1990「8. 水越遺跡(MK89-02)」『八尾市文化財調査研究会年報 平成元年度』(財)八尾市文化財調査研究会報告28 平成4年度公共事業
- ・吉田野々 1991「7. 水越遺跡(90-559)の調査』『八尾市内遺跡平成2年度発掘調査報告書Ⅰ』八尾市教育委員会 八尾市文化財調査報告22
- ・高萩千秋 1992「31. 水越遺跡第4次調査(MK91-04)」『平成3年度(財)八尾市文化財調査研究会事業報告』(財)八尾市文化財調査研究会
- ・吉田野々 1994「15. 水越遺跡(92-602)の調査』『八尾市内遺跡平成5年度発掘調査報告書Ⅰ』八尾市教育委員会 八尾市文化財調査報告29 平成5年度国庫補助事業

図 版



調査区東部（北から）



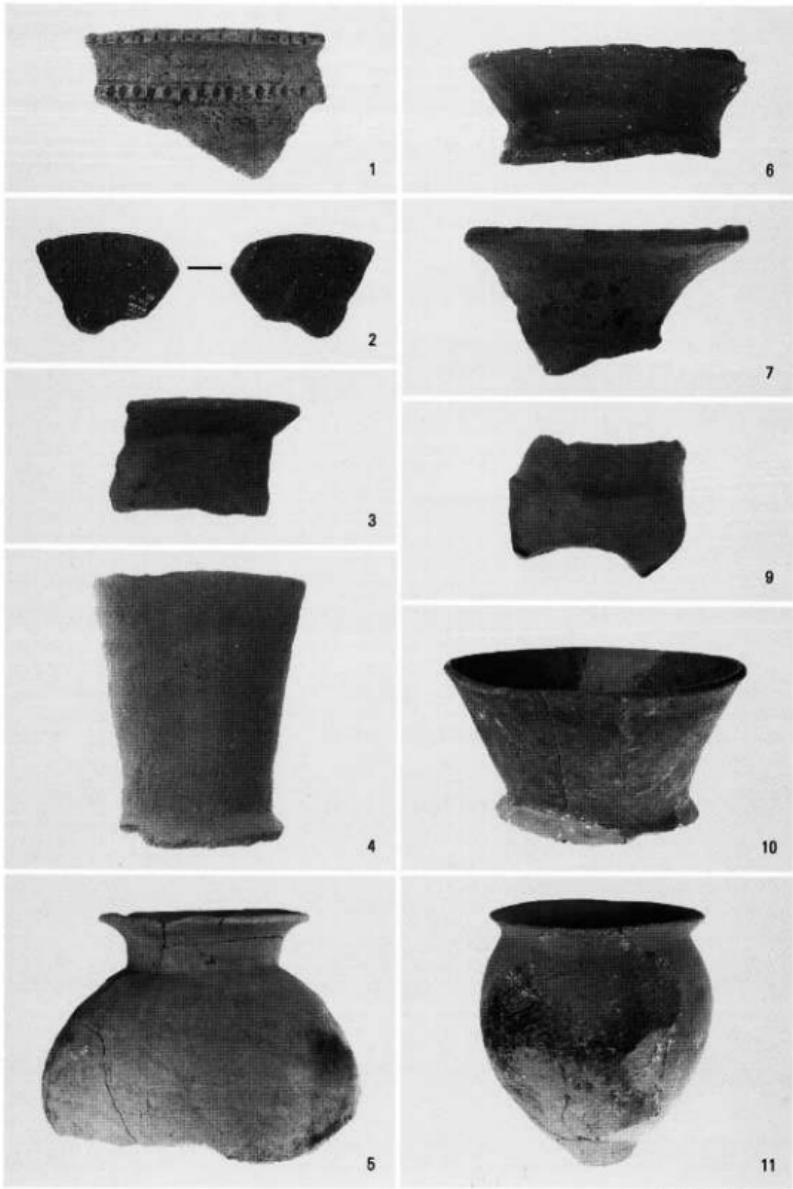
調査区西部（西から）



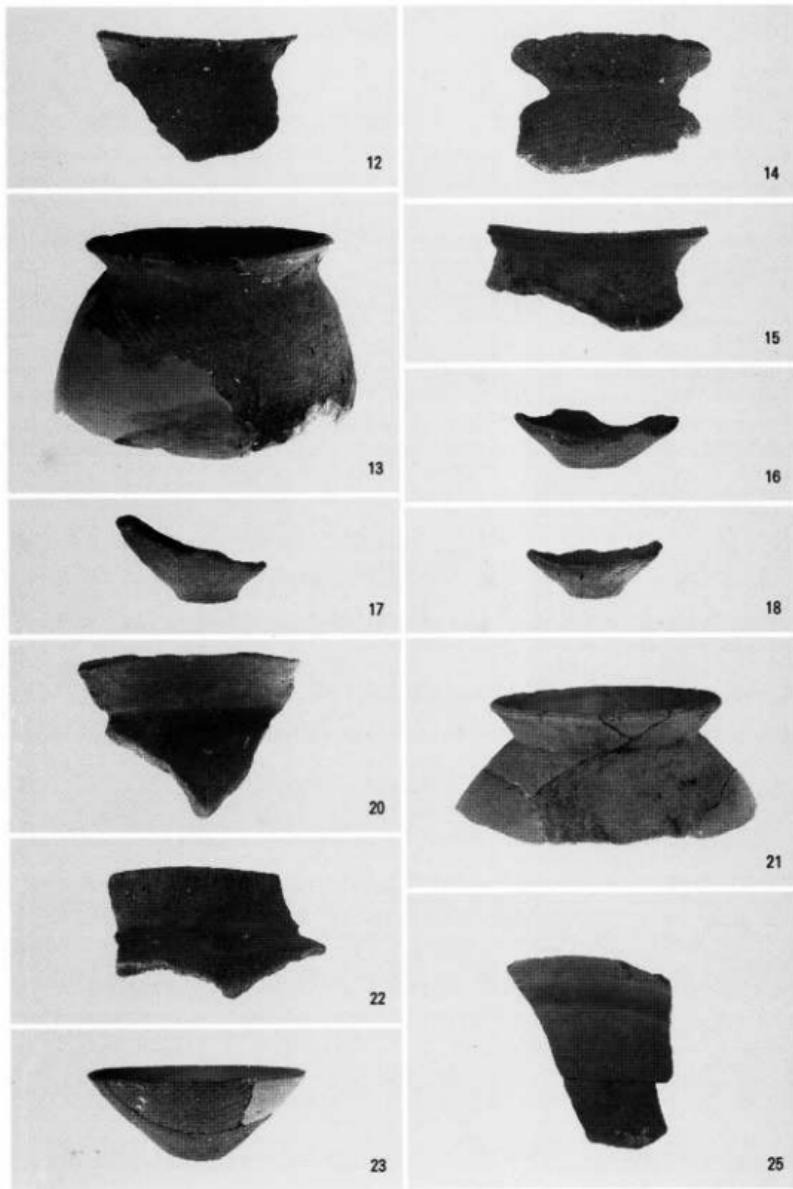
SK-1・SK-2（西から）

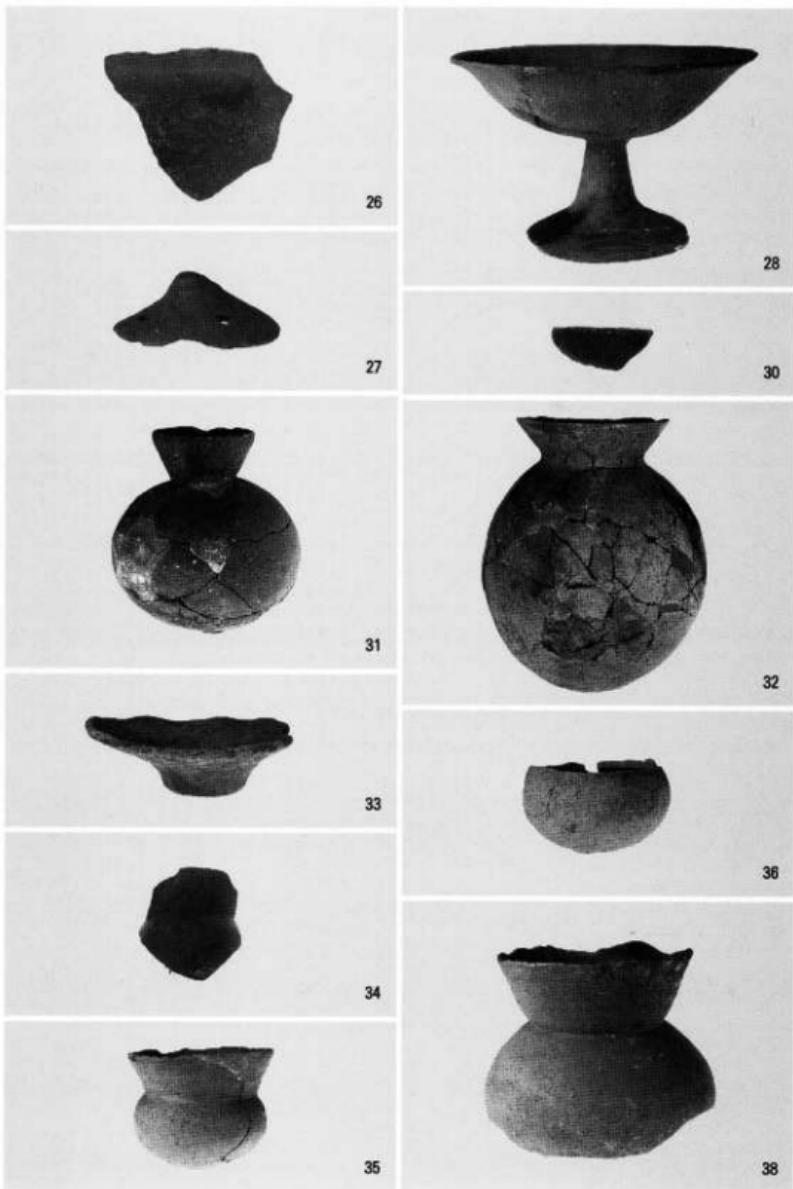


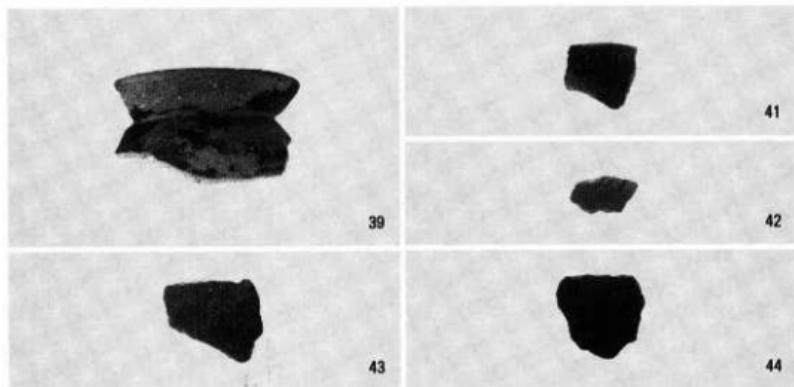
NR-1断面（東から）



出土遺物 NR-1







出土遺物 NR-1 (39)、包含層 (41~44)

ふりがな	さいだんはうじん やおしんかざいちょうさけんきゅうかいはうこく87
書名	財團法人 八尾市文化財調査研究会報告 87
調査名	I 恩智遺跡(第7次調査) II 郡川遺跡(第1次調査) III 神宮寺遺跡(第1次調査) IV 花岡山遺跡(第2次調査) V 水越遺跡(第2次調査) VI 水越遺跡(第3次調査)
番号	
シリーズ名	財團法人 八尾市文化財調査研究会
シリーズ番号	87
調査者名	I~IV 成海伸子 V 原田昌樹 VI 岸田一 V 西村公助 VI 高橋千秋
編集者名	財團法人 八尾市文化財調査研究会
所在地	〒581 八尾市本町4-58-2
発行年月日	西暦1997年3月31日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 (af)	調査原因
若人町 恩智遺跡 (第7次調査)	やおしおんちきさのまち 八尾市恩智北町4-550	27212	34度 36分 25秒	135度 38分 6秒	1992年6月9日～ 1992年6月7日	860	原内運動場建設に伴う発掘調査
こおりがわ 郡川遺跡 (第1次調査)	やおしくるだに 八尾市風呂谷474	27212	34度 37分 1秒	135度 38分 27秒	1990年3月6日～ 1990年3月13日	60	河川改修工事に伴う発掘調査
じんぐうじ 神宮寺遺跡 (第1次調査)	やおじんぐうじ 八尾市神宮寺町1丁目179の一部・180	27212	34度 35分 55秒	135度 38分 6秒	1993年4月6日～ 1993年5月27日	320	共同住宅建設に伴う発掘調査
ほなおかやま 花岡山遺跡 (第2次調査)	やおしおかやまくおんじ 八尾市人字楽寺637番地	27212	34度 38分 19秒	135度 38分 59秒	1991年7月3日～ 1991年7月24日	200	学校施設建設に伴う発掘調査
みずこし 水越遺跡 (第2次調査)	やおしおしづづか 八尾市下坂170番地	27212	34度 37分 47秒	135度 38分 23秒	1990年5月16日～ 1990年6月21日	527	工場建設に伴う発掘調査
みずこし 水越遺跡 (第3次調査)	やおしおしづづか 八尾市木越181番地	27212	34度 37分 45秒	135度 38分 21秒	1989年6月6日～ 1989年7月19日	451.6	体育館建設に伴う発掘調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺物	特記事項
恩智遺跡 (第7次調査)	集落	平安時代 中世	土坑5・小穴1・溝1 井戸1・土坑9・溝2	縄文土器～弥生土器・サヌガイト片
郡川遺跡 (第1次調査)	集落	古墳時代中期	溝2	須恵器・土葬器・韓式土器・ふいごの形口・製塼土器・馬頭
神宮寺遺跡 (第1次調査)	墓葬	弥生時代中期 古墳時代後期 奈良時代	土器2・土坑7・溝6・小穴14・ 馬蹄2・河川1 十坑1・溝2・河川1 井戸1・溝4・小穴4	弥生土器 (IV・V様式)・ 十脚器・須恵器・瓦・鐵製品 (刀子・ 釘)・米袋 (柴米通字一初 號1699年)
花岡山遺跡 (第2次調査)	集落	中世	土坑16・溝4・小穴15・落ち込み1	土器器・須恵器・瓦器・陶 瓶器・丸・鉄製品 (刀子・ 釘)・米袋 (柴米通字一初 號1699年)
水越遺跡 (第2次調査)	集落	桃文時代中期 奈良時代中期	河川1 溝3・井戸6・土坑14・小穴185・ 溝24	縄文土器・須恵器・奈生土器 (第3様式) の灰・ 甕・瓶
		古墳時代後期	井戸1	
		小径	溝2	
水越遺跡 (第3次調査)	集落	奈良時代後期 古墳時代前期	土坑2 河川1	縄文土器・弥生土器 (第V 様式)・ 青銅土器

財團法人 八尾市文化財調査研究会報告57

- I 恵智遺跡（第7次調査）
- II 郡川遺跡（第1次調査）
- III 神宮寺遺跡（第1次調査）
- IV 花岡山遺跡（第2次調査）
- V 水越遺跡（第2次調査）
- VI 水越遺跡（第3次調査）

発行 1997年3月31日

編集 財團法人 八尾市文化財調査研究会  
〒581 大阪府八尾市幸町4丁目58-2  
TEL 0729-94-4700

印刷 明新印刷株式会社

表紙 レザック66（70kg）  
本文書用紙（70kg）  
図版 マットアート（135kg）

